

静岡県立美術館年報

平成18年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF
ART
2006

静岡県立美術館年報
平成18年度

ANNUAL REPORT OF
SHIZUOKA PREFECTURAL MUSEUM OF ART
2006

目次

平成18年度主要記事	4	美術館ボランティア・広報サポーター	66
展覧会活動 展覧会一覧	6	友の会活動	68
観覧者数一覧	7	平成18年度 美術館の評価活動	72
(企画展)		展覧会出品目録	
山内一豊とその妻	8	山内一豊とその妻	74
コレクション20年の熱情Ⅰ		コレクション20年の熱情Ⅰ	
心にひびく風景画	9	心にひびく風景画	82
コレクション20年の熱情Ⅱ		コレクション20年の熱情Ⅱ	
時代を超える個性	10	時代を超える個性	86
森嶋外と美術	11	森嶋外と美術	89
(特別展)		世界遺産ナスカ展	99
世界遺産ナスカ展	13	ロダンー創造の秘密	106
ロダンー創造の秘密ー	15	収蔵品展	109
収蔵品展	17	移動美術館	112
移動美術展	19	管理運営	
教育普及活動		関係法規	114
(一般向け) 講演会	21	組織・名簿	121
美術講座	22	歳入・歳出決算	122
技法セミナー	24	建築・設備概要	123
ギャラリートーク	25	利用案内	129
実技・体験	27		
(子ども向け) 実技・体験	30		
ワークショップ	32		
(学校向け) 学校連携普及事業	34		
博物館実習	38		
対外活動(講座など)	40		
主要刊行物			
館蔵品図録	42		
美術館ニュース「アマリリス」	43		
施設利用状況	44		
広報活動(含むHP)	46		
調査研究活動			
紀要の発行	47		
研究活動	48		
研究会	49		
各種資料整理	52		
収集活動と保存管理			
平成18年度新収蔵品	53		
収集点数一覧	56		
図書資料の収集・整理(映像資料の収集)	57		
館蔵品の貸し出し	58		
美術作品の補修	63		
保存活動	64		

平成18年度主要記事

- 4月1日 宮治昭館長就任
- 11日 収蔵品展「新収蔵品展」(～5月7日)
- 15日 企画展「山内一豊とその妻」開幕
(～5月28日)
「草薙のんびりツアー」作品解説
版画入門 銅版画
- 5月3日 山内一豊とその妻展特別講演会「静岡ゆかりの豊臣大名」小和田哲男(静岡大学教授)
絵画ワークショップ「勝手に若沖とことん枘目描き」(～4日)
- 9日 収蔵品展「描かれた女性たち／小杉文庫」(～6月4日)
- 6月6日 企画展「コレクション20年の熱情Ⅰ 心にひびく風景画」開幕(～7月9日)
- 10日 コレクション20年の熱情Ⅰ展フロアレクチャー(6月10日、18日、24日、7月9日)
版画入門 リトグラフ(～11日)
- 12日 第1回美術館研究活動評価委員会
- 17日 ミュージアムコンサート「松谷卓ミュージアムライブ」松谷卓(ピアノ)、多井智紀(チェロ)
- 25日 コレクション20年の熱情Ⅰ展子ども鑑賞講座 南美幸(当館主任学芸員)(6月25日、7月1日)
- 7月2日 コレクション20年の熱情Ⅰ展特別講演会「コレクションを熱く語る！」小針由紀隆(当館学芸課長)、山下善也(当館主任学芸員)
- 10日 展示室整備などのため休館(～25日)
- 25日 開館20周年記念式典開催
- 26日 企画展「コレクション20年の熱情Ⅱ 時代を超える個性」開幕(～9月3日)
- 29日 学芸員が語るこの1点「陰影で魅せる屏風絵解説」飯田真(当館主任学芸員)
- 31日 平成18年度博物館実習(～8月5日)
- 8月1日 夏休み子供ワークショップ「展覧会で遊んじゃえ！」(～6日)
- 6日 コレクション20年の熱情Ⅱ展特別講演会「コレクションを熱く語る 伊藤若沖・ドナルド ジャッド」日比野秀男(常葉大学教授、常葉美術館館長)、永草次郎(帝塚山学院大学教授)
- 8日 コレクション20年の熱情Ⅱ展子ども鑑賞講座 川谷承子、森充代(当館学芸員)(8月8日、29日)
- 9日 第2回美術館研究活動評価委員会
- 12日 学芸員が語るこの1点「丸山応挙《木賊兎図》」森充代(当館学芸員)
- 19日 ミュージアムコンサート「小澤真智子ヴァイオリンコンサート」小澤真智子(ヴァイオリン)、城戸春子(チェロ)
- 20日 コレクション20年の熱情Ⅱ展特別講演会「コレクションを熱く語る 小出楢重・草間彌生」越智裕二郎(兵庫県立美術館企画部門マネージャー)、大屋美那(国立西洋美術館主任研究官)
- 26日 学芸員が語るこの1点「ドナルド・ジャッド《無題》」川谷承子(当館学芸員)
- 9月5日 収蔵品展「大地の作品たち」(～10月15日)
- 12日 企画展「世界遺産ナスカ展」開幕(～10月30日)
- 16日 世界遺産ナスカ展「ハチドリの上絵を再現」
- 23日 世界遺産ナスカ展特別講演会「ナスカ人は縄文人の親戚か」馬場悠男(国立科学博物館人類研究部長)
- 30日 世界遺産ナスカ展「ハチドリの上絵を熱気球に乗って空から見てみよう！」浜北市移動美術展(～10月15日・なゆた浜北)
- 10月3日 県民ギャラリー「祈り・祀り・鎮メル～静岡の祭祀遺物～」主催：静岡県教育委員会(～15日)
- 8日 世界遺産ナスカ展ミュージアムコンサート「瀬木貴将サンポーニャ&ケーナコンサート」
絵画ワークショップ「地面」(～9日)
- 15日 世界遺産ナスカ展特別講演会「アンデスのミイラが語ること」篠田謙一(国立科学博物館人類第一研究室長)
- 17日 収蔵品展「イタリアに恋して」(～11月26日)
創作週間イベント 日本画講座「岩絵の具ことはじめ」(～18日)

- 11月3日 下田市移動美術展（～12日・ベ이스テージ下田）
版画入門特別編「版画の楽しみ方」
- 5日 講演会シリーズ「南イタリアの風景再発見～グランドツアーの時代を中心に」陣内秀信（法政大学工学部建築学科教授）
- 7日 企画展「森鷗外と美術」開幕（～12月17日）
- 11日 実技講座「森鷗外と美術」展「裸のところで裸を描こう」（～12日）
- 18日 森鷗外と美術展鑑賞講座 堀切正人（当館主任学芸員）
- 19日 森鷗外と美術展特別講演会「陸軍軍医学校と美術」陸自衛生学校・彰古館担当者
収藏品展フロアレクチャー
- 23日 「草薙のんびりツアー」作品解説
第3回美術館研究活動評価委員会
- 26日 森鷗外と美術展フロアレクチャー（11月26日、12月16日）
- 28日 収藏品展「描かれた昭和の風景」（～12月26日）
- 12月2日 講演会シリーズ「昭和の風景の発見と創造」川本三郎（評論家）
- 3日 森鷗外と美術展特別講演会「津和野と森鷗外」木下直之（東京大学教授）
- 9日 版画入門 シルクスクリーン（～10日）
- 10日 美術講座「昭和の風景」泰井良（当館学芸員）
- 1月2日 第18回富嶽ビエンナーレ展開幕（～28日）
収藏品展「日本画・浮世絵の魅力」（～28日）
- 13日 版画入門 木版画（～14日）
- 15日 中学生文化芸術鑑賞推進事業（～26日）
- 2月3日 絵画ワークショップ「noir et blanc」（～4日）
- 4日 企画展「ロダンー創造の秘密」開幕（～3月25日）
ロダンー創造の秘密展特別講演会「ロダンのアトリエ」ドミニク・ヴィエヴィル（ロダン美術館館長、国家文化財首席学芸員）
- 10日 技法セミナー「ロダンの技法を探る」
- 25日 ロダンー創造の秘密展鑑賞講座「《青銅時代》をめぐるスキャンダル」泰井良（当館学芸員）
- 27日 第4回美術館研究活動評価委員会
- 3月3日 ロダンー創造の秘密展鑑賞講座「ロダンと二つの記念像」小針由紀隆（当館学芸課長）
- 4日 特別企画「日本画をじかに見る」
- 10日 実技講座「ロダンー創造の秘密」展「ロダン彫刻を写真に撮ろう」（～11日）
- 30日 収藏品展「新収藏品展」（～5月20日）
- 通月 創作週間（原則第3週開室：通算93日）
粘土開放日（原則毎月第4日曜日開催：通算12回）
絵具開放日（原則毎月第1日曜日開催：通算10回）
土曜工作室（原則毎月第4土曜日開催：通算12回）
色彩アトリエ（原則毎月第1土曜日開催：通算10回）
ロダン館デッサン会（毎月原則第3金・土曜日開催：通算24回）
ギャラリートーク（今年度企画展134回、収藏品展26回、その他10回）

本館

	1	2	3	4	5	6	7	ロダン館第2	
4 APRIL	~4/4(火) *4/3(月) 臨時開館 静岡ゆかりの画家たち (2日間)			~4/4(火) 我が愛しのコレクション					
	4/5(水)~10(月) 休館								
5 MAY	4/15(土)~5/28(日) 大河ドラマ「功名が辻」特別展 山内一豊とその妻 戦国の世を駆け抜けたふたり、熱き時代の激動。 国宝、重文、山内家伝来の名宝、約250点で紹介。			4/11(水)~5/7(日) 新収蔵品展 (GW若沖特別展示)		5/9(水)~6/4(日) 描かれた女性たち +小杉文庫			
	6/6(水)~7/9(日) コレクション20年の熱情 I 心にひびく風景画—富士山からセザンヌ、ゴーギャンまで— 屈指の風景画コレクションで知られる当館の名品を網羅した見逃せない企画展			6/6(水)~7/9(日) 彫刻を「撮る」I —ブランクーシの 写真・自作への視線					
7 JULY	7/10(月)~25(火) 休館								
	7/26(水)~9/3(日) コレクション20年の熱情 II 時代を超える個性—若沖、クレーから戦後アメリカ美術まで— 陰影で魅せる江戸の屏風絵と現代アートのコラボレーション			7/26(水)~9/3(日) 彫刻を「撮る」II —安斎重男による 《地獄の門》					
8 AUGUST	9/12(水)~10/30(月) 世界遺産ナスカ展 —地上絵の創造者たち 地上絵とミイラから南米の神秘にせまる。 巨大スクリーンで「地上絵」を体感!!			10/3(水)~10/15(日) 同時開催 「祈り・祀り・鎮メル ~静岡の祭祀遺物~」 主催：静岡県教育委員会 県民ギャラリーにて		9/5(水)~10/15(日) 大地の作品たち 床置作品や、 地面に関係 する作品		7/5(水)~10/15(日) セーヌの眺め	
	10/17(水)~11/26(日) イタリアに恋して イタリアを描いた 風景画、イタリア の作家による版画 作品を一挙公開!			10/17(水)~11/26(日) 旅するロダン					
9 SEPTEMBER	11/7(水)~12/17(日) 森鷗外と美術 明治、大正美術を支えた友情と栄光の物語 軍医にして文豪・鷗外は、日本近代美術のプロデューサーだった。								
	11/28(水)~12/26(火) 描かれた「昭和の風景」 —吉田博、 曾宮一念 など—								
10 OCTOBER	12/27(水)~1/1(月) 年末年始休館								
	1/2(火)~1/28(日) 第18回富嶽ビエンナーレ展			1/2(火)~1/28(日) 日本画・浮世絵の魅力 東へ西へ ~狩野派・広重など					
11 NOVEMBER	2/4(日)~3/25(日) ロダン—創造の秘密 パリ・国立ロダン美術館から大理石、石膏など未公開、 日本初出品のロダン作品を一挙公開								
	1/2(火)~1/28(日) 日本画・浮世絵の魅力 東へ西へ ~狩野派・広重など								
12 DECEMBER	2/4(日)~3/25(日) ロダン—創造の秘密 パリ・国立ロダン美術館から大理石、石膏など未公開、 日本初出品のロダン作品を一挙公開								
	1/2(火)~1/28(日) 日本画・浮世絵の魅力 東へ西へ ~狩野派・広重など								
1 JANUARY	2/4(日)~3/25(日) ロダン—創造の秘密 パリ・国立ロダン美術館から大理石、石膏など未公開、 日本初出品のロダン作品を一挙公開								
2 FEBRUARY	2/4(日)~3/25(日) ロダン—創造の秘密 パリ・国立ロダン美術館から大理石、石膏など未公開、 日本初出品のロダン作品を一挙公開								
3 MARCH	2/4(日)~3/25(日) ロダン—創造の秘密 パリ・国立ロダン美術館から大理石、石膏など未公開、 日本初出品のロダン作品を一挙公開								

■観覧者数一覧

展 覧 会 名	会 期		観 覧 者 数				
	期 間	日 数	一般・大学	小・中・高	招 待	合 計	1日平均
山内一豊とその妻	4 / 15 - 5 / 28	38	15,180	1,289	13,975	30,444	801
コレクション20年の熱情Ⅰ 心にひびく風景画	6 / 6 - 7 / 9	30	3,770	289	2,809	6,868	229
コレクション20年の熱情Ⅱ 時代を超える個性	7 / 26 - 9 / 3	35	6,040	1,605	6,302	13,947	398
世界遺産ナスカ展	9 / 12 - 10 / 30	43	57,364	7,055	20,193	84,612	1,968
森鷗外と美術	11 / 7 - 12 / 17	36	3,627	344	3,389	7,360	204
第18回富嶽ビエンナーレ展	1 / 2 - 1 / 28	24	8,388	463	10,357	19,208	800
ロダンー創造の秘密	2 / 4 - 3 / 25	43	32,208	3,854	10,842	46,904	1,091
小 計		249	126,577	14,899	67,867	209,343	841
収蔵品展	4 / 1 - 3 / 31	280	6,319	4,314	2,632	13,265	47
合 計		280	132,896	19,213	70,499	222,608	795
移動美術展（浜北市）	9 / 30 - 10 / 15	14	—	—	4,009	4,009	286
〃（下田市）	11 / 3 - 11 / 12	10	—	—	2,073	2,073	207

注) 1 夜間開館の観覧者数1,318人（5月～9月の毎週土曜日、19日間※）

※ 7月15日、22日は休館日のため除く。また、8月19日は集計せず。

注) 2 県民の日にかかる無料開放日（8月19日、20日）の観覧者数は3,204人

■年度別観覧者数

年 度	観覧者数	年 度	観覧者数	年 度	観覧者数
昭和61年度	345,746 人	平成5年度	218,921 人	平成12年度	146,833 人
昭和62年度	174,031	平成6年度	410,182	平成13年度	207,340
昭和63年度	214,156	平成7年度	245,028	平成14年度	170,390
平成元年度	229,258	平成8年度	178,701	平成15年度	184,095
平成2年度	233,904	平成9年度	127,299	平成16年度	146,706
平成3年度	190,361	平成10年度	153,099	平成17年度	129,768
平成4年度	173,665	平成11年度	107,977	平成18年度	222,608
				累 計	4,210,068

大河ドラマ「功名が辻」特別展 「山内一豊とその妻」

主催：静岡県立美術館、NHK静岡放送局、
NHK中部ブレイズ

会期：平成18年4月15日(土)～5月28日(日)

休館日：毎週月曜日

夜間開館：5月の毎週土曜日

観覧料：一般・大学 1,100円(900円)

小中高生 500円(400円)

70歳以上無料

戦国武将のひとりであった山内一豊は、天文14年(1545)に尾張国に生まれ、慶長10年(1605)に61歳で土佐国に没した。父や兄の戦死により放浪の身となった一豊は、天下統一の野望に燃える織田信長や豊臣秀吉に仕え、地道ながら着実に出世を重ねていった。遠江掛川5万石を与えられた後、関ヶ原合戦では掛川城を徳川家康に明け渡し、その功労によって土佐24万石の初代藩主となり、幕末まで続く土佐藩の礎を築いた。

一豊の立身出世の裏には、生涯の伴侶となった夫人(後の見性院)の助けがあったと言われている。なけなしの黄金十両をはたいての名馬購入の逸話は特に有名で、夫を支えて戦乱の時代を生き抜く妻の姿は、「内助の功」「賢婦の鏡」と後世に誉め称えられた。信長・秀吉・家康に仕えながら、個性の強い三英傑につぶされることなく出世を遂げた一豊と夫人の生涯は、人心を掌握する才覚、迅速な判断力、夫婦愛の尊さなど、現代人に求められるものも示唆している。

この企画展は、平成18年度のNHK大河ドラマ『功名が辻』と連動して、一豊夫妻の生涯と人となりを動乱の時代背景とともに紹介することを目指した。「山内一豊とその時代」「戦国時代の女性たち」「山内家に伝えられた美と歴史」の三部で構成され、出品点数は国宝、重文、山内家に伝わる宝物の数々を含め、約250点にのぼった。

■関連事業

記念特別講演会

5月3日(水・祝) 14時～15時30分

静岡県立美術館講堂

「静岡ゆかりの豊臣大名

— 山内一豊・中村一氏・堀尾吉晴」

講師／小和田哲男氏(静岡大学教授)

■カタログ

29×22.5cm

山内一豊とその妻／渡部淳

山内一豊・見性院関係略年表

山内一豊関連史跡

第一部 山内一豊とその妻

第二部 戦国時代の女性たち

第三部 山内家に伝えられた美と歴史

土佐藩山内家の至宝／加藤寛

作品解説

■出品目録

p.74～p.81参照。



▲ チラシ

コレクション20年の熱情 I

心にひびく風景画—富士山からセザンヌ、ゴーギャンまで—

主催：静岡県立美術館

会期：平成18年6月6日(火)～7月9日(日)
(30日間)

休館日：毎週月曜日

当館は、20年以上にわたり、4つの収集方針に基づいて作品収集を継続してきた。今年が開館20周年を記念し、コレクションを県民の皆様にとまごめてご覧に入れるべく、「コレクション20年の熱情」展をI、IIの2部に分けて企画した。

Iに当たる本展では、コレクションの核である東西の風景画を一堂に展示した。全体はテーマ毎に4つのセクションに分かれており、第1の「富士山と東海道」では、富士山をモチーフにした作品を展示し、様々に描かれる名山富士の姿をご堪能いただいた。第2の「故郷へのまなざし」では、画家たちが自らのふるさとを描いた作品を、第3の「あこがれの風景」では心のより所である理想郷や異国の風景など、彼方の地への憧れに根ざした作品を、それぞれにご覧いただいた。第4の「風景の結晶」では、風景画から発展し、独自の形へと昇華した絵画をご鑑賞いただいた。

このセクション分けは、本展に時期を合わせて6月5日に刊行された館蔵品図録『風景の交響楽 静岡県立美術館コレクションガイドブック』の第1章にほぼ対応している。

■会期中イベント

子ども鑑賞講座
6月25日(日)、7月1日(土) 14:00～

サタデーイブニングライブ
松谷卓ミュージアムライブ
6月17日(土) 18:00～

特別講演会

「コレクションを熱く語る」
講師：小針由紀隆（当館学芸課長）
山下善也（当館主任学芸員）

学芸員によるフロア・レクチャー

6月10日(土)、18日(日)、24日(土)、7月9日(日)
毎回14:00～ 30分程度

■出品目録

p.82～p.85参照。



進化する | 静岡県立美術館 | もっとアートをもっとよるこびを。

▲ チラシ

コレクション20年の熱情 II

「時代を超える個性—若冲・クレーから戦後アメリカ美術まで—」

主催：静岡県立美術館
 会期：平成18年7月26日(水)～9月3日(日)
 休館日：毎週月曜日
 夜間開館：毎週土曜日(午後8時まで)
 会場：第1～7展示室

「コレクション20年の熱情」は、静岡県立美術館が20年にわたり収集した作品の精髓を2期に分け紹介する展覧会であった。風景画の名品を一堂に集めた「I—心にひびく風景画」に続く本展では、風景画以外の個性的なコレクションを、いつもとは違う新たな切り口で紹介した。江戸の奇想の画家・伊藤若冲の屏風と現代アーティスト草間彌生の作品を並べて展示するなど、ジャンルを超えた美術のコラボレーションの数々をご覧いただいた。展示にも工夫をこらし、光の変化によって輝きを変える金屏風を展示、金地や顔料の微妙な発色の変化を体感いただいた。また、和風空間に屏風と現代アート(ドナルド・ジャッド)を展示する試みも行った。そのほか、西洋画、日本画、戦後美術から、クレー、狩野派など個性おどる作品たちを特集展示した。展示は以下のセクションにより構成された。

- ・若冲VS草間VSヴラマンク～美術の競演 1
- ・清水といえば…～美術の競演 2
- ・海・波・船～美術の競演 3
- ・静物って何?～美術の競演 4
- ・個性おどる作品たち I～西洋画
- ・特集 狩野派の世界
- ・特別企画 陰影で魅せる屏風絵
- ・和空間で見るミニマルな世界～美術の競演 5
- ・白の世界～美術の競演 6
- ・個性おどる作品たち II～日本画
- ・個性おどる作品たち III～西洋版画
- ・箱も見てね～美術の競演 7
- ・時空を超えて雨は降る～美術の競演 8
- ・特集 戦後美術～絵画の身体性

■関連記事

- ・静岡新聞 平成18年8月19日夕刊
 「県立美術館「時代を超える個性」展」
 (飯田真 当館主任学芸員)

■関連事業

「特別講演会」 14:00～15:30 講堂にて
 8月6日(日) 「コレクションを熱く語る—伊藤若冲・ジャッド—」日比野秀男氏(常葉大学教授・常葉美術館館長)・永草次郎氏(帝塚山学院大学教授)
 8月20日(日) 「コレクションを熱く語る—小出楯重・草間彌生—」越智裕二郎氏(兵庫県立美術館企画部門マネージャー)・大屋美那氏(国立西洋美術館主任研究員)

「サタデーヴニングライヴ・小澤真智子ヴァイオリンコンサート」 ロダン館にて
 8月19日(土) 18:00～

「夏休み親子鑑賞講座」
 8月8日(火)・8月22日(火)・29日(火)
 14:00～ 展示室にて

「学芸員が語るこの一点」
 7月29日(土)・8月12日(土)・8月26日(土)
 14:00～ 展示室にて

「ボランティアガイドによるギャラリーツアー」
 7月28日(金)・30日(日)・
 8月12日(土)・13日(日)・17日(木)・19日(土)・
 20日(日)・26日(土)・27日(日)・30日(水)
 9月1日(金)・2日(土)・3日(日)
 展示室にて

■出品目録

p.86～p.88参照。



森鷗外と美術

明治、大正時代を支えた友情と栄光の物語

主催：鳥根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館

特別協力：森鷗外記念会、文京区立鷗外本郷記念室

協力：静岡第一テレビ

協賛：紀伊國屋書店

助成：財団法人 地域創造

会期・会場：

鳥根県立石見美術館

平成18年7月14日(金)～8月28日(月) 40日間

和歌山県立近代美術館

平成18年9月10日(日)～10月22日(日) 37日間

静岡県立美術館

平成18年11月7日(火)～12月17日(日) 36日間

主旨

森鷗外は作家、あるいは軍医として知られているが、日本の近代美術と深い関わりを持っていたことは、これまであまり紹介されることがなかった。本展覧会は、鷗外の出生地である鳥根県立石見美術館を立ち上がりとし、「美術」という視点から鷗外をとらえなおし、その多方面にわたる活動を追うものである。

ドイツへの留学をきっかけに西洋の美術に親しんだ鷗外は、帰国後に西洋芸術の紹介や、国内の美術評論などを積極的に行った。その著作には画家を主人公にしたものや、美術を話題にしたものも多くみられる。東京美術学校（今の東京芸術大学）や慶應義塾大学で美術解剖学や美術史の講義を担当したこともあった。

さらに鷗外は文部省美術展覧会（文展）の審査員や帝国美術院の院長、帝室博物館（今の東京国立博物館）総長などの役職につき、近代日本が美術という制度を作り上げる過程に公的な立場で深く関わった人物でもある。一方でプライベートでも、ミュンヘンで出会い生涯の親友となった原田直次郎をはじめ、明治・大正時代を代表する様々な美術家との交友を持っていた。

本展は、鳥根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館の共同研究、共同企画により、森鷗外研究と日本近代美術史研究との双方に新たな視点を提供しようとするものである。

展示構成

第1部 芸術で結ばれた友情 原田直次郎と共に

I. 出会い 西洋絵画と「舞姫」たち

II. 共闘 批評と明治美術の革新

III. 別れ そして10年後の回顧展

第2部 芸術がもたらした栄光と活躍 鷗外の多面性

IV. 陸軍軍医総監・森林太郎の周辺

V. 鷗外と展覧会、博物館

VI. 次世代へのまなざし

■関連事業

実技講座「裸のところで裸を描こう」

講師：藤原由葵氏（洋画家・美術博士）

11月11日(土)・12日(日) 参加人数：20名

学芸員による美術講座「森鷗外と美術展について」

堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）

日時：11月18日(土) 14：00～15：00

参加人数：40名

特別講演会「陸軍軍医学校と美術」

講師：陸上自衛隊衛生学校・彰古館担当

日時：11月19日(日) 14：00～15：00

参加人数：40名

学芸員によるフロアレクチャー「展覧会この1点」

堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）

日時：11月26日(日) 14：00～14：50

参加人数：50名

特別講演会「津和野と森鷗外」

講師：木下直之氏（東京大学教授）

日時：12月3日(日) 14：00～15：00

参加人数：70名

学芸員によるフロアレクチャー「展覧会この1点」

堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）

日時：12月16日(土) 14：00～14：30

参加人数：40名

ボランティアによるギャラリートーク

のべ26回開催 参加人数：292名

■カタログ

発行：森鷗外と美術展実行委員会

編集：鳥根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館

デザイン：野村勝久（野村デザイン制作室）

菊判（22.5×16cm）368p ハードカバー

ご挨拶 謝辞 目次

序論 鷗外が見た明治、大正の美術／川西由里（鳥根県立石見美術館主任学芸員）

図版 章解説

原田直次郎作品集

徳富蘇峰記念館所蔵 徳富蘇峰宛 原田直次郎書簡
各論

森鷗外と皇室博物館蔵書について／高橋裕次（東京国立博物館文化財部保存修復課保存修復室長）

原田直次郎の肖像画をめぐって「原田直次郎作品集」から／宮本久宣（和歌山県立近代美術館学芸員）

森鷗外と肖像／堀切正人（静岡県立美術館主任学芸員）

作家作品解説 関連年譜 主要参考文献

■関連記事

・新聞

村上敬「関西美術探訪・阪大美学研究室222 「森鷗外と美術」展の見どころ 多才な人物の軌跡検証」『大阪日日新聞』10月17日

堀切正人「森鷗外と日本美術の近代化」『聖教新聞』11月15日

山脇佐江子「森鷗外と美術 新たな切り口新鮮な感興」『日本経済新聞』夕刊 11月16日

堀切正人「森鷗外と美術 若い画家を発掘、庇護」『静岡新聞』夕刊 11月25日

西田健作「ナビゲーター 鷗外通じ探る近代」『朝日新聞』12月5日

前田恭二「鷗外が見た近代美術」『読売新聞』31面 12月15日

前田恭二「回顧 2006 美術」『読売新聞』（三浦篤東京大学教授により2006年展覧会ベスト4のひとつに選定される。）12月21日

・雑誌

奥平俊六「近代日本の青春と洋画 『森鷗外と美術』」[カタログ評]『紫明』第19号、紫明の会発行、2006年9月20日、p.108

三浦篤「文豪の多面性」『芸術新潮』2006年12月号、p.143

「2006年 美術界の動向」『平成19年版 美術家名鑑』

北澤憲昭「森鷗外と美術 多面性・鷗外に映る美術の多面性」（企画展レビュー）『美術手帖』2007年2月号 p.170-171

青木茂「展覧会評 森鷗外と美術」『美術研究』第391号 2007年3月26日 p.76-81

安田孝 [イベント・レビュー]「森鷗外と美術展」『日本近代文学』第76集 2007年5月15日

■その他

2006年美術館連絡協議会カタログ論文賞
自主展部門 優秀カタログ賞受賞

■出品目録

p.89～p.98参照。



▲ ポスター



▲ カタログ

世界遺産 ナスカ展—地上絵の創造者たち

主 催：静岡県立美術館、静岡新聞社・静岡放送、
世界遺産ナスカ展実行委員会
後 援：外務省、ペルー共和国大使館
特別協賛：清水銀行
協 力：王子製紙、東京海上日動、凸版印刷、日本
通運、日本ヒューレット・パッカード、
AIR FRANCE KLM CARGO
会 期：平成18年9月12日(火)～10月30日(月)
〈43日間〉
開館時間：午前10時～午後5時30分
夜間開館：9月30日までの土曜日は午後8時まで
(9月16日、23日、30日)
*入場は閉館の30分前まで
休 館 日：毎週月曜日
*9月18日(祝)、10月9日(祝)、30日は開館

■展覧会の概要

ナスカ文化は、紀元前100年ごろから紀元後700年頃まで、南米ペルーの南海岸に栄えた文化である。地上絵で有名なナスカ文化は、地上絵以外にも高度な技術で作られた多彩色土器や織物、それらに描かれたユニークな図像など、ほかの新大陸の先史文化には見られない様々な特長を持っている。この展覧会では、地上絵を描いた人たちが残した遺物から、考古学と、人類学の最新の研究成果が明らかにした、ナスカ人たちの世界観や生活を紹介した。また、この展覧会のために、国立科学博物館人類研究部とペルー国立考古学人類学歴史学博物館とが共同、1300年前の子どものミイラを分析した結果を紹介した。さらに、世界初の試みとして、最新のバーチャル・リアリティ技術で再現した「ナスカの地上絵」のCG映像を大型のスクリーンで上映した。

■展覧会の構成

展示は2部構成となっており、第1部ナスカー砂漠からのメッセージでは、これまであまり取り上げられてこなかったナスカ人の生活や文化をパネル展示も交えてわかりやすく紹介した。

第2部地上絵の謎では、最新のナスカの地上絵の研究成果を紹介するとともに世界初の試みとして行われる、最新のバーチャル・リアリティ技術で再現された「ナスカの地上絵」遊覧飛行を体験できるコーナーを

設けた。バーチャルコーナーは、ナスカの遊覧飛行を擬似体験できるとあって、平日休日問わず、大変好評を博した。

■テレビ放送

SBSテレビ特別番組
『新説！ナスカ地上絵～浮かんだ刻印の真実』
放送時間／9月10日(日) 15:30～16:54

■新聞記事

- ・静岡新聞 (8月6日)
「世界遺産ナスカ展」来月12日から県立美術館
無記名
- ・静岡新聞夕刊 (9月4日～9日、5回連続)
「複雑な線、天空へ訴え」写真家 義井豊氏
「色彩豊か、神話的表現」東京大名誉教授
増田義郎氏
「死後の変身鮮やか」染色品保存修復家 瀬尾有紀氏
「作品の豊穡“守る”」県立美術館学芸員 川谷承子
「謎秘めた黒い瞳」国立科学博物館人類研究部長
馬場悠男氏
- ・静岡新聞 (9月17日)
ナスカ地上絵「ハチドリ」再現(無記名)
- ・静岡新聞 (9月25日)「死者への大きな愛情」
瀬尾有紀氏
- ・静岡新聞 (9月29日)「ナスカ的美じくくりと」
(無記名)
- ・静岡新聞 (9月30日)「ナスカ展入館3万人突破」
(無記名)
- ・静岡新聞 (9月30日)「地上絵神秘空から体感」
(無記名)
- ・静岡新聞 (10月9日)「アンデスの風景音楽で」
(無記名)
- ・静岡新聞 (10月14日)「ナスカ展入場5万人」
(無記名)
- ・静岡新聞 (10月15日)「ルーツは北東アジア」
国立科学博物館第一人類研究室長 篠田謙一氏
- ・静岡新聞 (10月16日)「ミイラが伝えるナスカの
生命観」(無記名)

■関連事業

・特別講演会 1

9月23日(祝・土) 14:00~15:30 講堂にて

「ナスカ人は縄文人の親戚か

ーホモ・サピエンスの起源と拡散ー」

講師：馬場悠男氏(国立科学博物館 人類研究部長)

入場者数250名

・特別講演会 2

10月15日(日) 14:00~15:30 講堂にて

「アンデスのミイラが語ること」

講師：篠田謙一氏(国立科学博物館 人類第一研究室長)

入場者数180名

・瀬木貴将 サンポーニャ&ケーナコンサート

本展覧会のテーマ音楽を制作、演奏する瀬木貴将氏のコンサート。

めずらしい南米アンデス地方の伝統楽器、サンポーニャとケーナの演奏を御披露いただいた。

10月8日(日) 13:00開場 14:00開演

(1時間程度)

入場者数260名

・その他

『ハチドリの上絵を再現！』

9月16日(土) 13:30~15:00 静岡県立美術館

下、芝生公園にて

チラシおよび新聞広告を通じて、芝生にハチドリの上絵を再現する作業(ライン引き等)をする参加者を募集。イベント当日、芝生公園の芝生にハチドリの上絵を再現した。

参加人数60名

『ハチドリの上絵を熱気球に乗って空から見よう！』

日時：平成18年9月30日(土)

※雨天の場合10月1日(日)に順延

静岡県立美術館下、芝生公園にて

所要時間は、1回5分程度

内容：芝生公園に再現されたハチドリの上絵を、熱気球に乗って空から見るという体験型の催しを行った。

参加人数：300名



▲ チラシ

「ロダン—創造の秘密—」

主催：静岡県立美術館、読売新聞東京本社、静岡第一テレビ、フランス国立ロダン美術館、美術館連絡協議会

会期：平成19年2月4日(日)～3月25日(日)

休館日：毎週月曜日（ただし、2月12日(月)は開館、翌13日休館）

観覧料：一般・大学 1,100円（900円）
小中高生 500円（400円）
70歳以上無料

※（ ）内は20名以上の団体および前売料金。

日本の多くの美術ファンにとって一般的な「ロダン」のイメージは、当館所蔵作にみられるような重厚な「黒い」ブロンズ作品によって形成されている。しかし、言うまでもなくロダンは、石膏や大理石を使った多くの「白い」作品も制作している。19世紀において、石膏は、ブロンズや大理石作品として発表する前の「原型」として用いられるのが主であったが、ロダンは、その特性にいち早く注目し、石膏の作品だけを集めた展覧会を行うなど、実験的な試みを敢行している。

光を反射し、作品にはっきりとした陰影が生まれるブロンズに対して、石膏は光を吸収し、やわらかい凹凸を作り出す。ブロンズのそれとは対照的といってもよい質感を活かし、ロダンは独自の表現世界をつくりあげていったといえよう。しかし、石膏はブロンズや大理石に比してもろく、セキュリティの問題が常に横たわっているため、フランス国外でのまとまった展示は決して簡単なことではなかった。

本展は、フランス国立ロダン美術館の全面的な協力のもとに、これまで日本でまとまって出品されることのなかった石膏作品60点のほか、ロダン芸術の象徴とも言うべきブロンズや大理石の作品に、ロダンが自らの創作に着想を得るために収集した古代ローマの美術品などを加えた、彫刻147点で構成された。あわせて、素描・版画36点、写真52点を展示することで、いままで日本で紹介されることの少なかったロダンの別の側面に光をあてることを企図したものであった。

こういった学術的性格の強い彫刻展は集客の面で必ずしも有利であるとはいえないものであるが、本展は、静岡第一テレビ等地元共催マスコミの積極的な広報展開などを得たこともあり、内容にふさわしい数多くの観覧者に見ていただくことができた。

■関連事業

- ・特別講演会
2月4日(日) 15時～16時30分 当館講堂
「ロダンのアトリエ」
講師／ドミニク・ヴィエヴィル氏
(ロダン美術館館長)
- ・美術講座
2月25日(日) 14時～15時 当館講座室
「《青銅時代》をめぐるスキャンダル」
講師／泰井良(当館学芸員)
- ・美術講座
3月3日(土) 14時～15時 当館講座室
「ロダンと二つの記念像」
講師／小針由紀隆(当館学芸課長)

■カタログ

29.5×22.5cm

日仏バイリンガル

240ページ

—総論—

ロダン：黒と白／フランソワ・ブランシュティエール

—各論I—

はじめに／フランソワ・ブランシュティエール
記念像／アントワネット・ル・ノルマン＝ロマン
地獄の門／アントワネット・ル・ノルマン＝ロマン
肖像彫刻／エレヌ・マロー
アサンブラージュ／アントワネット・ル・ノルマン＝ロマン
手と四肢／エレヌ・マロー
古代美術品、この黒と白の断片／ベネディクト・ガルニエ

—カタログ—

はじめに
記念像
地獄の門
肖像彫刻
アサンブラージュ
手と四肢
断片と古代美術品
素描／版画
写真

収蔵品展

本年の収蔵品展のラインナップは下記のとおりである。当館が所蔵する日本画、日本近代洋画、西洋絵画、現代美術の各ジャンルの作品を広く公開展示する機会を設けた。本館展示室では、同時期開催の企画展との関連に配慮し、テーマを設定して展示を構成した。

本館1階・エントランスホールの名品コーナーには、常時3点の収蔵品を展示し、うち1点は富士山を描いた作品をご覧いただけるようにした。

ロダン館1階展示室では、ロダンと関連するテーマ展示を年4回行った。

より見やすく、楽しめる展示方法を目指し、パネルやパネル、キャプションなどのディスプレイにも工夫した。

■本館

4月1日(土)～4日(火)

我が愛しのコレクション

(展示内容と出品作品については、平成17年度の年報を参照されたい)

4月11日(火)～5月7日(日)

新収蔵品展

5月9日(火)～6月4日(日)

描かれた女性たち／小杉文庫

9月5日(火)～10月15日(日)

大地の作品たち

10月17日(火)～11月26日(日)

イタリアに恋して

11月28日(火)～12月26日(火)

描かれた「昭和の風景」－吉田博、曾宮一念など－

1月2日(火)～28日(日)

日本画・浮世絵の魅力－東へ西へ～狩野派・広重など

Shizuoka Prefectural Museum of Art
静岡県立美術館
MUSEUM COLLECTION

平成18年度 静岡県立美術館収蔵品展

収蔵品展

9月5日(火)
11月26日(日)

第7展示室のご案内

大地の作品たち

9月5日(火)～10月15日(日)

子どものころ、地図を引くときつめて帰る行進を軽装した経験は、みなさん、おありでしょう。あるいは、海上の氷原に、長靴で入って遊んだり、傘で地図を引いて水路を作ったり、地図や大地は、様々な想像や遊びを、我々に与えてくれるものなのです。この展覧会では、地図や大地を描いたり、またそこからインスピレーションを得た絵画作品をご覧いただけます。さらに、企画を用いずに直接、原に置く収蔵品もあらいまわし、これらの展覧会は、あらかた「我々に何を語りかけ、地図や大地に思いをはせるきっかけとなるでしょう。

■企画展のご案内
■全展示室のご案内
■ギャラリートークのご案内

■ 進化する | 静岡県立美術館 | もっとアートをもっとよるごびを。■

▲ チラシ

Shizuoka Prefectural Museum of Art
静岡県立美術館
MUSEUM COLLECTION

平成18年度 静岡県立美術館収蔵品展

収蔵品展

11月28日(火)
1月28日(日)

第7展示室のご案内

描かれた「昭和の風景」
－吉田博、曾宮一念など－

11月28日(火)～12月26日(火)

今回の収蔵品展では、懐かしい「昭和の風景」を描いた絵画を展示します。山や川と自然の風景、そしていかに都市へ歩を進ませたいか、町並み、昭和の時代は、まさに変化の激しい時代だったといえるでしょう。展覧会では、ケツの、のびた風景が描かれていますが、戦後になると、ビルや高速道路などが急速に入ってきて、その風景は大きく変わりました。昭和といふ時代、絵画を通じて想い出していたらいいと思います。

■企画展のご案内
■全展示室のご案内
■ギャラリートークのご案内

■ 進化する | 静岡県立美術館 | もっとアートをもっとよるごびを。■

▲ チラシ

■ロダン館 第2展示室

6月6日(火)～7月9日(日)

彫刻を「撮る」Ⅰ

—ブランクーシの写真・自作への視線—

7月26日(水)～9月3日(日)

彫刻を「撮る」Ⅱ

—安斎重男による《地獄の門》—

9月5日(火)～10月15日(日)

セーヌの眺め

10月17日(火)～11月26日(日)

旅するロダン

■名品コーナー

5月9日(火)～6月4日(日)

9月5日(火)～10月15日(日)

10月17日(火)～11月26日(日)

11月28日(火)～12月26日(火)

1月2日(火)～2月18日(日)

2月20日(火)～3月25日(日)

Shizuoka Prefectural Museum of Art A. Rodin 静岡県立美術館 ロダン館 MUSEUM

平成18年度 静岡県立美術館・ロダン館収蔵品展 COLLECTION

6月6日(火)
11月26日(日)

ロダン館第2展示室 特別展示のご案内

平成18年は、静岡県立美術館創立20周年の年です。ロダンの彫刻を収蔵展示するロダン館では、第2展示室にロダン以前の彫刻師の作品とロダンの彫刻や写真を出品し、ご覧いただきたいです。今年は、収蔵品の中から特別展示として4つのラインナップをご用意しました。

彫刻を「撮る」Ⅰ

—ブランクーシの写真・自作への視線—

6月6日(火)～7月9日(日)

ルネッサンス生まれの彫刻家コンスタンティン・ブランクーシ(1876-1957)は、自作をアクリルで複製した写真家としても知られています。没後、ネガとともに千枚を超えるプリントがパリ国立近代美術館に遺贈されました。自作である彫刻を写した写真は、作品と制作意である自分を鑑賞者として見つめる写真家の視線を物語ります。ヴィンテージ・プリントその他を展示します。



彫刻を「撮る」Ⅱ

—安斎重男による《地獄の門》—

7月26日(水)～9月3日(日)

1970年代の95年以降、安斎重男(1939-)は現代美術の様々な現場を駆けまわった写真家です。その鋭い目は、高さ6メートル、200人以上の人物が埋め込まれた巨大な《地獄の門》も、多様な角度からクローズアップし、その苦痛の顔を容赦なく写し取りました。ロダンの異なる芸術の輪郭もご鑑賞ください。



セーヌの眺め

9月5日(火)～10月15日(日)



「パリの下、セーヌは流れる〜」パリ」の代表的風景。その一つはセーヌ川で遊んだロダンが生誕したパリや、アトリエを構えたパリ郊外・ムドンを流れるセーヌ川を臨む風景や旅路も、フランスや日本の作家の作品でご紹介します。

旅するロダン

10月17日(火)～11月26日(日)

ロダンは旅行や展覧会などで、ヨーロッパ各地を精力的に訪問しました。そうした風景をロダン自身が撮ったことは稀でした。今回は、ロダンが実際に訪れた自国にありあけの風景を、羅曼や時代別パルエスターに置かれた作家たちが撮った作品でお楽しみください。



企画展のご案内
 ■ロダン展20周年の特別展1 6にロダン彫刻展 6月6日(火)～7月9日(日) ■ロダン展20周年の特別展2 時代を超える彫刻 7月26日(水)～9月3日(日)
 ■世界遺産ナカス 9月12日(水)～10月30日(月) ■有線外と美術 11月7日(水)～12月17日(日)

■ 進化する | 静岡県立美術館 ⑧ | もっとアートをもっとよろこびを。 |

▲ チラシ

移動美術展「あこがれの風景」

浜北移動美術展

あこがれの風景

主催：静岡県立美術館、浜北市、浜北市教育委員会
会期：2006(平成18)年9月30日(土)～10月15日(日)
会場：なゆた・浜北2階市民ギャラリー
観覧者数：4,009人

下田移動美術展

あこがれの風景

主催：静岡県立美術館、下田市、下田市教育委員会
会期：2006(平成18)年11月3日(金・祝)～11月12日(日)
会場：道の駅 開国下田みなと（ベイ・ステージ
下田）2F特別展示室
観覧者数：2,073人

当館では昭和63年度以降、県の東部・西部地域において毎年「移動美術展」を開催してきた。静岡市から距離的に遠い地域の方々に、当館収蔵品をご覧いただく機会を増やすためである。

この趣旨に沿って会場の選択が行なわれるため、これまでは温湿度等作品保全に関わる環境としては必ずしも十全ではない会場が見られ、これに伴い、出品作品選択への制限も自ずと強まらざるを得なかった。

今年度の会場は東部、西部いずれも美術品展示施設として良好な環境が維持されているため、出品作品選択の幅は広がり、より見応えのある展示を構成することが可能となった。

出品作品の構成に当たり、展覧会全体は「あこがれの風景」というテーマの元に、様々な時代の画家たちが見た異国の風景や理想郷を描いた作品を展示した。

版画作品の展示には、エッチング、エンブレイヴィング、メゾチント、アクアチント等の技法を紹介するコーナーを設け、各版種の見本版とその刷り見本とを併置し、観覧者に手に取っていただけるものとした。これにより、日本人には馴染みの薄い銅版凹版画についての理解を深めていただいた。

会期中、学芸員によるギャラリー・トークの他、作品デッサン会、ギャラリー・トーク・プラス、親子鑑賞講座等の会期中イベントを実施した。

作品デッサン会は、展示室内で鉛筆、色鉛筆、練り

消しゴムを用いて展示作品をスケッチしてもらうことにより、作品がどのように描かれているのかを追体験してもらおうとするものであった。

ギャラリー・トーク・プラスでは、展示作品解説に加え、銅版画作品の刷りを実演し、作品の制作過程を実感していただくことを目指した。

親子鑑賞講座では小学生を対象年齢を絞り、児童とその保護者とともに参加していただくことで、より噛み砕いた講座を実施することを心がけた。

これらのイベント共々、各会場での展示は多くのお客様にお楽しみいただけた。

今年度の移動美術展は、当館の名品展であり、あるテーマに沿った企画展でもあった。移動美術展のより魅力的なあり方を、今後一層模索していく必要があるであろう。



▲ チラシ



▲ 浜北会場入口



▲ ギャラリー・トーク・プラス（浜北会場）



▲ 作品デッサン会（浜北会場）



▲ 下田会場風景

講演会

展覧会のテーマ、内容についての理解を深め、鑑賞の視野を広げるために、多様な分野の専門家を招いて講演会等を開催した。また“風景を考える”講演会シリーズ（2回）などの連続講演会も開催し、好評を得た。

■特別講演会

タイトル・内容	講師	開催日	場所	参加者数
山内一豊とその妻展 「静岡ゆかりの豊臣大名」	小和田哲男氏（静岡大学教授）	5月3日	講堂	270人
コレクション20年の熱情Ⅰ展 「コレクションを熱く語る！」	小針由紀隆（当館学芸課長） 山下善也（当館主任学芸員）	7月2日	講堂	40人
コレクション20年の熱情Ⅱ展 「コレクションを熱く語る －伊藤若沖・ドナルド ジャッド－」	日比野秀男氏（常葉大学教授、常葉美術館館長） 永草次郎氏（帝塚山学院大学教授）	8月6日	講堂	80人
コレクション20年の熱情Ⅱ展 「コレクションを熱く語る －小出楯重・草間彌生－」	越智裕二郎氏（兵庫県立美術館企画部門マネージャー） 大屋美那氏（国立西洋美術館主任研究官）	8月20日	講堂	50人
世界遺産ナスカ展 「ナスカ人は縄文人の親戚か」	馬場悠男氏（国立科学博物館 人類研究部長）	9月23日	講堂	120人
世界遺産ナスカ展 「アンデスのミイラが語ること」	篠田謙一氏（国立科学博物館 人類第一研究室長）	10月14日	講堂	130人
森鷗外と美術展 「陸軍軍医学校と美術」	陸自衛生学校・彰古館担当者	11月19日	講座室	40人
森鷗外と美術展「津和野と森鷗外」	木下直之氏（東京大学教授）	12月3日	講座室	70人
ロダン創造の秘密展 「ロダンのアトリエ」	ドミニク・ヴィエヴィル氏 （ロダン美術館館長、国家文化財首席学芸員）	2月4日	講堂	250人

■講演会シリーズ 「風景」を考える

タイトル・内容	講師	開催日	場所	参加者数
「南イタリアの風景再発見 ～グランドツアーの時代を中心に～」	陣内秀信氏（法政大学工学部建築学科教授）	11月5日	講座室	82人
昭和の風景の発見と創造	川本三郎氏（評論家）	12月2日	講座室	50人

美術講座

収蔵品の特色や展覧会のテーマ等への理解をはかり、美術に対する関心を高めるため、当館学芸員による講座を開催した。日ごろから研究に取り組んでいる学芸員の講座として好評を得ている。展示室前で作品を前にした解説や、日本画作品をケースに入れられない状態でじかにご覧いただく試み、子どもや親子を対象をしばった講座、また講座による鑑賞と簡単な工作とを連動させたものなど、ヴァリエーションの拡大に努めた。

■鑑賞講座 講座室および展示室

講座室で、スライドなどを交えながらレクチャーを行うもの。申込不要。

今年度は、子どもや親子対象のものも行い、その場合は展示室でも作品を見ながら実施した。

講座名	講師	開催日	参加者数
コレクション20年の熱情Ⅰ展 子ども鑑賞講座	南 美幸 (当館主任学芸員)	6月25日	17人
コレクション20年の熱情Ⅰ展 子ども鑑賞講座	南 美幸 (当館主任学芸員)	7月1日	15人
コレクション20年の熱情Ⅱ展 夏休み親子鑑賞講座	川谷承子 (当館学芸員) 森 充代 (当館学芸員)	8月8日	16人
コレクション20年の熱情Ⅱ展 夏休み親子鑑賞講座	川谷承子 (当館学芸員) 森 充代 (当館学芸員)	8月29日	8人
森鷗外と美術展	堀切正人 (当館主任学芸員)	11月18日	40人
美術講座「昭和の風景」	泰井 良 (当館学芸員)	12月10日	14人
ロダン創造の秘密展「《青銅時代》をめぐるスキャンダル」	泰井 良 (当館学芸員)	2月25日	70人
ロダン創造の秘密展「ロダンと二つの記念像」	小針由紀隆 (当館学芸課長)	3月3日	80人

■学芸員が語るこの1点 講座室および展示室

収蔵品を1点選び、当館学芸員が講座室で解説し、または展示室で作品を鑑賞するもの。申込不要。

講座名	講師	開催日	参加者数
コレクション20年の熱情Ⅱ「陰影で魅せる屏風絵解説」	飯田 真 (当館主任学芸員)	7月29日	30人
コレクション20年の熱情Ⅱ「円山応挙《木賊兔図》」	森 充代 (当館学芸員)	8月12日	15人
コレクション20年の熱情Ⅱ「ドナルド・ジャッド《無題》」	川谷承子 (当館学芸員)	8月26日	22人

■フロア・レクチャー 展示室

展示室で展覧会の見どころや代表作品について解説するもの。申込不要。

講座名	講師	開催日	参加者数
コレクション20年の熱情Ⅰ展	南 美幸 (当館主任学芸員) 山下義也 (当館主任学芸員)	6月10日	32人
コレクション20年の熱情Ⅰ展	飯田 真 (当館主任学芸員) 新田建史 (当館学芸員)	6月18日	22人
コレクション20年の熱情Ⅰ展	飯田 真 (当館主任学芸員) 新田建史 (当館学芸員)	6月24日	19人
コレクション20年の熱情Ⅰ展	飯田 真 (当館主任学芸員) 新田建史 (当館学芸員)	7月9日	32人
イタリアに恋して展	南 美幸 (当館主任学芸員)	11月19日	8人
森鷗外と美術展	堀切正人 (当館主任学芸員)	11月26日	50人
森鷗外と美術展	堀切正人 (当館主任学芸員)	12月16日	40人

■ 日本画をじかに見る

当館所蔵の日本画作品を、ケースに入れず、直接鑑賞していただくもの。要申込。

開催日	講師	参加者
3月4日	飯田 真 (当館主任学芸員) 山下善也 (当館主任学芸員) 森 充代 (当館学芸員)	47人

■ 移動美術展のフロアレクチャー

移動美術展会場にて作品を解説するもの。申込不要。

講座名	講師	開催日	参加者
移動美術展親子鑑賞講座	新田建史 (当館学芸員)	10、11月計2回	17人
移動美術展ギャラリートーク・プラス	新田建史 (当館学芸員)	10、11月計3回	145人
移動美術展ギャラリートーク	新田建史 (当館学芸員)	10、11月計4回	82人

■ 移動美術展での出張授業

移動美術展の開催地にある小中学校へ、学芸員が出張して授業するもの。p.36参照。

■ 出張美術講座

中学生文化芸術鑑賞推進事業（静岡県主催）の事前学習のため、学芸員が各中学校（計10校）に赴き、美術講座を実施。p.37参照。

内容	開催日	講師	参加者
出張美術講座	12月、1月	当館学芸員（9名）	2,146人

■ その他

当館ボランティアグループ「草薙ツアーグループ」が主催するイベント「草薙のんびりツアー」での作品解説。

講座名	開催日	講師	参加者
草薙のんびりツアーでの作品解説	4月15日、11月23日	堀切正人 (当館主任学芸員) 森 充代 (当館学芸員)	96人

技法セミナー

■ ロダンの技法を探る

「ロダン－創造の秘密」展関連企画

日 時＝平成19年2月10日(土)
午前10時30分～午後3時
講 師＝藤原徹氏(東北芸術工科大学教授)
場 所＝当館実技室および展示室
参加者数＝35名
申込制

「ロダン－創造の秘密」展開催にあわせ、ロダンの石膏技法を解き明かす講座を開催した。

ロダンが公的な展覧会に出品し、アトリエに置いて対話していたのは、石膏の作品であった。ロダンにとって石膏像はきわめて重要な制作工程のひとつであった。粘土、オリジナル型、石膏原型、鑄造、ブロンズ像へとつづく制作段階のそれぞれにおいて、ロダンは様々な創意を凝らしていたと思われる。その解説を聞いたのち、実際に展覧会場にて出品作品を鑑賞し、技法の視点から解説いただいた。

ギャラリートーク

ギャラリートークは、有志のボランティアによる展示作品の解説活動である。本年は21名が登録し、活動した。収蔵品展については、原則、毎月第2、第4土曜日に一日2回開催し、5つの企画展についても随時、開催した。さらに、1月、静岡県主催「中学生文化芸術鑑賞推進事業」により来館した中学生の団体への解説と、県助成制度「県民バス」や児童クラブの団体客などへの解説も行った。

参加してくれた来場者数は、その日の天候やイベントの有無などによって多寡があったが、参加者には、おおむね好評をいただいた。

ギャラリートークのための研修は、以下のように行われる。

- ・自己研修：ボランティア各自による自己学習。またテーマ、分野が同じメンバーによる勉強会。
- ・月例研修会：毎月第1木曜日PMに全員が集まり、各月のギャラリートークや勉強会の報告、意見交換、連絡などを行う。また次のリハーサルを展示会場内で行う。

以上二つの研修では、必要に応じて展示の担当学芸員と打ち合わせを行った。また学芸員を講師にした風景画についての講読会なども随時、開催した。



▲ ギャラリー・トーク

■収蔵品展

- ・収蔵品展ギャラリートーク

のべ26回開催。のべ参加者数250人

原則として、毎月第2、第4土曜日。第1回目14：00-14：20、第2回目15：00-15：20

開催日	テーマ	参加者数	
4月22日	新収蔵品展／同左	10	10
5月13日	ロダン／描かれた女性たち	15	15
5月27日	描かれた女性たち／ロダン	21	23
9月9日	大地の作品たち／セーヌの眺め	11	6
9月23日	セーヌの眺め／ロダン	5	20
10月14日	セーヌの眺め／同左	8	10
10月28日	イタリアに恋して／同左	8	8

開催日	テーマ	参加者数	
11月11日	イタリアに恋して／同左	5	4
11月25日	イタリアに恋して／同左	12	8
12月9日	描かれた昭和の風景／同左	10	7
12月23日	描かれた昭和の風景／同左	3	4
1月13日	日本画・浮世絵の魅力／同左	10	10
1月27日	日本画・浮世絵の魅力／同左	2	5

■企画展

展覧会会期中に随時開催。のべ134回開催。総参加者数2,674人

- ・「静岡ゆかりの画家」展（平成17年度より継続） のべ2回開催 のべ参加者数60人

4月2日(金)	30	30
---------	----	----

- ・「コレクション20年の熱情Ⅰ」展 のべ51回開催 のべ参加者数587人

6月9日(金) AM		8	6月23日(金) AM	10	10	7月2日(日) AM		15
6月9日(金) PM	16	10	6月23日(金) PM	20	6	7月2日(日) PM	5	10
6月10日(土) PM	8	18	6月24日(土) AM	12	12	7月7日(金) AM	20	7
6月11日(日) PM	20	20	6月24日(土) AM	10	20	7月7日(金) PM	5	3
6月11日(日) PM	10		6月25日(日) AM		10	7月8日(土) AM	10	15
6月16日(金) PM	2	2	6月25日(日) PM	6	23	7月8日(土) PM	17	15
6月16日(金) PM	3	8	6月30日(金) AM		7	7月8日(土) PM	15	
6月17日(土) PM	7	15	6月30日(金) PM	5	12	7月9日(日) AM	10	20
6月18日(日) AM		10	7月1日(土) AM		20	7月9日(日) PM	10	10
6月18日(日) PM	10	20	7月1日(土) PM	20	10			

・「コレクション20年の熱情Ⅱ」展 の23回開催 のべ参加者数480人

7月28日(金) AM	10
7月28日(金) PM	25
7月30日(日) AM	20
7月30日(日) PM	15
8月12日(土) AM	20
8月13日(日) AM	25
8月13日(日) PM	25
8月17日(日) AM	25

8月17日(木) PM	25
8月19日(土) AM	35
8月19日(土) PM	30
8月20日(日) AM	30
8月26日(土) AM	20
8月27日(日) AM	30
8月26日(土) PM	20
8月30日(水) AM	15

8月30日(水) PM	15
9月1日(金) AM	15
9月1日(金) PM	15
9月2日(土) AM	15
9月2日(土) PM	10
9月3日(日) AM	20
9月3日(日) PM	20

・「森鷗外と美術」展 のべ26回開催 のべ参加者数292人

11月12日(日) PM	8
11月12日(日) PM	10
11月17日(金) PM	2
11月17日(金) PM	4
11月23日(木) PM	15
11月23日(木) PM	13
11月24日(金) PM	15
11月24日(金) PM	15
11月24日(金) PM	15

11月26日(日) PM	9
11月26日(日) PM	10
12月1日(金) PM	6
12月1日(金) PM	4
12月2日(土) PM	10
12月2日(土) PM	6
12月8日(金) PM	20
12月8日(金) PM	15
12月10日(日) PM	10

12月10日(日) PM	10
12月15日(金) PM	15
12月15日(金) PM	15
12月16日(土) PM	10
12月16日(土) PM	0
12月17日(金) PM	25
12月17日(金) PM	20
12月17日(金) PM	10

・「ロダン 創造の秘密」展 のべ32回開催 のべ参加者数1,255人

2月17日(土) PM	30
2月17日(土) PM	30
2月18日(日) PM	50
2月18日(日) PM	45
2月23日(金) PM	15
2月23日(金) PM	15
3月2日(金) PM	25
3月2日(金) PM	20
3月4日(日) PM	40
3月4日(日) PM	50
3月9日(金) PM	40

3月9日(金) PM	15
3月10日(土) PM	60
3月10日(土) PM	50
3月11日(日) PM	60
3月11日(日) PM	60
3月16日(金) PM	30
3月16日(金) PM	15
3月17日(土) PM	40
3月17日(土) PM	30
3月18日(日) PM	60
3月18日(日) PM	60

3月18日(日) PM	60
3月21日(水) PM	60
3月21日(水) PM	60
3月23日(金) PM	30
3月23日(金) PM	30
3月24日(土) PM	30
3月24日(土) PM	15
3月25日(日) PM	60
3月25日(日) PM	40
3月25日(日) PM	30

■ 中学生文化芸術鑑賞推進事業への対応

月 日	ギャラリー トーカー数	来館 中学生数
1月15日(月)	1	372
1月16日(火)	0	372
1月17日(水)	1	367
1月18日(木)	2	364
1月19日(金)	2	370
1月22日(月)	5	364
1月23日(火)	2	364
1月24日(水)	2	359
1月25日(木)	5	369
1月26日(金)	4	381

■ その他 のべ10回 のべ参加者数 471人

月 日	ギャラリー トーカー数	団体者数	備考
7月25日(火)	11	50	20周年記念式典
8月8日(火)	4	50	児童クラブ
8月25日(金)	3	37	児童クラブ
9月13日(水)	3	120	県民バス
9月17日(日)	2	50	県民バス
11月23日(木)	2	54	草薙ツアー
2月4日(日)	2	20	県民バス
2月11日(日)	3	40	県民バス
2月21日(水)	1	20	県民バス
3月3日(土)	2	30	県民バス

実技・体験

■ 実技講座

- ①鑑賞することで表現が豊かになり、制作することで観る目が養われる。
- ②講師の作品に対する想いを聞き、様々な作品を鑑賞することで制作する楽しみを深める。
この2点をテーマに掲げ、今年度も実技講座が開催された。

〈森鷗外と美術〉展普及事業

実技講座「裸のところで裸を描こう」

当館では初めて実施した、裸婦デッサンをテーマとする実技講座である。「森鷗外と美術」展に合わせて開催された。

初日、参加者は講師の藤原由葵氏の作品を見ながら制作についての話を聞き、これから始まる講座への期待を膨らませた。一方、展示室では黒田清輝《智・感・情》を学芸員の解説を聞きながらじっくり鑑賞し、森鷗外が生きた時代、裸婦を描くことにどのような意味があったかについて思いをめぐらした。

午後からは実技室を暗幕で覆い、モデルを前にして裸婦デッサンが始まる。この日は20分のポーズを6回実施した。(最初の2回は短時間でポーズを変えながらクロッキー。3回目から固定ポーズで20分。)参加者は真剣そのものの様子で鉛筆を走らせ、モデルの美しさを捉えようと必死の様子であった。やはり、裸婦デッサンの会場には独特な緊張感が感じられる。

2日目は作品制作に取り掛かり、各自が持参した画材(水彩、油彩、パステルなど)によって制作を進めた。藤原さんは一人一人にデッサンの正確さを重視したアドバイスをし回り、参加者にとって、画家の厳しい視線を知る、良い機会となった。この日は計7ポーズを行い、完成した作品を実技室で展示、鑑賞することで講座を締めくくったが、どの作品も描くことの喜びが感じられるものであった。今の時代に、自分がなぜ裸婦を描くのか、それぞれが考えるきっかけになったのではないだろうか。

日 時＝平成18年11月11・12日

10：15～16：30

講 師＝藤原由葵氏(洋画家・美術博士)

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝20名

〈ロダン 創造の秘密〉展普及事業

実技講座「ロダン彫刻を写真に撮ろう」

こちらにも、当館初となる写真を取り上げた実技講座である。ロダンは自身の制作活動に写真を有効に活用したことが知られている。「ロダン 創造の秘密」展には貴重な写真資料も展示されていたため、関連する実技講座の内容を考える際、粘土や石膏などによる塑像制作ではなく、写真をテーマとしたのは、自然な流れであった。従って、ファインダー越しに見ることで、彫刻の鑑賞を深めることが講座の目的であり、写真技術の習得は基本的な段階に留めた内容となった。

講師の写真家、篠原誠司氏のレクチャーを受けた参加者は、各自が持参したデジタルカメラを持って、ロダン館の作品や別室でライティングされた収蔵品を撮影して回った。その後、実技室に用意したパソコンに、SDカードの情報を読み込み、プロジェクターを使ってスクリーンに画像を映して鑑賞。それぞれが一番良いと思った作品1点を選ぶ。カメラの目で見たロダンの作品は、今まで気付かなかった新鮮な魅力に満ちていた。篠原さんの講評も撮影者本人ですら見逃しているような、その写真の面白さを発見させてくれるもので、参加者から驚きの声が上がっていた。最後にベストショットを印刷して持ち帰ってもらったが、ロダンの視点に少し近づいた気分になる講座であった。

日 時＝平成19年3月10・11日

10：15～16：00

講 師＝篠原誠司氏(写真家・Gallery Art SPACE主宰)

場 所＝当館実技室・ロダン館展示室

参加者数＝11名



■ 創作週間

長年、自主制作の場として親しまれてきた実技室の自由工房であったが、学校向けの美術館教室が火～木曜日に定着し、週末3日間の開室が限界となっていた。その3日間も他の事業を開催するためには障害となる例もでてきたため、今後の普及事業全体を考え、今までの実施形態を再考すべき時期に来たとの判断から、自由工房を創作週間へ展開し、今年度から毎月第3週を基本に5日～10日間、通して実施することとした。内容的には変わらず、参加者の自主制作を基本とするため、高校生以上の個人を対象とし、インストラクター来室日には実技上の相談や助言を行った。主な活動内容は、実技室が持つ大型の版画プレス機を使った各種の版画、デッサン、水彩画、油彩画の制作など。圧倒的に週末の実施日が減ることから、利用者の減少が心配されたが、実際には年間で800人を超える方に利用していただいた。スタッフの予想を大幅に上回る数字であったが、一番混み合うのが火、水曜日であったことなどから、平日の方が来館しやすい顧客層が少なからず存在することを示すデータとして興味深い。大人向けの事業を組む際の参考になるだろう。毎日、画材を持ち帰らなくても良い点や、一週間を通して、じっくり制作に取り組めることも好評を得た理由と思われる。

一方、創作週間に移行したことで、実技室の週末スケジュールに余裕が生まれ、他の事業を積極的に実施できるようになった。第2週の土日は、版画入門やワークショップなどを集めて講座の週末とし、第1週、第4週の土日には親子で参加できる美術体験事業を重点的に実施することが可能になるなど、実技室のスケジュールが大きく組み替えられた年になった。

これらの事業は展示会の作品鑑賞とは直接の関わりを持たないものも多いが、「美術館だからこそ」の内容に特化することで、施設での体験から美術館の魅力を伝える重要な役割を担うものである。美術館活動の幅を広げるといふ意味でも大切にしたいと考えている。

開室日数＝93日 毎月第3週を基本として、5～10日間程度実施

10：00～16：30

講師＝日下文氏（日本画家・創作週間インストラクター）

利用者数＝829名

■ ロダン館デッサン会

今年度もロダン彫刻の素描を通してより鑑賞を深めると同時に、新たな創作の場となることを期して「ロダン館デッサン会」を実施した。全国的に見ても珍しい、展示室内でロダン彫刻を素描する機会の提供に主眼を置き、参加者同士で行う感想会を、毎回終了時に設けた。

期 間＝毎月第3金・土曜日

（本年度計24回実施）

講師＝岡村あさ乃（当館普及スタッフ）

参加者数＝602名

■ 版画入門

今年度も、大人向けの体験講座として、版画入門の日を設けた。作品制作の手順や基本的な技法、材料の扱い方などと共に、鑑賞を重視した内容も積極的に盛り込み、凹・凸・孔・平の基本4版種をすべて紹介することができた。後日、実技室で講座の続きや新作の制作に取り組む方も増えており、着実に広がりを見せている企画である。

リトグラフ＝6月10日・11日

シルクスクリーン＝12月9日・10日

銅版画＝4月15日

木版画＝1月13日・14日

特別編「版画の楽しみ方」＝11月3日

10：15～16：15

講師＝柳本一英氏（版画家）

北川純氏（美術家・Tシャツアーティスト）

当館スタッフ

参加者数（通算）＝55名

■ 創作週間イベント

日本画講座「岩絵の具ことはじめ」

創作週間の期間中、平日の利用を促進する目的で企画したのが創作週間イベントである。創作週間インストラクターの日下文氏を講師に、当館の収蔵品の中でも大きな割合を占める日本画を取り上げ実施した。

参加者は初日、美術館周辺で拾った石や、顔料の元となる鉱物、胡粉をすり潰して岩絵の具を作る。根気がある作業であるが、普通の石からも思いがけないほ

ど美しい色が出ることに感心しながら、描くための準備は終了。2日目は実技室外のプラ舟に入れた本物の金魚を全員でデッサンし、各自が作った岩絵の具で彩色を開始した。生きている金魚は動くため、日ごろ絵を描きなれた人でもその様子を描く事は難しい。しかし、それだけに描かれた形には時間の流れや金魚の動きもしっかり反映されており、観察して描くことの大切さを改めて感じさせられた。2日間の日程では、作品が仕上がった人は少なかったが、講座が終わった後も、創作週間の中で納得いくまで取り組む人が多く、その後の実技室利用に繋がる講座となった。

日 時＝平成18年10月17・18日
10：30～16：30
講 師＝日下文氏（日本画家・創作週間インストラクター）
場 所＝当館実技室
参加者数＝12名

■ ミュージアムコンサート

企画展の普及事業として、ロダン館などを会場にしたミュージアムコンサートが、今年度も開催された。計3回で970名の参加者を得ている。

〈ロダン館ミュージアムコンサート〉

1. 松谷卓ミュージアムライブ
平成18年6月17日(土) 18：00～
出演／松谷卓氏（ピアノ）
多井智紀氏（チェロ）

「コレクション20年の熱情Ⅰ」の会期中に開催されたロダン館でのコンサート。テレビ、映画、CM音楽などで注目を集める松谷卓氏のアコースティックライブが多くの観客を魅了した。

2. 小澤真智子 ヴァイオリンコンサート
平成18年8月19日(土) 18：00～
出演／小澤真智子氏（ヴァイオリン）
城戸春子氏（チェロ）

こちらは「コレクション20年の熱情Ⅱ」関連のコンサート。クラシックからジャズやタンゴ、小澤氏のオリジナル作品など、バラエティーに富んだ内容で、1時間20分の公演は大盛況であった。

〈世界遺産ナスカ展関連普及事業〉

瀬木貴将サンポーニャ&ケーナコンサート
平成18年10月8日(日) 14：00～
会場／当館講堂
出演／瀬木貴将氏（サンポーニャ&ケーナ）

本展覧会のテーマ音楽を制作、演奏する瀬木貴将氏のコンサート。南米アンデス地方の伝統楽器、サンポーニャとケーナの演奏を御披露いただいた。



小澤真智子ヴァイオリンコンサート 会場の様子



■ 進化する | 静岡県立美術館 〇 | もっとアートをもっとよるこびを。 |

▲ チラシ

実技・体験

■ 子どもたちの粘土開放日

今年度も、友の会より寄贈された土練機と1tを超える量の水粘土を使用し、少量での物作りとは違った感覚で粘土遊びを体験する会を実施した。親子での参加を基本とし、午前と午後の2つの時間帯を設けた。技術的指導はなし。年々、参加者が増加しており、何度も参加してくれる親子がいる一方で、毎回、新規の利用者も半数近くを占めることから、この事業が地域に根を下ろし、広がりを見せていることが感じられる。継続することで人々の意識に浸透し、良い結果を上げている例と言えよう。

この粘土開放日をはじめ、実技講座、粘土ワークショップで実技室ボランティアさんにお手伝いいただく場面が今年度も多数あった。平成12年度から呼びかけに応じていただいております、なくてはならない存在である。

期 間＝毎月第4日曜日を基本とし、計12回実施した。
講 師＝石上和弘氏（彫刻家）
助 手＝富山竜一氏
場 所＝当館実技室
参加者数＝2,701名

■ 絵の具開放日

実技室のスケジュールを組み換えることで、今年度から新たに始まった事業である。自分の体よりはるかに大きなスペースに、のびのびと絵を描く喜びを感じてほしい。そのような思いから、晴れた日は屋外の石畳に、雨天時や寒い季節は実技室に吊るした大きな透明ビニールクロスに、親子で自由に絵を描くことを楽しんでもらう内容とした。従って、何かの形をうまく描けるようになることが目的ではない。参加者の様子を見ていると、子どもたちはどんどん自分たちで絵の具遊びを発明して、楽しんでいるように見える。保護者にも、子どもと一緒に心を開放し、楽しみを共有できる機会として好評であるため、今後、定番の粘土開放日のように、多くの方に喜ばれる企画に育てていきたいものである。

期 間＝毎月第1日曜日を基本とし、計10回実施した。
講 師＝奥中章人氏（美術家）
助 手＝富山竜一氏・丸山研二郎氏
場 所＝当館実技室・屋外展示テラス
参加者数＝1,789名



室内で行う絵の具開放日

■ 土曜工作室

今年度新たに開講した、大人から子どもまでを対象としたプログラム。毎月第4土曜日に開催される。彫刻、立体造形の面白さを発見、体験してもらうため、粘土やダンボール、新聞紙や石膏など、様々な素材を使って多様な遊びを提案し、参加者の予想を超える、スケールの大きな活動に取り組んだ。講師の彫刻家、石上和弘氏の指導を受けながら、夢中で取り組んだ子どもたちが「またやりたい！」と口々に言い残して帰宅することからも分かるように、充実した内容の講座になった。

期 間＝毎月第4土曜日を基本とし、計12回実施した。
講 師＝石上和弘氏（彫刻家）
助 手＝富山竜一氏
場 所＝当館実技室
参加者数＝290名



土曜工作室「ダンボールで家を作る！」

■ 色彩アトリエ

第1土曜日には、年10回、色彩アトリエが開催された。こちらは「先入観を取り払って描く」ことの面白さや、色彩が持つ魅力を感じてもらえる講座である。講師は画家の持塚三樹氏。草の根っこを筆にしたり、クレヨンで虹色のカーボン紙を作るなど、様々な画材を使って制作するうちに、参加者の小中学生は、上手なことだけが絵を描く楽しさではないと気付くだろう。それは、一緒に活動する保護者の方にとっても同じではないだろうか。

期 間＝毎月第1土曜日を基本とし、計10回実施した。

講 師＝持塚三樹氏（画家）

助 手＝富山竜一氏

場 所＝当館実技室・美術館周辺

参加者数＝364名



色彩アトリエ「ガラス越しの風景」

ワークショップ

■ 夏休み子どもワークショップ

「展覧会で遊んじゃえ！」

日 時＝平成18年8月1日～8月6日

3日間のプログラムを2回実施

講 師＝学芸員 川谷承子・森充代

普及スタッフ 福元清志 増田洋子

ゲストインストラクター＝森 出氏

(Choreopoet＝おどる詩人)

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝48名

美術館で行うワークショップは、美術館という場であるからこそできる内容でありたいと考えている。そこで当館では、創作だけでなく、展覧会や作品の鑑賞とからめたワークショップが、いろいろと試みられている。

毎年恒例の夏休み子どもワークショップであるが、今年は少し雰囲気が変わっていた。「展覧会で遊んじゃえ！」という、タイトルが示すように、展示室で作品の鑑賞を楽しむことに目的を絞り、講師も、学芸員と普及スタッフが協力して務めた。開催中の「コレクション20年の熱情Ⅱ 時代を超える個性」展や、ロダン館の作品の魅力を子どもたちに伝えるためには、スタッフの綿密な打ち合わせが必要だったためである。

初日、円山応挙の作品を基にした「兎パズル」で気持ちをほぐしてから、展示室で学芸員と一緒に作品を鑑賞した子どもたち。この「展覧会不思議発見」では、彼らの自由活発な発言の中に、鋭い感受性が垣間見られた。また、今年度から作成を始めた「収蔵作品解説シート」10作品分も、鑑賞のヒントになるものとして好評であった。午後は、森村泰昌の作品からアイデアを得た、「撮って・貼って・絵に潜入」など、作業も絡めながら作品への理解を深める。

2日目には、パリで活躍している、おどる詩人 森出（もり いづる）氏がゲストインストラクターとして登場。森さんの研ぎ澄まされた身体表現に触れ、楽しい遊びの中で五感を高めた子どもたちは、ロダン館で地獄の門を食い入るように見つめていた。ロダン彫刻の前で森さんと一緒に踊った少年は、その夜、空を飛んだ夢を見たそうである。

最終日の午前中は、体全体を使った絵の具遊びをヒントに、画面には描かれていないが、感じられることを探す「見えないものを見る計画」に挑戦。疲れを感じさせない新鮮な発言に、これまでの成果を実感した。最後は3日間の作業で作ったものをまとめて、全員で

金屏風を作り、展示室で鑑賞。子供たちの表情はとても満足そうであった。2回のワークショップで完成した、六曲一双の屏風が、夏休みの期間中、エントランスホールに展示され、多くの人の目を楽しませるなど、展覧会の鑑賞と体験型事業の融合を模索する、極めて意欲的な内容のワークショップであったと考えている。

夏休み子どもワークショップの様子



ゲストインストラクターの森出氏とロダン館で踊る参加者



全身を使って描く体験



展示室で作品を見る子どもたち

■ 絵画ワークショップ

このワークショップは、絵画の描き方や技法を学ぶことよりも、描くことの喜びが感じられる体験であることを重視している。柔軟な発想による制作を通じて、新たな視点を発見することを目指し、3年目の今年も展覧会の作品と関連した内容で、3回のワークショップを実施した。

●〔勝手に若冲 とことん柘目描き〕

日 時＝平成18年5月3日・4日

講 師＝浅見貴子氏（画家）

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝20名

参加者は40cm平方のパネルに、伊藤若冲《樹下鳥獣図屏風》の柘目描きと同じ技法を使い、作品から受けたインスピレーションを基にした作品制作を体験した。小さな作品ではあるが、1つ1cmの柘目を1,600個描き上げるのは根気のいる作業であり、その分、仕上がった作品はどれも充実した密度感を持つものとなっていた。

●〔地面〕

日 時＝平成18年10月8日・9日

講 師＝持塚三樹氏（画家）

場 所＝当館実技室・展示室

参加者数＝21名

収蔵品展「大地の作品たち」の出品作品を鑑賞し、地面に関連した制作を行った。外に出て地面の凹凸をフロッタージュしたり、マチエールを生かした制作の面白さを体験した後、それらの素材をまとめて各自が床置き作品を制作。全員の作品を繋げて道を表現し、美術館の内外、様々な場所に展示してワークショップをまとめた。

●〔noir et blanc〕

日 時＝平成19年2月3日・4日

講 師＝持塚三樹氏（画家）

場 所＝実技室・エントランスホール

参加者数＝13名

「ロダン 創造の秘密」展の開催に合わせて実施したプログラムである。参加者は、渡された白黒コピーの模様を、60cm×90cmの和紙に拡大し、胡粉と墨を使って書き写していった。この時、和紙の裏側まで墨が染み込むのがポイントである。

紙が乾燥したら25枚を順番に繋ぎ合わせ、裏面から

見ると縦3m×横4.5mの大画面にロダン作《眠り》が浮かび上がる。和紙の滲みがやわらかく独特な表情を見せ、ロダンの石膏作品と日本の伝統的な素材が調和した不思議な作品が完成した。この作品は展覧会の会期中、エントランスホールに展示され、来館者の目を楽しませた。

学校連携普及事業

美術館教室

平成17年度から学校連携普及事業のプログラムを1つにまとめ、「美術館教室」の名称で広報した。実技だけでなく、鑑賞、体験実習などのプログラムについても新たに開発し、児童生徒の幅広い学習活動をサポートできる、バランスの取れた体制を目指している。

■「粘土ワークショップ

ー学校のためのプログラムー

講師＝石上和弘氏（彫刻家）・奥中章人氏

場所＝当館実技室

約1トンの水粘土を使用。体感的なプログラムを通して、粘土との触れ合いや彫刻制作のプロセスを知る手がかりをつかむことを目的としている。

開催日	利用校	利用者数
4/28	静岡市立大谷小学校4年	58名
5/23	静岡市立東豊田中学校3年	25名
5/25	静岡市立井宮小学校5年	46名
5/25	静岡市立井宮小学校5年	46名
6/2	静岡市立東源台小学校3年	34名
6/22	静岡市立飯田東小学校5年	93名
6/23	静岡市立森下小学校6年	67名
6/23	静岡市立青葉小学校3年	24名
7/26	興津児童クラブ1～3年	50名
7/26	南部児童クラブ1～3年	36名
7/27	瀬名児童クラブ1～4年	32名
7/27	中島児童クラブ1～4年	38名
7/28	大谷児童クラブ1～4年 西奈児童クラブ1～4年	87名
7/28	美和児童クラブ1～4年	11名
8/8	浜田児童クラブ1～5年	36名
8/9	駒越児童クラブ1、2年	51名
8/9	庵原クラブ1～3年	47名
8/10	有度第二児童クラブ1～3年	36名
8/11	東豊田児童クラブ1～3年	60名
8/11	川原児童クラブ1～3年	51名
8/11	辻児童クラブ1～3年	28名
8/22	清水児童クラブ1～4年	81名
8/22	富士見児童クラブ1～3年 井宮児童クラブ1～3年	83名
8/23	中田児童クラブ1～3年 麻機児童クラブ1～3年	74名
8/23	新富町児童クラブ1～3年 竜南児童クラブ1～3年	65名

開催日	利用校	利用者数
8/24	NPO法人どろんこ1～6年	48名
8/24	西豊田児童クラブ1～3年	66名
8/25	飯田東児童クラブ1～3年 飯田児童クラブ1～3年	82名
8/25	有度第一児童クラブ1～3年 袖師児童クラブ1～3年	68名
8/29	新川児童クラブ1～4年 三保第二児童クラブ1～3年	86名
8/29	城北児童クラブ1～4年	57名
8/30	入江児童クラブ1～3年 岡児童クラブ1～3年	88名
8/30	宮竹児童クラブ1～3年	41名
9/22	静岡市立中田小学校2年	68名
9/22	静岡市立中田小学校2年	64名
9/26	静岡市立清水岡小学校2年	85名
9/26	静岡市立清水岡小学校2年	87名
9/27	静岡市立浜田小学校3、4年	49名
10/4	静岡市立森下小学校なかよし学級	28名
10/4	静岡市立東源台小学校3年	31名
10/5	島田市立伊久美小学校1～6年	22名
10/5	静岡市立森下小学校1年	53名
10/6	静岡市立東源台小学校3年	32名
10/11	静岡市立竜南小学校1年	48名
10/27	静大付属小学校養護学級	19名
10/27	南部養護学校1～6年	8名
11/1	静岡市立大里西小学校3年	74名
11/2	静岡市立浜田小学校2年	41名
11/7	静岡市立大里西小学校3年	78名
11/9	静岡市立森下小学校2年	75名
11/10	静岡市立清水小島小学校3年	76名
11/10	静岡市立南藁科小学校2年	35名
11/21	静岡市立中田小学校4年	65名
11/22	静岡市立中田小学校3年	64名
12/6	静岡市立籠上中学校養護学級	12名
12/7	静岡市立伝馬町小学校養護学級	7名
1/22	静岡市立清水船越小学校5年	39名
1/25	静岡市立蒲原北小学校6年	62名
1/25	静岡市立梅ヶ島小学校1～6年	41名
計		3,058名



■ 粘土遊び

講師＝奥中章人氏

助手＝三浦香織氏・若山達示氏

場所＝当館実技室

平成17年度から美術館の予算で運営され、昨年度と同じインストラクターが担当した。そのため、プログラムの内容や子どもたちとの接し方などについても経験が生かされ、充実した活動が展開できた。

開催日	利 用 園	利用者数
5/10	静岡ふたば保育園 年中、年長児	40名
5/10	リリー幼稚園 年中、年長児	55名
5/23	入山保育園 全園児	49名
5/24	北安東保育園 年中、年長児	43名
5/24	月影保育園 全園児	56名
5/26	有度十七夜山保育園 年中、年長児	64名
5/30	田町幼稚園 年長児	112名
5/31	精華幼稚園 年長児	69名
6/2	バプテスト幼稚園 全園児	36名
6/6	藤枝聖マリア保育園 年中、年長児	68名
6/6	城東保育園 年長児	42名
6/22	隣人会保育園 年中、年長児	81名
6/27	静岡聾学校 全園児	14名
6/27	かえで幼稚園 全園児	78名
6/28	サレジオ幼稚園 年長児	63名
6/29	ゆりかご保育園 年中児	17名
6/29	竜南保育園 年長児	33名
6/30	ゆりかご保育園 年長児	12名
6/30	あゆみ第二保育園 年長児	35名
9/20	若竹幼稚園 年長児	39名
9/20	ともえ保育園 全園児	13名
9/21	若竹幼稚園 年少児	47名
9/21	NPO法人ハルモニア	29名
9/27	小鹿保育園 年中、年長児	87名
9/28	若竹幼稚園 年中児	40名
9/28	静岡南幼稚園 年長児	89名
10/6	東海大附属幼稚園 年長児	34名
10/11	瀬名川保育園 年長児	52名
10/24	田町幼稚園 年中児	58名
10/24	田町幼稚園 年中児	58名
10/25	橘保育園 全園児	83名
10/25	あけぼの保育園 年長児	46名
10/26	若草保育園 年中、年長児	64名
10/26	こまどり幼稚園 年中児	43名
11/1	麻機幼稚園 年長児	83名

開催日	利 用 園	利用者数
11/2	麻機幼稚園 年中児	81名
11/7	丸子幼稚園、アソカ幼稚園 年少児	47名
11/8	たちばな幼稚園 年長児	81名
11/21	東豊田幼稚園 年長児	39名
11/22	精華幼稚園 年中児	63名
11/30	有度東保育園 年長児	37名
12/1	東海大附属幼稚園 年中児	39名
12/5	あけぼの保育園 全園児	55名
12/5	風の子保育園 年長児	26名
12/6	丸子幼稚園、アソカ幼稚園 年中児	48名
12/8	丸子幼稚園、アソカ幼稚園 年長児	56名
12/8	矢部保育園 年中、年長児	38名
計		2,442名

■ 絵の具ワークショップ

講師＝奥中章人氏

助手＝三浦香織氏・若山達示氏

場所＝当館屋外展示テラス・実技室

粘土ワークショップに続く実技プログラムとして開発した絵の具ワークショップを、今年度から本格的に実施した。内容を検討しつつ展開していく予定である。

開催日	利 用 校	利用者数
4/26	田町幼稚園 年長児	54名
4/27	田町幼稚園 年長児	53名
5/9	うみのごセンター 年中、年長児	16名
5/11	丸子幼稚園 年中児	27名
5/12	賤機保育園、大河内保育園全園児	69名
6/1	こまどり幼稚園 年長児	46名
6/1	若草保育園 年長児	31名
6/7	田町幼稚園 年中児	41名
6/7	静岡市立清水船越小学校2年	47名
6/8	丸子幼稚園 年長児	30名
6/8	若草保育園 年中児	33名
6/9	静岡市立森下小学校3年	54名
6/20	田町幼稚園 年中児	40名
6/20	静岡市立東豊田中学校3年	26名
6/21	田町幼稚園 年中児	40名
6/21	静岡市立清水船越小学校3年	48名
9/29	矢部保育園 年中、年長児	49名
9/29	あけぼの保育園 年長児	46名
10/3	中原幼稚園 年長児	40名
10/3	静岡市立浜田小学校4年	51名

開催日	利 用 校	利用者数
10/12	麻機幼稚園 年長児	82名
10/12	静岡市立船越小学校 2年	54名
10/13	静岡市立森下小学校 4年	59名
10/13	静岡市立船越小学校 2年	45名
11/24	静岡市立船越小学校 4年	36名
11/24	かえで幼稚園 年中、年長児	37名
11/28	サレジオ幼稚園 年中児	50名
11/28	静岡市立清水船越小学校 4年	45名
11/29	中原幼稚園 年中児	34名
11/29	静岡市立船越小学校 4年	39名
計		1,322名

■ ロダン館鑑賞、ロダン館ななふしぎ

講 師＝増田洋子・福元清志（当館普及スタッフ）
場 所＝当館ロダン館

クイズに答えながらロダン作品の理解を深める鑑賞プログラム。粘土ワークショップやブロンズ鑄造ビデオ鑑賞など、他のプログラムと併せて実施することも多かった。年々、体験する生徒数が増えており、「前回、生徒に大好評だったので今年も参加した。」という先生の声をいただいている。

開催日	利 用 校	利用者数
4/14	鳥田実業高等専修学校	20名
4/28	静岡市立大谷小学校 4年	58名
5/2	静岡市立清水南部小学校 6年	128名
5/9	静岡市立東豊田中学校 3年	25名
5/11	牧之原市立地頭方小学校 6年	55名
5/25	静岡市立井宮小学校 5年	46名
5/25	静岡市立井宮小学校 5年	46名
5/30	静岡市立東豊田中学校 1年	23名
6/22	静岡市立飯田東小学校 5年	93名
6/23	静岡市立青葉小学校 3年	24名
7/28	千代田東児童クラブ 1～3年	48名
8/25	清水袖師児童クラブ 1～3年	36名
8/25	飯田東・飯田児童クラブ	82名
9/20	静岡市立東源台小学校 2年	93名
9/22	静岡市立中田小学校 2年	68名
9/22	静岡市立中田小学校 2年	64名
9/26	静岡市立清水岡小学校 2年	87名
9/26	静岡市立清水岡小学校 2年	85名
11/2	静岡市立清水浜田小学校 2年	35名
11/10	静岡市立清水小島小学校 3年	76名

開催日	利 用 校	利用者数
11/14	静岡市立東源台小学校 5年	9名
11/16	静岡市立長田北小学校 2年	92名
11/24	裾野市立東小学校 保護者	25名
12/15	静岡県立静岡北養護学校	8名
12/20	富士常葉大学 1～4年	39名
1/22	静岡市立清水船越小学校 5年	72名
1/25	静岡市立大河内小学校 2年	7名
2/14	島田市立初倉南小学校 5年	46名
2/22	静岡市立清水蒲原小学校 3～6年	22名
計		1,512名

■ 移動展美術講座

講 師＝新田建史（当館学芸員）

今年度の移動美術展は浜松市（旧浜北市）と下田市で開催されたが、普及事業としては、例年実施していた「移動粘土ワークショップ」を取りやめ、鑑賞と直結する内容の講座を考えた。その結果、展示会場に来た生徒が、学芸員から作品の見方についてのアドバイスを受け、銅版画の刷りの実演も見ながら展示作品を鑑賞した「移動美術展を楽しむための美術講座」と、各学校に学芸員が出張して、移動展の見所や作品の解説、展覧会鑑賞時のマナーについて話をした「学芸員による出張美術講座」を開催することが出来た。開催地の学校に希望を募ったところ、15団体から申し込みがあり、すべての学校を対象に希望通り実施している。出張美術講座でも、講座の後、多くの生徒やその保護者が展示会場を訪れ、本物の作品に触れる機会につながった。また、静岡県立美術館の存在を広く知らしめることが出来たと考えている。

○移動美術展を楽しむための美術講座

開催日	開 催 校	利用者数
9/30	子どもアートスタジオ	24名
10/4	浜松市立浜名小学校 6年	96名
10/6	浜松市立伎倍小学校 5年	68名
11/6	下田市立浜崎小学校 5、6年	76名
11/7	下田市立下田小学校 5、6年	120名
11/7	下田市立稲生沢中学校 1年	49名
11/8	下田市教育委員会生涯学習課	40名
11/9	下田市立下田東中学校 1年	43名
11/9	下田市立下田東中学校 2年	49名
11/10	下田市立下田東中学校 3年	48名
計		613名

○学芸員による出張美術講座

開催日	開 催 校	利用者数
10/5	浜北市立北浜小学校 5、6年	168名
10/6	浜松市立新原小学校 3、4年	103名
10/7	浜松市立内野小学校 3、4年	146名
10/7	浜松市立内野小学校 5、6年	126名
10/12	浜松市立鹿玉小学校 5、6年	112名
10/12	浜松市立鹿玉中学校 1、2年	147名
計		802名

■ 鑑賞授業

- ・当館収蔵作品の金澤健一作《音のかげら》を用いたワークショップ 2校31名
- ・「ブロンズ彫刻の作り方」ビデオとロダン館の鑑賞を組み合わせた授業 6校
- ・盲学校の「彫刻をさわって鑑賞するプログラム」の利用 4団体35名

■ 施設見学

- ・普段は入れない美術館の裏側に案内し、知られざる美術館の姿を紹介する「裏方ツアー」の利用 9校153名
- ・学芸員の仕事を体験する「職場体験」の利用 5校10名
- ・総合学習の利用 11校

■ ロダン館スケッチ・デッサン

- ・小学校の授業、専門コースのある高校が実施した。 3校90名

■ 貸し出し

- ・展覧会の事前学習などに利用していただくための、スライド、ビデオ、図録などをセットにした「鑑賞キット」の貸し出し 4校
- ・粘土ワークショップを自校で開催するための粘土、土練機などの貸し出し。粘土ワークショップの教員研修で指導のポイントと粘土や道具の扱いを覚えた上で、借りていく熱心な先生が多かった。 6校

■ 先生が利用するプログラム

- ・粘土ワークショップを自身で指導されたい先生の為の「教員研修」の利用 13名
- ・展覧会の内容を授業などに活用したいと考えてい

る先生のための「ティーチャーズレクチャー」の利用 2団体

- ・美術館利用の方法について説明する「学校ガイドランス」を開催 7校
- ・美術館での教員研修会の利用 3団体
- ・学校と美術館の連携について意見交換をする研修会への出席 3件

■ 大学生の利用

- ・インターンシップ実習（美術館での活動体験） 3校
- ・粘土ワークショップ研修 1校

■ 中学生文化芸術鑑賞推進事業

美術館が所蔵する絵画・彫刻の鑑賞や本格的な劇場での舞台芸術の鑑賞を提供することにより、県内の中学生の豊かな心を育むとともに、文化芸術の素晴らしさを知ってもらうことを目的として行われた。美術館では来館前の事前学習として、希望する10校に学芸員が出張して美術講座を行った。話を聞いてから来館すると、鑑賞する際の生徒の集中力が違ってくる为好評であった。

期 間＝平成19年1月10日～1月26日までの間で12日間
来 館 数＝20市町村から31校

延べ5,296名（引率者を含む）

○出張美術講座開催校

開催日	開 催 校	利用者数
12/4	焼津市立小川中学校 2年	125名
12/6	常葉学園菊川中学校 1年	44名
12/7	袋井市立浅羽中学校 1、2年	424名
12/15	浜松市立南部中学校 2年	217名
1/11	富士市立吉原第二中学校 2年	218名
1/15	浜松市立北星中学校 1年	190名
1/16	浜松市立都田中学校 2年	146名
1/17	富士市立富士南中学校 2年	279名
1/17	伊東市立宇佐美中学校 1、2年	172名
1/18	浜松市立丸塚中学校 1、2年	331名
計		2,146名

博物館実習

当館は、静岡県唯一の県立の博物館施設であることから、開館当初より博物館実習の場と機会を提供してきた。実習生の受入には、以下の3つを条件としている。

- ①県内出身者または県内の大学に通学していること
- ②美学美術史学、または美術教育・美術制作専攻であること
- ③大学の推薦を受けていること

当館の博物館実習は、実習生に直に美術館での経験の機会を提供するのみならず、社会の中での美術館の役割を理解し、将来の美術館を担う一員として経験の第一歩をしるす場であることを目指している。

本年は、9大学から15名の実習生を受け入れた。

カリキュラムは見学・講義・実習からなり、それぞれを当館の学芸員と総務課職員が担当した。

本年は、「美術館に必要なもの／不要なもの」というテーマを設定し、現在日本の美術館に求められているものは何なのか、またその反対に不要なものは何なのかを、「利用者として」、また「美術館職員として」実習生に考えてもらう実習とした。このテーマに沿って、当館以外の美術館の現状について調査した結果を実習中に発表し、また実習後の成果をまとめたレポート提出を課題としたことが特徴である。

■ 実習内容

□ 講義

- ①静岡県立美術館の特色〔他館と比較した場合の特徴や個性についての総論〕（小針・学芸課長）
- ②当館の教育普及活動概要〔講座系・実技系普及事業の概括〕（福元・主任）
- ③ボランティア活動〔他館と比較した場合の活動の特質など〕（森・学芸員）
- ④展覧会ができるまで（国内展）〔「森鷗外と美術」展の成立から現在まで〕（堀切・主任学芸員）
- ⑤展覧会ができるまで（海外展）〔「イタリアの光景」展の企画・開催・その後〕（小針）
- ⑥コレクションの形成と収蔵品展の工夫〔当館の収集活動の歴史と特質、収蔵品展での工夫について〕（山下・主任学芸員）
- ⑦作品の保全管理〔当館の作品保全の取り組みについて一虫害、地震対策など〕（新田・学芸員）
- ⑧美術館評価活動〔美術館評価活動とは何か？その取り組みについて〕（泰井・学芸員）

□ 実習

- ①作品取り扱い実習：日本画（飯田・主任学芸員、山下・主任学芸員）
油彩画・版画（南・主任学芸員、村上・学芸員）
- ②収蔵庫内見学・実習（飯田・主任学芸員、新田・学芸員）

□ 演習

課題発表と課題制作（南・主任学芸員）

□ 見学

- ①夏休み子どもワークショップ見学（教育普及スタッフ）
- ②施設（主にバックヤード）見学（桜井・管理係長）

■ カリキュラム

7月31日（月）

- 10：00～11：00 オリエンテーション（南）
11：10～12：00 （講義①）静岡県立美術館の特色
（小針）

昼食

- 13：00～14：00 （講義②）当館の教育普及活動概要
（福元）
14：10～15：00 （講義③）ボランティア活動（森）
15：10～16：00 （演習）課題発表と課題制作（南）
16：30～17：00 実習ノート整理

8月1日（火）

- 10：00～10：50 （演習②）課題発表と課題制作（南）
11：00～11：50 （演習③）課題発表と課題制作（南）

昼食

- 13：00～14：10 （見学①）夏休み子どもワークショップ見学
14：20～15：20 （見学②）施設見学（桜井）
15：30～16：20 （講義④）展覧会ができるまで
（堀切）
16：30～17：00 実習ノート整理

8月2日（水）

- 10：00～10：50 （講義⑤）展覧会ができるまで
（小針）
11：00～11：50 （講義⑥）コレクションの形成と
収蔵品展の工夫（山下）

昼食

- 13：00～13：50 (実習②) 収蔵庫見学・実習
(飯田、新田)
- 14：00～16：10 (実習①) 作品取り扱い実習
(日本画—飯田、山下)
(油彩画、版画—南、村上)
- 16：20～17：00 課題制作、実習ノート整理

8月3日(木)

- 10：00～10：50 (講義⑦) 作品の保安全管理(新田)
- 11：00～11：50 (見学①) 夏休み子ども
ワークショップ見学

昼食

- 13：00～13：50 (見学⑤) 夏休み子ども
ワークショップ見学
- 14：00～16：00 (実習②) 収蔵庫見学・実習
(飯田、新田)
- 16：10～17：00 課題制作、実習ノート整理

8月4日(金)

- 10：00～10：50 (講義⑧) 美術館評価活動(泰井)
- 11：00～12：00 企画展鑑賞(南)

昼食

- 13：00～16：20 (演習) 課題制作
- 16：30～17：00 実習ノート整理

8月5日(土)

- 10：00～12：00 (演習) 課題制作、実習ノート整理

対外活動

館職員の対外活動（講演会・講座など）について記載する。

〈講演会〉

山下善也：「静岡浅間神社の秘宝・大拝殿の天井絵」
【財団法人伊豆屋伝八文化振興財団主催
「第4回 文化財を守る ―静岡浅間神社
の文化財―」／静岡浅間神社（浅間神社会
館 ラフィーネ・浅間）9月17日（日）

泰井 良：美術史学会シンポジウム「検証：国公立
ミュージアム～官から民へのうねりの中で」
検証2. ミュージアム経営のゆくえ コー
ディネーター【神戸市立博物館】4月22日
全国博物館大会（日本博物館協会主催 長
崎市）フォーラム「博物館の評価・ベンチ
マーク作り」発表・司会 11月17日
講演会「ロダンの芸術」【掛川市二の丸美
術館】2月14日

〈講座等〉

小針由紀隆：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明
授業
【富士市立吉原第二中学校】1月11日

飯田 真：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業
【袋井市立浅羽中学校】12月7日
【浜松市立都田中学校】1月16日
事前発表「コレクション20年の熱情」【静
岡県博物館協会研修会／掛川市立中央図書
館】1月19日

南 美幸：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業
【浜松市立北星中学校】1月15日

堀切正人：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授
業【常葉学園菊川中学校】12月6日
【富士市立富士南中学校】1月17日

新田建史：移動美術展ギャラリー・トーク
【なゆた・浜北】10月4日、10月7日
【道の駅 開国下田みなと（ベイ・ステー
ジ下田）】11月11日
移動美術展ギャラリー・トーク・プラス
【なゆた・浜北】9月30日、10月14日
【道の駅 開国下田みなと】11月5日、11月8日
移動美術展親子鑑賞講座
【なゆた・浜北】10月15日
【道の駅 開国下田みなと】11月5日

移動美術展鑑賞講座

【なゆた・浜北】

（浜松市立浜名小学校）10月4日

（浜松市立伎倍小学校）10月6日

【道の駅 開国下田みなと】

（下田市立浜崎小学校）11月6日

（下田市立下田小学校）11月7日

（下田市立稲生沢中学校）11月7日

（下田市立下田東中学校）11月9日

（下田市立下田東中学校）11月10日

移動美術展展覧会探検ワークショップ

【道の駅 開国下田みなと】11月8日

（下田市教育委員会生涯学習課 家庭教育
学級を対象とした）

移動美術展作品デッサン会

【なゆた・浜北】10月9日

【道の駅 開国下田みなと】11月4日

移動美術展出張美術講座

【浜松市立北浜小学校】10月5日

【浜松市立新原小学校】10月6日

【浜松市立内野小学校】10月7日

【浜松市立龜玉小学校】10月12日

【浜松市立龜玉中学校】10月12日

川谷承子：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業

【浜松市立丸塚中学校】1月18日

村上 敬：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業

【伊東市立宇佐美中学校】1月17日

泰井 良：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業

【浜松市立南部中学校】12月15日

森 充代：中学生文化芸術鑑賞推進事業・事前説明授業

【焼津市立小川中学校】12月4日

〈美術館友の会事業への協力〉

（講座講師）

飯田真ほか：「新収蔵品展フロアレクチャー」4月26
日

福元清志：「多版多色摺り木版の楽しみ」

2月11日・12日

飯田真・森充代：「講座：日本画をじかに見る」

3月4日 午前

〈静岡県博物館協会〉

当館は同協会の事務局として、協会加盟館園の協力
のもとに以下の事業を行った。

（1）役員会・総会の開催 6月27日（県立美術館）

(2) 博物館園の災害時における対策研究

- ・ 検討会（事業運営グループ）
8月29日、11月21日、1月19日、3月9日
- ・ 講演会・シンポジウムの共催
9月17日 静岡浅間神社
「第4回文化財を守る－静岡浅間神社の文化財－」
- ・ 災害対策講習会の開催
12月9日「興津・由比 文化財ウォーク」
清見寺ほか
3月10日「もし博物館園で事故が起きたら－入館者事故への対応と保険」伊東ふれあいセンター

(3) 地域セミナー

- ・ 第5回夏休み発見・体験レポートコンテスト
(作品募集) 7月16日～9月5日(作品審査)
9月8日 富士市立博物館(表彰式)
10月14日 国立中央青少年交流の家
主催：富士山ネットワーク・静岡県博物館協会
(申請館：奇石博物館)
- ・ 開館35周年記念・特別展「日本ガラス工芸の巨匠
岩田藤七・久利の世界」8月4日～9月17日(講演会)
9月3日 駿府博物館
主催：駿府博物館、静岡新聞社・静岡放送、静岡県、博物館協会
- ・ 関所史料館30周年記念講演会 11月3日 新居町
町民センター視聴覚室
「江戸時代の交通と新居関所」渡辺和敏氏
(愛知大学教授)
主催：新居関所史料館・静岡県博物館協会
- ・ 静岡市登呂博物館第34回特別展「登呂ムラの出現」
関連講演会 11月3日 静岡市中央公民館(アイセル21)ホール
「登呂遺跡再発掘調査の成果」岡村渉氏(静岡市文化財課)、「見直される登呂遺跡の実像」篠原和大氏(静岡大学助教授)、「登呂遺跡の発掘調査がもたらした意義」大塚初重氏(明治大学名誉教授)
主催：静岡市立登呂博物館・静岡県博物館協会

(4) 研修会の開催

1月19日「博物館における展覧会の現状」掛川市立中央図書館 報告：高林晶子・森谷紗世・飯田真・嶋和彦

(5) 会報の発行

「静岡の博物館 No57」 9月30日
「静岡の博物館 No58」 3月31日

(6) 研究紀要第30号の発行 3月31日

(B5版、コート紙、含単色図版、700部)

(7) 静岡県博物館協会ホームページの保守・運営

- (8) 東海地区博物館連絡協議会(日本博物館協会東海支部)理事会・総会
7月14日 セラミックパークMINOにて開催された。
- (9) 随時各館園の資料及び情報の交換を行ない、連絡、協調をはかった。

〈その他〉

- 小針由紀隆：静岡アートギャラリー企画協力委員
第43回静岡県芸術祭審査委員長代理
- 飯田 真：豊橋市美術博物館資料収集委員
- 山下善也：韮山町・江川文庫調査(文化庁・静岡県教委主催)調査委員(書画担当)
静岡市文化財保護審議委員
- 泰井 良：財団法人地域創造・公立美術館等活性化事業企画検討委員会委員
財団法人日本博物館協会・博物館経営・運営の指標(ベンチマーク)委員会委員、常務委員会委員
美術史学会 美術館・博物館委員会委員

主要刊行物一館蔵品図録

『風景の交響楽^{シンフォニー} 静岡県立美術館コレクションガイドブック』

当館ではこれまでに、主な所蔵品を紹介する館蔵品図録として『静岡県立美術館コレクション110選』（1991年）、『静岡県立美術館コレクション選』（1996年）を刊行してきた。だが、既に前回の館蔵品図録刊行からも10年が経過しており、この間に加わった収蔵品の情報を含めて、当館コレクションの輪郭を明快にお伝えする館蔵品図録が求められていた。

この声にお応えするべく製作されたのが、この『風景の交響楽 静岡県立美術館コレクションガイドブック』である。製作に当たり、美術館や博物館の図録に見られるような、図版と解説を1ページ1点で組み合わせ、「油絵」「日本画」といったメディアの別に羅列するという、いわばストイックな従来のあり方を改め、より魅力的な構成を持ち、お客様にご愛顧いただけるような図録を目指すこととした。

この視点に立って、題名からもご推測いただける通り、全体を4つの楽章から成る交響楽に見立て、当館の収蔵品217点をご紹介した。各作品には技法やサイズ等のデータだけではなく、極力内容を絞った解説、作品の特徴を効果的に指摘する見出し、簡略な作家解説を付すことで、当該ページをご覧いただければ基本的な情報をその場で読み取っていただけるものとなった。また、ページレイアウトには数通りのフォーマットを準備し、これを適宜組み合わせ、状況に応じて調整することで、変化のある構成を心がけた。

巻頭にはクロード・モネや池大雅、狩野探幽、佐伯祐三、草間彌生らの作品を大きく掲載したグラビアページを設け、フラットなイメージだけではなく、作品の物性を感じていただく試みも行った。

版型等：A 4 変形199ページ 4 C

構成：

ごあいさつ

コレクションについて 小針由紀隆

第1楽章 風景の競演

Part. 1 富士山と東海道

富士山という風景 東海道のある風景

Part. 2 故郷へのまなざし

日本という風景 オランダの隆盛 フランス
イギリス

Part. 3 あこがれの風景

山水という風景 異国という風景

Part. 4 風景の結晶

第2楽章 静岡の調べ

Part. 1 狩野派の世界

Part. 2 徳川ゆかりの画家たち

Part. 3 静岡出身の作家たち、静岡を愛した作家たち

Part. 4 華山の弟子たち

Part. 5 創作版画

Part. 6 グループ幻触

第3楽章 個性おどる作品たち

Part. 1 日本

Part. 2 西洋

Part. 3 コレクションの中のコレクション

小杉文庫 山下一郎コレクション 鈴木万平・光
コレクション

第4楽章 世界の動向と日本

Part. 1 戦後アメリカの黄金期

Part. 2 「現代美術」ー戦後美術

Part. 3 女性の作家たち

Part. 4 越境者たちー海を渡った作家たち

作家INDEX

プロムナード・ロダン館ダイジェスト

静岡県立美術館図録ラインナップ

寄贈者一覧

参考文献

Curator's Column

富士山と美術 飯田 真

伊勢物語の舞台「宇津の山」 森 充代

「日本画」と「洋画」ー戦間期の現代美術 村上 敬

二つの芸術家伝説ーサルヴァトーレ・ローザの批評史からー

小針由紀隆

終わらない連作について 新田建史

詩情の旅人・カズンズ 南 美幸

狩野のルーツは伊豆 山下善也

徳川慶喜の油彩画について 泰井 良

草間彌生の《無題》をめぐって 川谷承子

足もとから見る彫刻鑑賞、そして美術館 堀切正人

平成18（2006）年6月5日発行

美術館ニュース「アマリリス」

いずれもA4版8ページ、オールカラー

■第81(春)号 2006年4月1日発行

表紙 前田守一《遠近のものさし(折り尺)》、
小池一誠《No.1石》、鈴木慶則《非在のタブロー
(キリコによる)》、飯田昭二《Half and Half》、
丹羽勝次《箱シリーズ'68》/川谷承子…………… p. 1
開館20周年を迎えて/渡井寿久…………… p. 2
大河ドラマ「功名が辻」特別展 山内一豊とその
妻/小針由紀隆…………… p. 3
平成17年度新収蔵品のご紹介/南美幸、新田建史、
飯田真、村上敬…………… p. 4, 5
研究ノート 1600年か1604/5年か?—クロード・
ロランの生年を考える/小針由紀隆…………… p. 6, 7
本の窓 『銅版画家の仕事場』/新田建史…………… p. 7
美術館問はず語り「名品図録、ただいま制作中」
/新田建史…………… p. 8

■第82(夏)号 2006年6月1日発行

表紙 ウジェーヌ・ドラクロワ『ウジェーヌ・ド
ラクワ銅版画集』/南 美幸…………… p. 1
新任館長からごあいさつ/宮治 昭…………… p. 2
コレクション20年の熱情/新田建史、飯田 真
…………… p. 3
世界遺産ナスカ展 地上絵の創造者たち/川谷承子
…………… p. 4
ただいま準備中! 「森鷗外と美術」展/堀切正人
…………… p. 5
研究ノート 小林清親 新発見の肉筆画《川中島
合戦図屏風》について/飯田 真…………… p. 6, 7
本の窓 『2000年後の冒険ミュージアム』/堀切正人
…………… p. 7

美術館問はず語り「大人になったらなりたいもの」
/村上 敬…………… p. 8

■第83(秋)号 2006年10月2日発行

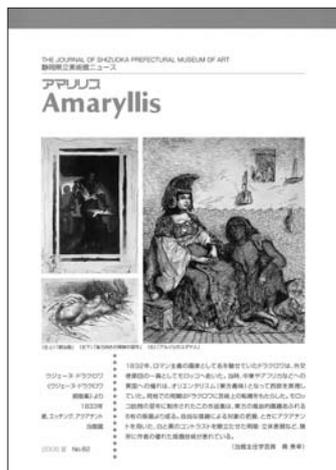
表紙 オーギュスト・ロダン《花子のマスク》
/堀切正人…………… p. 1
夏休み子供ワークショップ「展覧会で遊んじゃえ!」
/福元清志…………… p. 2
世界遺産ナスカ展 地上絵の創造者たち/川谷承子
…………… p. 3
森鷗外と美術/堀切正人…………… p. 4
パリからロダンがやってくる 「ロダン—創造の
秘密」展/泰井 良…………… p. 5
研究ノート 「森鷗外と美術」展・補記—「多様性」
について/堀切正人…………… p. 6, 7
本の窓 『創刊号 Bank ART Life』/堀切正人
…………… p. 7
美術館問はず語り「続・大人になったらなりたい
もの」/南 美幸…………… p. 8

■第84(冬)号 2006年1月2日発行

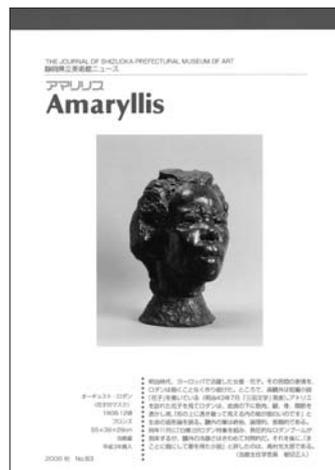
表紙 オーギュスト・ロダン《ボードレールの頭
部》/南 美幸…………… p. 1
待望のパリ・国立ロダン美術館コレクション
「ロダン—創造の秘密」展/泰井 良…………… p. 2, 3
普及事業報告「実技室の新プログラム紹介」/
福元清志…………… p. 4
平成18年度移動美術展 あこがれの風景展/
新田建史…………… p. 5
研究ノート 目と頭、手を結びつけることについ
て/新田建史、福元清志…………… p. 6, 7
美術館問はず語り「気になるキャプションの表記」
/小針由紀隆…………… p. 8



第81(春)号



第82(夏)号



第83(秋)号



第84(冬)号

施設利用状況(年度別)

年度	県民ギャラリー入場者数	講堂入場者数	図書閲覧室利用者数	音声ガイド利用者数	託児室利用者数	
61	93,918	8,005	10,000			
62	95,635	9,911	10,000			
63	112,528	10,346	14,714			
元	98,806	12,474	11,937			
2	101,477	11,432	8,274			
3	91,342	13,755	8,545			
4	109,287	14,442	9,499			
5	95,903	10,927	9,308			
6	108,004	12,060	9,159			
7	73,254	10,717	7,015			
8	109,076	9,487	8,621			
9	87,436	10,615	6,486	4,257		
10	69,099	10,314	6,537	25,624	132	
11	67,159	11,601	6,192	16,773	154	
12	69,553	10,169	5,520	12,619	235	
13	76,882	10,205	5,033	11,210	361	
14	69,974	10,985	4,782	9,659	306	
15	80,499	25,927	4,627	7,544	345	
16	69,209	8,852	4,377	5,970	299	
17	69,357	11,762	4,626	4,904	289	
18 年度 月別 内 訳	4	4,464	820	343	345	19
	5	5,280	(669) 399	407	718	52
	6	3,828	680	332	343	36
	7	1,956	(1,290) 1,250	250	251	28
	8	8,663	(1,110) 980	555	949	39
	9	5,316	710	549	672	75
	10	16,540	(1,369) 835	470	1,056	86
	11	4,048	1,132	363	191	30
	12	0	640	250	149	18
	1	19,942	700	321	358	29
	2	2,964	300	526	1,437	25
	3	8,656	1,280	721	2,422	62
	計	81,657	(10,700) 9,726	5,087	8,891	499

() は特別講演会を含めた数

県民ギャラリー利用状況

No	公開開始	公開終了	日数	会場	入場料	展覧会名	主催者名	入場者数(人)
1	4/1(土)	4/2(日)	6	AB	無	第25回一基書展	一基会	712
2	4/11(火)	4/16(日)	6	AB	無	第16回静岡県女流美術家協会展	静岡県女流美術家協会	1,034
3	4/18(火)	4/30(日)	12	AB	無	第33回二科会静岡県支部美術展	二科会静岡県支部	2,718
4	5/2(火)	5/7(日)	6	B	無	静岡県立美術館友の会創立20周年記念会員展	県立美術館友の会	1,210
5	5/9(火)	5/14(日)	6	AB	無	パッチワークキルト展	庄司淳子	1,033
6	5/16(火)	5/28(日)	12	AB	無	第43回静岡県美術家連盟展	静岡県美術家連盟	2,642
7	5/30(火)	6/4(日)	6	AB	無	第15回静岡県写真愛好家秀作展	静岡県写真愛好者秀作展実行委員会	1,380
8	6/6(火)	6/18(日)	12	AB	無	第71回静岡県版画協会展	静岡県版画協会	1,413
9	6/20(火)	6/25(日)	6	AB	無	和紙ちぎり絵作品展	(株)全国教育産業	1,007
10	6/27(火)	7/2(日)	6	A	無	第80回国展記念「国展静岡」	太田策司	686
11	7/4(火)	7/9(日)	6	A	無	形象派美術協会展	形象派美術協会	459
12	7/25(火)	8/6(日)	12	AB	無	第34回静岡県油彩美術家協会展	静岡県油彩美術家協会	2,425
13	8/8(火)	8/13(日)	6	AB	無	第18回静岡独立美術展	静岡独立美術協会	965
14	8/15(火)	8/20(日)	6	A	無	子ども造形デザイン絵画教室第3回展覧会	大森恵	1,944
15	8/15(火)	8/20(日)	6	B	無	富士山を愛し撮る会写真展	富士山を愛し撮る会	1,975
16	8/22(火)	8/27(日)	6	A	無	能面展	静岡能面研究会	995
17	8/22(火)	8/27(日)	6	B	無	人間国宝と焼物の世界	浜松アート倶楽部	1,264
18	8/29(火)	9/3(日)	6	B	無	庫流「きものギャラリー」	三輪民庫	726
19	9/5(火)	9/10(日)	6	B	無	パソコンアート協会創立五周年記念展	パソコンアート協会	917
20	9/12(火)	9/18(月)	7	AB	無	千世の会書道展	大石千世	1,278
21	9/20(水)	9/24(日)	5	A	無	第23回静岡県フレミッシュ織展	静岡県フレミッシュ織教室	978
22	9/20(水)	9/24(日)	5	B	無	足立幸子原画展	(有)シンデュウ	649
23	9/26(火)	10/1(日)	6	B	無	白日会静岡支部店	白日会静岡支部	1,315
24	10/3(火)	10/15(日)	12	A	無	祈り、祀り、鎮める静岡の祭祀遺物	県教育委員会・県立美術館	7,471
25	10/3(火)	10/9(月)	7	B	無	ワークショップユニティ「十年十彩」展	ワークショップユニティ	1,861
26	10/11(水)	10/15(日)	5	B	無	作家集団 創 12の個展	日野岡和匡	1,823
27	10/17(火)	10/22(日)	6	AB	無	第24回静岡県なつやすみ読書感想画コンクール	静岡新聞社・静岡放送	3,199
28	10/24(火)	11/5(日)	12	AB	無	第32回静岡県工芸美術展	静岡県工芸家協会	3,019
29	11/7(火)	11/12(日)	6	AB	無	第53回静岡県高等学校美術・工芸展 中部支部展	県教育委員会文化課	1,126
30	11/14(火)	11/19(日)	6	AB	無	第54回静岡県高等学校美術・工芸展	県教育委員会文化課	1,380
31	11/21(火)	11/24(金)	4	A	無	第48回新槐樹社静岡支部展	新槐樹社静岡県支部	491
32	1/2(火)	1/28(日)	26	AB	無	第18回富嶽ビエンナーレ展	静岡新聞社・静岡放送	19,208
33	1/30(火)	2/4(日)	6	A	無	オリジナルクラフト協会展	NPO法人静岡オリジナルクラフト協会	734
34	2/6(火)	2/18(日)	12	AB	無	第10回静岡県すこやか長寿祭美術展	(財)しずおか健康長寿財団	2,113
35	2/20(火)	2/25(日)	6	AB	無	第19回静岡県盲・聾・養護学校高等部合同作品展	県教育委員会文化課	851
36	2/27(火)	3/4(日)	6	B	無	写真ワークショップ		—
37	3/6(火)	3/11(日)	6	AB	無	第28回ジュニア県展	静岡新聞社・静岡放送	2,660
38	3/13(火)	3/25(日)	12	AB	無	第27回山岳写真の会「白い峰」写真展	山岳写真の会「白い峰」静岡支部	5,170
39	3/27(火)	3/31(土)	6	AB	無	桜香富士-SKURA KAORU FUJI-	静岡県さくらの会	826
計							39件	81,657

広報活動（ホームページ）

静岡県立美術館では、開館以来、ポスター・チラシ配布や、マスコミなどを通じ、広く館活動の広報を行っているが、近年では類似施設の増加、広報手段の多様化に伴い、入館者増加のために新たな広報展開が必要になってきている。

ここでは、紙媒体を中心にした広報活動とともに、新たな広報メディアとして注目されるホームページの運営について記載する。

〈広報活動〉

- ・ 展覧会等のイベント情報のマスコミへの資料提供
- ・ ポスター・チラシの配布、駅貼り、車内吊り
- ・ 学校に対する学校関係イベント情報の提供
- ・ 県広報課との連携（県民だより、県政番組など）
- ・ ラジオ番組出演での広報活動（FM-Hi、FMしみず）
- ・ 広報サポーターへの情報提供
（展覧会ごとに、ポスター・チラシを送付、口コミでの広報を依頼）
- ・ 展覧会ごとの共催社（新聞社・テレビ局）、協賛社（JR東海）との連携
- ・ 広告掲載・テレビスポット放映、特集紙面、番組への協力など

〈ホームページ〉

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp>

静岡県立美術館ホームページは、平成8年度末に開設され、今年度で9年目を迎えた。年度別のアクセス概数は以下のとおりである。

平成8年度末～9年度（1997）6000

平成10年度(1998)	12000	累計	18000
平成11年度(1999)	21000	累計	39000
平成12年度(2000)	40000	累計	79000
平成13年度(2001)	70200	累計	149200
平成14年度(2002)	87300	累計	236500
平成15年度(2003)	85000	累計	321500
平成16年度(2004)	98000	累計	419500
平成17年度(2005)	103500	累計	523100
平成18年度(2006)	155400	累計	678500

アクセス数はインターネットの普及に伴い年々増加してきたが、本年度は155400（一日平均425）アクセスと前年度の1.5倍の増加率をみせ、過去最高を記録した。

コンテンツの充実を図ることにより、魅力あるホームページを提供するよう運営に努めており、平成14年度よりさまざまなコンテンツを新たに追加したが、

16年度は、5月～12月にはロダン館10周年に合わせたデザインに改良し、その後は、風景とロダンの美術館であることを示すデザインに変更した。また、メニュー画面も見やすく改善を図った。

さらに、広く利用者に情報を伝えるために、16年1月からは携帯電話からアクセスできるサイトを新設し、情報の提供を開始した。

<http://www.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/i/>

また、アンケートも以下のとおり継続実施した。

- ・ ホームページアンケート
ホームページ改善の資料とするため、WEB上でのアンケートを実施、聴取内容は以下のとおりでメールで回答できる形にした。
 1. 当ホームページをどのくらいの頻度でご覧になりますか
 2. 当ホームページの情報内容について
 3. 当ホームページの更新頻度について
 4. 当ホームページのデザインについて
 5. 当ホームページの見やすさについて
 6. その他、当ホームページに対するご意見、ご要望

各項目、概ね満足度は高いが、字の大きさやデザインなど改善の参考になる意見も寄せられた。なお、回答者の中からほぼ2ヶ月毎に抽選で5名の方に次回企画展の招待券をプレゼントした。

紀要の発行

当館では、美術館建設準備室時代の昭和58年度に第1号を刊行して以来、ほぼ毎年1回のペースで紀要を刊行してきた。

刊行の目的は、美術館活動の基盤となる学芸員の研究成果を広く公開し、館藏品を中心とした美術作品の研究の進展に寄与することである。研究対象は主として館藏品であるが、各学芸員の研究意欲に従い、広く美術及び美術館をとりまく諸問題まで扱う。

刊行された紀要は、全国の研究機関、研究者等へ配布した。

第22号

■版型・頁数 29.7×21.0cm・63頁

■刊行日 平成19年3月31日

■内容

・口絵図版

- ジョアン・ミッチェル 《Lake》
- ジョアン・ミッチェル 《Untitled》
- ジョアン・ミッチェル 《City Landscape》
- ジョアン・ミッチェル 《Hemlock》
- ジョアン・ミッチェル 《Ladybug》
- ジャクソン・ポロック 《Number27》
- ジョアン・ミッチェル 《Cross Section of a Bridge》
- ヴィレム・デ・クーニング 《Attic》
- アーシル・ゴーキー 《The Leaf of the Artichoke Is an Owl》
- ジョアン・ミッチェル 《Untitled》
- ヴィレム・デ・クーニング 《Woman》
- ジョアン・ミッチェル 《Untitled》
- サイ・トゥオンブリー 《Untitled》
- ジョアン・ミッチェル 《Rose Cottage》
- ロバート・ラウシェンバーグ 《Collection》
- ジョアン・ミッチェル 《Untitled》
- フィリップ・ガストン 《Painting No.5》
- ジョアン・ミッチェル 《Hudson River Day Line》
- ジョアン・ミッチェル 《Grandes Carrières》
- ジョアン・ミッチェル 《Calvi》
- ジョアン・ミッチェル 《Blue Tree》
- ジョアン・ミッチェル 《Sale Naige》
- 歌川広重 《不二三十六景》より
 - 〈東都両国橋下〉
 - 〈神名川海上〉
 - 〈武蔵小金井堤〉
 - 〈駿河田子の浦〉

・論文

川谷承子

ジョアン・ミッチェル《湖》についての考察
P.15-30

村上 敬

防衛省防衛研究所図書館所蔵「関保之助意見」について p.33-48

飯田 真

歌川広重《不二三十六景》をめぐって p.50-58

・各論文英文レジュメ



研究活動

各学芸員の研究活動のうち、その成果が発表されたもの（論文・口頭発表）を記載する。ただし、一般の新聞・雑誌などへの寄稿や、図録等の作品解説などは除いている。

◆小針由紀隆

- ・「研究ノート 1600年か1604/5年か？ークロード・ロランの生年を考える」『アマリリス』No81（静岡県立美術館ニュース／平成18年4月）
- ・「二つの芸術家伝説ーサルヴァトル・ローザの批評史から」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）

◆飯田 真

- ・「富士山と美術」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「研究ノート 小林清親 新発見の肉筆画《川中島合戦図屏風》について」『アマリリス』No82（静岡県立美術館ニュース／平成18年6月）
- ・「歌川広重《不二三十六景》をめぐって」『静岡県立美術館紀要』第22号（平成19年3月）

◆山下善也

- ・「狩野のルーツは伊豆」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「狩野伊川・融川の天井画と探幽の歌仙絵ー静岡浅間神社の文化財から」『紀要』創刊号（財団法人伊豆屋伝八文化振興財団／平成18年11月）

◆南 美幸

- ・「詩情の旅人・カズンズ」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）

◆堀切正人

- ・「足もとから見る彫刻鑑賞、そして美術館」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「森鷗外と肖像」『森鷗外と美術』展図録（森鷗外と美術展実行委員会／平成18年7月）
- ・「研究ノート 「森鷗外と美術」展・補記ー「多様性」について」『アマリリス』No83（静岡県立美術館ニュース／平成18年10月）

◆新田建史

- ・「終わらない連作について」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・発表「静岡県立美術館の温湿度環境」（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所／平成18年12月／犬塚将英氏との共同発表）
- ・「研究ノート 目と頭、手を結びつけることについて 美術鑑賞深化のための試み」『アマリリス』No84（静岡県立美術館ニュース／平成19年1月）
- ・「静岡県立美術館における温熱環境の測定」『保存科学』第46号（独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所／平成19年3月／犬塚将英氏らとの共同報告）

◆川谷承子

- ・「草間彌生の《無題》をめぐって」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「ジョアン・ミッチェル《湖》についての考察」『静岡県立美術館紀要』第22号（平成19年3月）

◆村上 敬

- ・「『日本画』と『洋画』ー戦前期の現代美術」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「鷗外とミュージアム 遊就館整理事業をめぐって」『森鷗外と美術』展図録（森鷗外と美術展実行委員会／平成18年7月）
- ・「防衛省防衛研究所図書館所蔵「関保之助意見」について」『静岡県立美術館紀要』第22号（平成19年3月）

◆泰井 良

- ・「徳川慶喜の油彩画について」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）
- ・「《青銅時代》をめぐるスキヤンダル」『ロダンー創造の秘密』展図録（読売新聞社／平成18年7月）
- ・「研究ノート 静岡県立美術館の使命（ミッション）と戦略の策定について」『アマリリス』No85（静岡県立美術館ニュース／平成19年4月）

◆森 充代

- ・「伊勢物語の舞台「宇津の山」」『風景の交響楽（シンフォニー）・静岡県立美術館コレクションガイドブック』（静岡県立美術館／平成18年6月）

研究会

平成18年度に開催した研究会の題目と要旨は以下のとおりである。この研究会は、準備室時代から始まり、ほぼ月1回ペースで現在まで実施されている。発表者である学芸課職員は自由にテーマを設定できるが、当館における展覧会企画や館蔵品研究に関わる発表も多い。発表時間は約40分で、発表後は館長及び同僚たちとの質疑応答にはいる。20数年続いているこの研究会は、当館でアカデミックな伝統を形成し、ここから有益な示唆を得ることも少なくない。

4月

狩野伊川・融川による静岡浅間神社天井画について

一もっとも身近にあるモニュメンタルな狩野派作例ー山下善也

当館には、質の高い狩野派作品群がある。開館前から25年かけて徐々に収集してきたもので大作が多く、展示室全体をカバーする特集展示も成り立つ。

発表では、この狩野派をとりあげた。まず、当館がなぜ狩野派を収集するのか、静岡と狩野派の関係を説明。次に、その深い関係を端的にしめす「静岡浅間神社における狩野派の仕事」に着目、神社と狩野派の關係に触れ、神社にのこる実作品、とくに文化11年(1814)の「狩野家奥絵師の伊川と融川による大拝殿の天井画」を具体的に紹介し、その絵画史的意義を論じた。

「日本絵画史における静岡」というテーマを考える上で不可欠の「静岡と狩野派の關係」。それについて静岡で働く我々はしっかり把握しておく必要あり、と考えたからである。なお発表内容は、拙稿「狩野伊川・融川の天井画と探幽の歌仙絵—静岡浅間神社の文化財から」『紀要』創刊号(財団法人伊豆屋伝八文化振興財団、2006年11月)で公表した。

5月

今村紫紅《宇津の山路》について

一主題の意義を中心に

森 充代

今村紫紅筆《宇津の山路》(当館蔵、絹本着色、明治45年(1912)、掛幅、第18回紅児会展出品)は、これまで紫紅による琳派研究と結びつけて語られることが多かったが、図様においても様式においても、琳派の近代的な継承と見るよりは、紫紅が古典文学主題に新味を出すべく独自の表現を試みたものとする方が妥当と思われる。その独自性とは、まず一つに、“鶯の

細道”を特徴付ける峠道の描写に明るい色彩と運動感ある点描を取り込み、それまでにない風景表現を打ち出したことである。もう一つは、定番となっていた琳派の図様を敢えて避けて別の場面選択をしたことにあるが、その意図は、本主題における文学的な情感の表現よりも、色彩や点描、構図といった造形要素の面白みを前面に出すことにあったのではないか。新技法を採用して清新な風景表現に成功した本作は、近代的な名所絵の試みとして位置づけることができ、歴史人物画から風景画への転換期にあった紫紅にとっても、その方向性を見定める上で重要な位置を占めるものといえる。

7月

「森鷗外と美術」展

一旧陸軍衛生部伝来資料について

堀切正人

「森鷗外と美術」展が、鳥根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館の3館共催で開催された。この展覧会は、森鷗外と日本の近代美術を総合的に扱う初めての展覧会であったが、軍人、医学者、文化行政官、文筆家と多面的な巨人・鷗外の活動を反映して、展示内容も多岐にわたった。しかし、この多面性をひとり鷗外の個性に帰するのではなく、ジャンル横断的な活動を求められた明治という時代の特性として考察する必要がある。とりわけ、現在ではほとんど想像しがたい軍と美術の關係について、鷗外はきわめて興味深い位置にいた。それを物語るのが、鷗外が所属していた陸軍衛生部に伝わる美術資料である。本発表は、展覧会企画のための調査活動で明らかにされた新出資料を紹介するとともに、明治期における陸軍と医学、そして美術との關係を考察しようとするものである。それは同時に「美術」という枠組みを問い直す契機ともなるであろう。

8月

昭和前期の視覚文化とボックスアートについて

村上 敬

日本のミュージアムの先駆けのひとつであった靖国神社附属遊就館は明治41年に整理事業(整理委員長・森林太郎)をおこなっている。本発表では、この整理事業において有職故実家・関保之助が果たした役割と、この事業が日本のミュージアム政策黎明期において果たした美術史上の意義を考察した。

関保之助はこの整理事業の実施にあたり、一通の意

見書を提出しているが、発表者はこの意見書に盛り込まれたミュージアム経営上の先駆的なアイデアを意義深いものとして評価した。また、このアイデアが帝室博物館の現場を知る関から出てきたという点、森林太郎や寺内正毅という整理事業の責任者の目に触れたという点においても重要度は高いと考えることができる。以上の諸点から、発表者は、関保之助は日本におけるミュージアムの歴史に一定の役割を果たしたと結論づけた。

10月

歌川広重《不二三十六景》をめぐって

飯田 真

当館所蔵の歌川広重《不二三十六景》について、浮世絵を商品として見た場合、名所絵が特異な位置を占めるものであったという説にもとづき、受容の側面から捉えなおすとともに、葛飾北斎《富嶽三十六景》との比較により、本作の美的特質を整理し指摘した。北斎に影響を受けた図も多く見られるものの、そこには名所絵師・広重ならではの資質がよく示されている。富士を含みこむ名所絵という作画姿勢に貫かれ、場所の抒情性を表現することに主眼が置かれている。また、縦絵の構図として晩年取り組んだ「近像型構図」の萌芽が本作に認められることを指摘し、それが富士山の連作を描くに当たって、広重が北斎の奇抜な構図に対抗するため採用した構図で、後に縦絵制作で本格導入されたことについて言及した。

10月

現代の絵画、現代の風景

川谷承子

「絵画が死んだ」という言葉は、19世紀の写真の発明、1960年代のミニマリズ、コンセプチュアルアートの出現などを契機に近現代の美術史の中で重ねて主張されてきた。そして、「絵画の死」の後には必ずといっていいほど、反動として「絵画の復権」がおこる。現代、1970年代後半から80年代なかばに現れた新表現主義以来、新たな絵画の動きが現れている。本発表では、2002年にファイドン社から刊行された『VITAMIN P』、2005年にロンドンのサーチギャラリーで開発された「絵画の勝利」展図録のほか、2003年3月号の『美術手帖』「特集－絵画輪廻転生」特集記事、2006年に国立国際美術館で開催された「エッセンシャルペインティング」展に言及しながら、絵画の新動向について分析を行った。加えて、当館で平成20年度に開催を

予定している「風景」をテーマにした現代作家のグループ展を念頭に入れ、「風景」という視点から、80年以降の日本と西洋の「風景」が表された絵画表現をスライドで投影しながら概観した。

12月

ローマのフランス・アカデミーと戸外制作の展開

小針由紀隆

本発表は、17世紀ローマに設置されたフランス・アカデミーと自然の観察・描写の関係を歴史的視点からたどり、戸外制作の増しゆく重要性を明らかにすることを目的とした。17世紀イタリア、とりわけローマにおける戸外制作は、北方出身の若い風景画家による個人もしくは仲間同士の自発性実践に任されていた。18世紀になると、フランス・アカデミーの院長がみずから奨励したことで、戸外制作には半公的な指導がなされるようになった。そして、19世紀にはいると、歴史的風景画部門で留学生たちが油彩スケッチを広く実践し、制度面でも戸外制作に義務的課題が設けられるようになった。戸外における油彩スケッチは、アカデミーからすれば、気晴らしの延長線上にある行為で、アトリエにおける完成作の制作にとって参照になる風景習作でしかなかった。しかし、戸外制作は確実にアカデミーの中にくいこみ、19世紀最初の20年の間にもはや引き返すことのできないリアリズムへの傾斜を促していたのだった。

12月

オーギュスト・ロダン《青銅時代》をめぐるスキャンダルについて

泰井 良

ロダンが1877年のブリュッセルの芸術家協会展に発表（同年、パリのサロンにも発表）した《青銅時代》は、その当時「人体からの直取りではないか」との嫌疑、批判に晒された。ロダンは、当時発明されたばかりの写真を自らの彫刻制作プロセスに取り入れており、それらの写真は、同時代の彫刻家たちの手にも渡っていたことが、ロダンと彼らとの間の書簡から伺い知れる。写真を彫刻制作に効果的に活用していたロダンにとって、「人体からの直取り」はあり得ないことであり、ロダンは、そのことをサロンに証明するために様々な資料や証言を提示したが、結局、認められることはなかった。

本発表では、《青銅時代》をめぐるスキャンダルを中心に、ロダンがどのように写真を彫刻制作に用いた

のか、またロダンが写真を媒介として同時代の彫刻家たちとどのような芸術的交流を図ったのかを整理し、その上で《青銅時代》は、けっして「人体からの直取り」ではなく、その時代を代表し、象徴する優れた作品であることを再確認した。

1月

ロダンの空間プロデュース—晩年の台座への視座

南 美幸

《カレーの市民》の設置に対して、ロダンは台座の排除を一つのプランとして提起したことから、作品と鑑賞者との新たな関係を切り開いたと指摘される。が、それは本当なのだろうか？ ロダンが晩年の展覧会で示した台座への嗜好、総合的な展示空間作りへの意欲を考え併せると、《カレーの市民》の問題も空間プロデュースという視点から見られるのではないだろうか？ まずルネサンス期の台座を例に挙げながら、西洋美術史で彫刻の台座が果たしてきた役割を踏まえ、《カレーの市民》および晩年の展覧会での展示方法を当時の写真を主に用いて検証しながら、ロダンの狙いについて考察した。

2月

デ・ゲインの位置付けについて

新田建史

ジャック・デ・ゲインⅡ世（1565—1629）は、「マニエリスムから17世紀のより自然主義的な様式への移行を示した」と言われる。（1996 REZNICEK, E. K., “Gheyn, de.”, in *The Dictionary of Art*, Macmillan.）これはおそらく、主に素描で、風俗的な画題を描いたことによっているものかと思われる。だが、彼の版画作品について、その歴史的な位置付けを示す研究は、ほとんど無いように思える。本発表では、当館に所蔵されている彼のエングレーヴィング『四大元素』（1588年頃、当館館蔵品番号P-240-1253）を、技法史の中へどのように位置付けられるかを問題とした。これにより、ホルツィウス（1558-1617）やヤン・ミュラー（1571-1628）ら、この技法の名人芸を披露した作家達との差異を示した。同時に、閉鎖的で人工的なマニエリスムとして括られる作品に含まれている、次の時代につながっていく自然主義的な要素も指摘した。

3月

子どものための鑑賞プログラム

—創造的な学習としての視点から—

福元清志

平成18年8月に、東京国立近代美術館で行われた「美術館を活用した鑑賞教の充実のための指導者研修会」について、内容を報告すると共に、当館のプログラムと比較して、成果と今後の問題点について考察した研究発表。

この研修会では「鑑賞は創造的な行為である」として、様々な事例が示された。子どもたちの資質や能力（読解力や思考力、判断力、表現力、他者とのコミュニケーションの力など）を伸ばすことが、鑑賞の目的である、という考え方は、教育関係者の意識改革を求めるものといえよう。美術館におけるギャラリートークの潮流とも合致しており、当館でも、対話型・プロセス重視の試みが積極的に行われ、今後も多様な展開が期待できることを確認した。一方、鑑賞プログラムが少人数・対話型へ移行すると、学校の授業への対応が困難であることや、学習の成果をどう評価するかが、極めて難しい課題として存在するなど、研究が必要な点を指摘して発表を終えた。

各種資料整理

■作品・作家資料の作成整理

開館前より作品写真および作家文献の収集・作成・整理が行われており、写真カードや調書、文献コピー等がキャビネットに収められている。

- (1) 作家（現代）人名別ファイル（アイウエオ順）
- (2) 館藏品資料（館藏品番号順）
- (3) 出品作家資料（各企画展ごと）
- (4) 館藏品収集に関わる資料（ジャンル別）

これらは各種の調査・展示活動や教育普及活動の基礎資料として活用されている。

■館藏品等のフィルム・デジタル画像作成整理

- (1) 館藏品のフィルム

新収藏品については、年度内にまとめて美術品写真の専門家による大型カメラでの写真撮影をおこなっている。4×5インチまたはブローニー判のカラーポジを写真原板として受入番号順ホルダーに入れ、キャビネットに整理収納している。

なお、これまでの写真原板には撮影後10年を経た色の劣化が見られるものもあるので、予算の範囲内で劣化の激しいもの、使用頻度の高いものについては、再撮影を実施し新しい原板を作成した。

- (2) 館藏品のデジタル画像

コンピュータで利用できるように、平成7年度から館藏品を撮影した4×5インチまたはブローニー判フィルムのフォトCD化を進めてきた。

平成16年度から、新収藏品およびフィルムが劣化した作品の再撮影の機会に、美術品写真の専門家に委託し、デジタルカメラによる直接撮影をあわせておこなっている。

作成または撮影されたデジタル画像は、CDおよびDVDに保存され、インターネット上での公開や各種広報物の作成、講演会や研究会などに活用されている。デジタル画像が作成されていない館藏品もまだあり、それらの遡及撮影が懸案となっている。

- (3) その他

館藏品のほか寄託品、展覧会出品作品、調査作品についても、さまざまな形で写真撮影あるいは収集され、個別に整理されている。

■美術情報の整理

開館以来、展覧会活動などの基礎資料として、各種の美術情報を収集している。

図書資料以外の美術情報資料の整理には、ボランティアによる資料整理グループ「グループD」があたって

おり、整理が進んでいる。

■展覧会資料の整理

企画展などの文書および資料については、各企画展ごとに整理がおこなわれ、キャビネットに収められている。

■コンピュータによる各種データ管理

館藏品データベースや図書データなどのコンピュータ化は市販のデータベースソフト「桐」を使用し、以前より進められてきた。入力作業にはボランティア有志によるコンピュータ入力チーム「パソコン隊」の支援をいただいている。新たに発生するデータについては、日常業務の延長線上にデータが整っていく方向に道筋を作っている。

- (1) 館藏品

館藏品の基本データと履歴データが入力されている。デジタル画像はフォトCD化したものを中心に蓄積されており、主な作品については揃っている。未作成の作品については順次整備をすすめる必要がある。

履歴データは5種（伝来、修復歴、展覧会出品歴、収藏品展展示歴、文献掲載歴）のデータファイルで構成され、館藏品受入番号をキーに基本データのファイルとリンク、さらに画像ファイルとリンクしている。新たに発生する履歴データについては、研究・修復・貸出・特別観覧等の諸業務と連携させ、それらの業務で作成されていくデジタルデータを移植している。

これらのデータの見直し作業や表記の統一などを随時実施、公開用フォーマットの検討をおこなった。データ公開へのコンテンツはほぼ整っているが、インターネット上での公開には検索エンジンの実装や著作権問題といった検討課題も多く、これらの解決と業界標準化が待たれる。

- (2) 図書

図書は基本的には手作業によって収集・受入・整理作業がおこなわれているが、データはデジタル化されている。

新規受入については、図書担当職員によるデータベース登録がおこなわれている。平成18年度には、前年度の図書データ見直しの成果を受けて、館内および図書閲覧室（写真）でのデジタル図書検索がおこなわれている。

平成18年度新収蔵品

平成18年度には、別表のとおり、購入4件、ご寄贈10件の計14件が新たに収蔵品として加わった。これらはいずれも、「17世紀から現代にいたる、日本の西洋の風景表現」および「ロダンの芸術を核とした、

近代以降の彫刻史」をコレクションの柱としてきた、当館の収集方針に適う作品群である。ジャンル別の内訳は、日本画9件、日本洋画（素描）2件、版画1件、彫刻2件である。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
1	日本画	福王寺法林	ヒマラヤの月	1986 (昭和61)	紙本着色	16.4×90.8	寄贈
							岩絵具の鮮やかさと質感を生かした圧倒的な迫力。 
2	日本画	高山辰雄	水の頃	1977-78頃 (昭和52-53頃)	紙本着色	46.2×65.1	寄贈
							抑制された色と構図による静謐な風景画。 
3	日本画	堂本元次	漓江	1980 (昭和55)	紙本着色	66.8×102.0	寄贈
							中国・桂林の奇観を紫の諧調を駆使して描く。 
4	日本画	堂本元次	春 あさばらけ	1985頃 (昭和60頃)	紙本着色	80.6×100.1	寄贈
							透明感ある独特の色彩により、早朝の澄明な気配と、紅葉に彩られた秋のあでやかさを表現。 
5	日本画	堂本元次	秋 照り映える	1985頃 (昭和60頃)	紙本着色	100.4×80.7	寄贈
							

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法
6	日本画	下保昭	湖山暁雲	1980-85頃 (昭和55-60頃)	紙本着色	74.4×101.8	寄贈 極端に抑制された色彩による重厚な山岳風景の好例。
7	日本画	福井爽人	水を運ぶ	1987 (昭和62)	紙本着色	100.2×90.8	寄贈 インドに取材。大樹と人が織り成す心象的風景画。
8	日本画	竹内浩一	塵	1988 (昭和63)	紙本着色	116.6×80.6	寄贈 繊細かつリズムミカルな筆致で描く花鳥の生命感。
9	日本画	竹内浩一	洲	1988頃 (昭和63頃)	紙本着色	73.1×100.2	寄贈 精密な描写力が光る気品ある花鳥画。
10	素描	武内鶴之助	英国風景	1909-1912頃 (明治42-大正2年頃)	パステル、紙	45.8×60.0cm	購入 雲の描写の研究が活かされた、安定した構図による田園風景。
11	素描	武内鶴之助	紀州瀕峡	制作年不詳	パステル、紙	45.4×61.0cm	購入 谷川と岩肌の描写の巧みさが見事な一点。

No.	ジャンル	作者名	作品名	制作年	材質・形状	寸法(cm)	取得方法	
12	版画	ピエール＝オーギュスト・ルノワール	オーギュスト・ロダンの肖像	1914頃	リトグラフ、紙	64.3×48.5cm	寄贈	<p>ルノワールとロダンの交流を物語る、単純な筆使いで晩年のモデルの相貌を捉えた作品。</p> 
13	彫刻	福岡道雄	湯原湖で(2)	1978 (昭和53)	黒色強化ポリエステル、木	90×110×48cm	購入	<p>釣り糸を垂らす人物は作者自身。彫刻とは何かを問い続ける自省的な作風。</p> 
14	彫刻	金沢健一	音のかけら 1	1987 (昭和62)	鉄、ゴム	220×220×2.5cm	購入	<p>叩くと音がる、参加体験型作品。</p> 

■収集点数一覧(昭和55年度～平成18年度)

(1) 購入(平成19年3月31日現在)

(百万円単位)

年度 種類	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	合 計		
																													点数	金額
日本画		14	9	10	3	7	4	3	5	5	2	1	3	5	8	4	3	5	5	4	1	2	3	7	3	2		118	1,644	
油彩画		14	5	6	10	10	4	6	3	2	1	8	4	3	8	8	2	4	4	3	3	1	4	2	2			117	2,816	
水彩画		4	3	2		2	1					2		2	1	1	4	1	1	2	2	1	1				2	32	311	
素描		7		1							3					1												12	68	
版画		58	3	60	27	5	16	85	1	3	43	268	4	68	27	152		2	52	37		9	9		60	22	1,011	355		
書	5		2																									7	80	
彫刻		3		1	2	11	2	2	7	3	5	9	12	13	1							1			1		2	75	2,811	
工芸		1																										1	3	
写真										33	13																	46	8	
その他														3	4		4				1					7		19	116	
合計	点数	5	101	22	80	42	35	27	96	16	46	67	288	23	94	49	166	13	12	62	46	7	14	17	9	66	31	4	1,438	
	金額	74	287	563	483	597	669	240	242	499	392	598	675	768	557	395	397	137	146	120	88	46	39	45	52	56	41	6		8,212

(レプリカ1)

(2) 寄贈(平成19年3月31日現在)

年度 種類	55	56	57	58	59	60	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計
	日本画	71		2	17		4		75	4	1	1	3	2				3	3		1		2				9	198
油彩画		19	1	8		1	6	1	1	1	1							5		2		5		1		3		55
水彩画		1		1					1		1	1	2							4					7			18
素描		50	10	9			2			3			1				1				15							91
版画				176	1		16	1			2	3	1		1		1	4	17	1			6				1	231
書	271		62	1		6																						340
彫刻			1				1				1	2																5
工芸						2	5	1																				8
写真											10																	10
その他																						38						38
計	342	70	76	212	1	13	30	78	6	5	16	9	6		1		5	12	21	3	54	5	8	8		3	10	994

図書資料の収集・整理

■収集

平成18年度の新たな受入れにより、累計で刊行図書34,580冊、美術雑誌19,024冊、美術館等刊行物20,691冊となり、当館蔵書は、74,295冊となった（データのデジタル化完成により冊数把握が容易かつ正確になったため、あらためてカウントし直した。平成16年度までの年報記載の冊数表記を、以降、このように改める）。

各地の美術館等との図書交換（海外を含む）により展覧会図録の収集も着実に進んでいる。

■分類・整理

平成18年度に行った作業は、以下のとおりである。

1 図書の受入れ

収集図書を分類表にのっとり分類した後、コンピュータ入力、配架を行う。

2 分類表の改訂

必要に応じて分類表の部分改訂を行った。

3 誤分類の訂正

分類に誤りのあった受入れ図書に関しては、台帳・カードの記載及び配架場所を改めた。

4 定期刊行物の受入れ

美術雑誌をはじめとする定期刊行物に関して、パーソナル・コンピューターを用いて受入れを行った。

■閲覧

当館には、美術館来館者の図書閲覧利用のため、座席数16席の閲覧室があり、開架の約1000冊の美術図書と、美術雑誌や当館刊行物を自由に閲覧できるようになっている。受付には当館ボランティアがあたっている。平成18年度より、閲覧室の2台のパソコンで、デジタル図書データ用いた図書検索ができるようになった。閲覧者は、閲覧したい図書をパソコンで検索し、用紙に図書のタイトルや分類番号等を記入して、受付に提示すれば、閉架図書も閲覧できる。

平成18年度の利用者は5,087人。昨年度の4,626人より、利用者461人増となった。



館蔵品の貸し出し

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
1	坂田一男	祭壇の男	東京国立近代美術館、国際交流基金	アジアのキュビズム展	シンガポール美術館 (2/18-4/9)	(05/07/26) -4/23
2	大久保一丘	富嶽明暁図	府中市美術館	「亜欧堂田善の時代」展	府中市美術館(3/4-4/16)	2/22-4/26
3	オーギュスト・ロダン	ヴィクトリア・アンド・アルバートと呼ばれる女のトルソ	国立西洋美術館	ロダンとカリエール	国立西洋美術館(3/7-6/4)	2/20-6/19
3	オーギュスト・ロダン	フギット・アモール	国立西洋美術館	ロダンとカリエール	国立西洋美術館(3/7-6/4)	2/20-6/19
4	東山魁夷	秋富士	富山県水墨美術館、豊橋市美術館	「麗しき大和心」展	富山県水墨美術館(4/7-5/7)	3/28-6/21
5	須田国太郎	筆石村	京都国立近代美術館、東京国立近代美術館	須田国太郎展	福島県立美術館(4/8-5/14)	(05/10/22) -5/24
6	海北友松	禅宗祖師・散聖図	静岡県立美術館、NHK静岡放送局、NHK中部プレーンズ	大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」	静岡県立美術館(4/15-5/28)	(05/12/13) -9/10
7	海北友松	禅宗祖師・散聖図	土佐山内家宝物資料館、NHK高知放送局、NHKきんきメディアプラン	大河ドラマ『功名が辻』特別展「山内一豊とその妻」	高知県立文学館(7/15-8/31)	(05/12/13) -9/10
8	イサム・ノグチ	クロノス	横浜美術館、滋賀県立近代美術館、高松市美術館	「イサム・ノグチー世界をつなぐ彫刻」展(仮)	横浜美術館(4/15-6/25)	3/26-11/22
9	イサム・ノグチ	クロノス	横浜美術館、滋賀県立近代美術館、高松市美術館	「イサム・ノグチー世界をつなぐ彫刻」展(仮)	滋賀県立近代美術館 (7/8-9/18)	3/26-11/22
10	イサム・ノグチ	クロノス	横浜美術館、滋賀県立近代美術館、高松市美術館	「イサム・ノグチー世界をつなぐ彫刻」展(仮)	高松市美術館(9/29-11/12)	3/26-11/22
11	梅原龍三郎	暁天 (富士山・大仁)	駿府博物館	「日本の心 富嶽―描かれた富士」	駿府博物館(5/11-6/18)	5/1-6/28
12	熊谷守一	富士山	駿府博物館	「日本の心 富嶽―描かれた富士」	駿府博物館(5/11-6/18)	5/1-6/28
13	東山魁夷	秋富士	富山県水墨美術館、豊橋市美術館	「麗しき大和心」展	豊橋市美術館 (5/13-6/11)	3/28-6/21
14	アルベルト・ジャコメッティ	横たわる女	神奈川県立近代美術館、兵庫県立美術館、川村記念美術館	アルベルト・ジャコメッティ展	神奈川県立近代美術館 (6/3-7/30)	5/20-12/20
15	アルベルト・ジャコメッティ	横たわる女	神奈川県立近代美術館、兵庫県立美術館、川村記念美術館	アルベルト・ジャコメッティ展	兵庫県立美術館(8/8-10/1)	5/20-12/20
16	アルベルト・ジャコメッティ	横たわる女	神奈川県立近代美術館、兵庫県立美術館、川村記念美術館	アルベルト・ジャコメッティ展	川村記念美術館(10/10-12/3)	5/20-12/20
17	市川正三	祖母Cの記憶	財団法人清水港湾博物館	市川正三回顧展	フェルケール博物館 (6/10-7/9)	5/31-7/19
18	徳岡神泉	雨	笠岡市立竹喬美術館	生誕110年記念 「凝視の眼 徳岡神泉」展	笠岡市立竹喬美術館 (6/10-7/17)	5/31-7/27
19	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	サンフランシスコ美術館ほか	モネとノルマンディー	カリフォルニア・レジオン＝ドヌール勲章宮(アメリカ) (6/17-9/17)	6/7-1/24
20	クロード・モネ	ルーアンのセーヌ川	サンフランシスコ美術館ほか	モネとノルマンディー	ノース・カロライナ美術館 (アメリカ)(10/15-1/14)	6/7-1/24
21	依田寿久	無題No.3	武蔵野美術大学美術資料図書館	「見ること／作ることの持続―後期モダニズムの美術」	武蔵野美術大学美術資料図書館(6/29-7/29)	6/19-8/8
22	横山華山	清見湯富士図	企業文化交流委員会	秘蔵の名品アートコレクション展	ホテルオークラ東京 (8/3-8/24)	7/24-9/3
23	橋本雅邦	三井寺	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-11/1

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
24	狩野芳崖	寿老人図	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-11/1
25	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
26	オーギュスト・ロダン	考える人	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
27	川村清雄	静物写生	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
28	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
29	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
30	山本鼎	斧	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	島根県立石見美術館 (7/14-8/28)	7/4-12/27
31	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
32	オーギュスト・ロダン	考える人	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
33	川村清雄	静物写生	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
34	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
35	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
36	山本鼎	斧	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-12/27
37	橋本雅邦	三井寺	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-11/1
38	狩野芳崖	寿老人図	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	和歌山県立近代美術館 (9/10-10/22)	7/4-11/1
39	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
40	オーギュスト・ロダン	考える人	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
41	川村清雄	静物写生	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
42	川村清雄	海底に遺る日清勇士の髑髏	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
43	藤田嗣治	モンルーージュ、パリ	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
44	山本鼎	斧	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
45	石井柏亭	ウィーン	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
46	三宅克己	白壁の家	島根県立石見美術館、和歌山県立近代美術館、静岡県立美術館	「森鷗外と美術」展	静岡県立美術館 (11/7-12/17)	7/4-12/27
47	浅井 忠	雲	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
48	石川欽一郎	神域より天の香具山を望む	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
49	石川欽一郎	銚子港（利根川付近）	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
50	吉田 博	木立	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
51	赤城泰舒	ギターを弾く少年	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
52	赤城泰舒	雲（折原）	茨城県近代美術館	「近代日本の水彩画－その歴史と展開」	茨城県近代美術館 (7/22-9/3)	7/12-9/13
53	本永定正	作品	練馬区立美術館	「いろ・かたち・せんとあそぶ 本永定正の創作の世界」	練馬区立美術館(8/2-9/3)	7/23-9/13
54	歌川広重	東海道五拾三次（保永堂版）	中山道広重美術館	「北斎と広重－風景画の二大巨匠－」	中山道広重美術館 (9/5-12/3)	8/26-12/13
55	歌川広重	東海道五拾三次（隸書）	中山道広重美術館	「北斎と広重－風景画の二大巨匠－」	中山道広重美術館 (9/5-12/3)	8/26-12/13
56	歌川広重	不二三十六景	中山道広重美術館	「北斎と広重－風景画の二大巨匠－」	中山道広重美術館 (9/5-12/3)	8/26-12/13
57	オーギュスト・ロダン	《影》の頭部	東京藝術大学美術館ほか	「NHK日曜美術館30年展」	東京藝術大学美術館 (9/9-10/15)	8/30-10/25
58	オーギュスト・ロダン	パオロとフランチェスカ	東京藝術大学美術館ほか	「NHK日曜美術館30年展」	京都府京都文化博物館 (12/13-1/21)	12/3-1/31
59	オーギュスト・ロダン	考える人	東京藝術大学美術館ほか	「NHK日曜美術館30年展」	広島県立美術館 (2/15-3/25)	2/5-(22/9/10)
60	佐伯祐三	ラ・クロシュ	東京藝術大学美術館ほか	「NHK日曜美術館30年展」	広島県立美術館 (2/15-3/25)	2/5-(22/4/4)
61	狩野永良	親子犬図	仙台市博物館	「大江戸動物図館」	仙台市博物館(9/11-11/17)	9/1-11/27
62	円山応挙	木賊兎図	仙台市博物館	「大江戸動物図館」	仙台市博物館(9/11-11/17)	9/1-11/27
63	福田半香	山水図	田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社	「福田半香展」	田原市博物館(9/15-10/22)	9/5-11/1
64	福田半香	周茂叔愛蓮図	田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社	「福田半香展」	田原市博物館(9/15-10/22)	9/5-11/1
65	福田半香	李白観瀑図	田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社	「福田半香展」	田原市博物館(9/15-10/22)	9/5-11/1
66	福田半香	夏景山水図	田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社	「福田半香展」	田原市博物館(9/15-10/22)	9/5-11/1
67	福田半香	溪山真楽図	田原市博物館、財団法人華山会、中日新聞社	「福田半香展」	田原市博物館(9/15-10/22)	9/5-11/1

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
68	オーギュスト・ロダン	カレーの市民 第一試作	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	姫路市立美術館 (9/16-11/3)	9/6-12/20
69	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスと絶望する若者	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	姫路市立美術館 (9/16-11/3)	9/6-12/20
70	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスとイリスのためのトルソ	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	姫路市立美術館 (9/16-11/3)	9/6-12/20
71	コンスタンティン・ブランクーシ	ポガニー嬢II	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	姫路市立美術館 (9/16-11/3)	9/6-12/20
72	オーギュスト・ロダン	カレーの市民 第一試作	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	福井市美術館 (11/11-12/10)	9/6-12/20
73	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスと絶望する若者	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	福井市美術館 (11/11-12/10)	9/6-12/20
74	オーギュスト・ロダン	女のケンタウロスとイリスのためのトルソ	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	福井市美術館 (11/11-12/10)	9/6-12/20
75	コンスタンティン・ブランクーシ	ポガニー嬢II	姫路市立美術館、福井市美術館、美術館連絡協議会、読売新聞社	「ロダンの系譜」展	福井市美術館 (11/11-12/10)	9/6-12/20
76	長澤蘆雪	牡丹孔雀図	奈良県立美術館	「応挙と蘆雪」展	奈良県立美術館 (9/27-12/13)	9/17-12/23
77	長澤蘆雪	大原女	奈良県立美術館	「応挙と蘆雪」展	奈良県立美術館 (9/27-12/13)	9/17-12/23
78	狩野探信守道	夏秋花鳥図屏風	鳥取県立博物館	「沖一峨」	鳥取県立博物館 (10/7-11/5)	9/27-11/15
79	近藤浩一路	富士山	練馬区立美術館、山梨県立美術館、美術館連絡協議会	「光の水墨画 近藤浩一路の全貌」展	練馬区立美術館 (9/10-10/15)	8/31-12/6
80	近藤浩一路	東山栗田口	練馬区立美術館、山梨県立美術館、美術館連絡協議会	「光の水墨画 近藤浩一路の全貌」展	山梨県立美術館 (10/21-11/26)	8/31-12/6
81	浦上玉堂	抱琴訪隠図	岡山県立美術館・山陽新聞社、千葉市美術館	「浦上玉堂展」	岡山県立美術館 (9/29-10/29)	9/19-12/13
82	浦上玉堂	抱琴訪隠図	岡山県立美術館・山陽新聞社、千葉市美術館	「浦上玉堂展」	千葉市美術館(11/3-12/3)	9/19-12/13
83	清水登之	セーヌ河畔	世田谷美術館、愛知県美術館、鳥根県立美術館、東京新聞	特別展「ルソーの見た夢、ルソーに見る夢」	世田谷美術館(10/7-12/10)	9/25-2/20
84	式部輝忠	富士八景図(その三)	神奈川県立歴史博物館	「富士山大噴火ー宝永の砂降りと神奈川」	神奈川県立歴史博物館 (10/14-11/19)	10/4-11/29
85	ハイム・スーチン	カーニュ風景	徳島県立近代美術館ほか	「エコール・ド・パリの魅惑」展(仮)	名古屋市美術館 (11/18-12/24)	11/8-2/22
86	ハイム・スーチン	カーニュ風景	徳島県立近代美術館ほか	「エコール・ド・パリの魅惑」展(仮)	埼玉県立近代美術館 (1/6-2/12)	11/8-2/22
87	山本森之助	海岸	長崎県美術館	「長崎の美術2 長崎が生んだ画家 山本森之助展」	長崎県美術館(11/29-3/25)	11/19-(4/4)
88	狩野探幽	瀟湘八景	愛媛県美術館	「松本山雪展」	愛媛県美術館(2/10-3/25)	1/31-(4/4)
89	徳力善雪	子猷訪戴・東坡騎驢図屏風	愛媛県美術館	「松本山雪展」	愛媛県美術館(2/10-3/25)	1/31-(4/4)
90	曾我二直菴	人物山水花鳥図押絵貼屏風	愛媛県美術館	「松本山雪展」	愛媛県美術館(2/10-3/25)	1/31-(4/4)

No.	作者名	作品名	貸出先	展覧会名	会場・会期	貸出期間
91	清水登之	セーヌ河畔	世田谷美術館、愛知県美術館、 島根県立美術館、東京新聞	特別展「ルソーの見た夢、 ルソーに見る夢」	愛知県美術館(12/20-2/12)	12/10-2/22
92	藤田嗣治	モンルージュ、パリ	世田谷美術館、愛知県美術館、 島根県立美術館、東京新聞	特別展「ルソーの見た夢、 ルソーに見る夢」	愛知県美術館(12/20-2/12)	12/10-2/22
94	ファン・グ リス	果物皿と新聞	国立新美術館	「20世紀美術探検」展	国立新美術館(1/21-3/19)	1/11-3/29
95	森村泰昌	批評とその愛人 (1) ~ (7)	国立新美術館	「20世紀美術探検」展	国立新美術館(1/21-3/19)	1/11-3/29
96	カール・ア ンドレ	鉛と亜鉛のスクエア	国立新美術館	「20世紀美術探検」展	国立新美術館(1/21-3/19)	1/11-3/29
97	高松次郎	布の弛み	国立新美術館	「20世紀美術探検」展	国立新美術館(1/21-3/19)	1/11-3/29
98	チャールズ・ ワーグマン	富士遠望図	神奈川県立近代美術館	「時代と美術の多面体-近代 の成立期に光をあてて」展	神奈川県立近代美術館 (1/13-3/25)	1/3-(4/4)
99	里見勝蔵	静物	神奈川県立近代美術館	「時代と美術の多面体-近代 の成立期に光をあてて」展	神奈川県立近代美術館 (1/13-3/25)	1/3-(4/4)
100	円山応挙	竹雀図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/28-(5/2)
101	円山応挙	木賊兎図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/28-(5/2)
102	狩野永良	親子犬図	府中市美術館	「動物絵画の100年」展	府中市美術館(3/17-4/22)	3/28-(5/2)
103	森村泰昌	批評とその愛人 マケット	熊本市現代美術館	「森村泰昌-美術の授業」展	熊本市現代美術館 (3/24-7/8)	3/14-(7/18)

美術作品の補修

平成18年度の修復作品

- ・小林清親《川中島合戦図》画面洗浄
- ・吉村孝敬《李白観瀑・子猷訪戴図》画面補彩
- ・狩野探幽《七賢九老図・香山九老図》屏風調整
- ・岡本豊彦《武陵桃源図》屏風調整
- ・浦上春琴《兢秀争流図》軸装新調
- ・渡辺広輝《五条三位騎渡井手玉川図》軸装新調
- ・岸駒《芙蓉峰図》軸装新調
- ・カミーユ・コロー
《メリ街道、ラ・フェルテ＝ス・ジュアール》額装調整
- ・ジョアン・ミロ《シウラナの教会》画面調整
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《クイリナーレ広場》再マット装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《ナヴォナ広場》再マット装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《スペイン広場》再マット装
- ・ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ
《トレヴィの泉》再マット装
- ・レンブラント・ファン・レイン《三本の木》再マット装
- ・オーギュスト・ルノワール
《ロダンの肖像（新収蔵品）》マット装
- ・モーリス・ルイス《ベス・アイン》木枠交換

彫刻作品の保守点検業務

- 1 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品すべてについて、点検と洗浄を実施した。また、ロダン館およびブリッジギャラリーの彫刻作品について、乾拭きを行なった。
- 2 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品のうち、柳原義達《道標・鳩》、佐藤忠良《みどり》、船越保武《杏》の洗浄（陰イオン系洗剤使用）とワックス塗布を行なった。この作業は、現在の色調と撥水性を維持し、着色層の劣化と発錆を防止することを目的とする。なお、掛井五郎《蝶》は、作品の特性上陰イオン系洗剤による洗浄のみを実施した。
- 3 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内、トニー・スミス《アマリリス》、内田晴之《異・空間》は作品の保全状況に問題があると推測されたため、金属製・石製彫刻の専門家による診断と状況改善の試案をお願いした。

- 4 彫刻プロムナードに設置してある野外彫刻作品の内、柳原義達《道標・鳩》の1点が、人が馬乗りになることが原因と思われる荷重により形態が歪んでしまったため、撤去し、収蔵庫に配置換えした。

保存活動

美術作品を保存し、後世に伝えていくことは、美術館の持つ重要な機能の一つである。美術館は単に作品を公開するだけでなく、人類の文化遺産である文化財を、適切な形で管理していかななくてはならない。

当館ではIPM（Integrated Pest Management、総合的有害生物管理）と呼ばれる考え方に基づく環境保全の試みを、推進していく方針である。大規模な燻蒸に頼る従来の方法を改め、環境を改善することで有害生物を施設内に入れず、カビ等の発生を防ごうとするこの方法は、当館のような環境では、困難な側面を持つ。これは当館が周囲を緑に囲まれており、気候が温暖で、人間にとってのみならず、文化財害虫や菌類にとっても非常に住み心地の良い環境にあるからである。

とはいえ、人間を含む生物全般への影響を勘案すれば、薬剤の使用は少ないのが望ましい。作品への影響も、当然のことながら考えられる。

基本方針としてIPMの考え方を、欧米の美術館とは異なる温暖湿潤な環境の美術館にどのようにして導入していくのかを探っているのが、当館の現状である。

展示室等殺虫

当館では昨年度より、収蔵庫の臭化メチル・酸化エチレン製剤による殺虫・殺菌処理をとりやめている。年間を通じての環境調査の結果、収蔵庫内での虫菌害は確認されていない。

展示室、荷解室、県民ギャラリー等のピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤による殺虫処理は引き続き行なった。当館の場合、展示室や執務室への文化財害虫の侵入を食い止めるよう、幾つかの措置を講じてはいるが、全面的な害虫の遮断は、現状では不可能であり、ここからさらなる収蔵庫への害虫侵入の可能性を考えれば、薬剤使用はやむを得ないと判断されるためである。ピレスロイド（エンペントリン）炭酸製剤には害虫の忌避効果が若干ながら期待出来るのも、この薬剤による殺虫処理を継続している理由である。

収蔵庫等に大規模な虫菌害が発生した場合に備えての燻蒸用薬剤についての調査は、殺菌仕様、殺虫・殺卵仕様それぞれの場合に合わせ、今後とも継続する予定である。

環境調査

静岡は温暖湿潤であり、その文化財は虫菌害を受けやすい。この環境の中で先述のIPMを導入するためには、環境の調査が非常に重要になると考えられる。

当館では平成12（2000）年度より外部の委託業者に

よる施設の環境調査を、年3～4回行なってきた。今年度より調査項目を大きく変更した。

- ①害虫の生息状況
- ②収蔵庫内の温湿度測定
- ③収蔵庫内のガス環境測定

①については、当館への虫の侵入経路や生息状況がある程度特定されつつあるため、要注意箇所をより重点的に調査するよう改めた。今年度はミュージアム・ショップ前にお茶カフェが暫定的に設置されたため、この周辺での虫の増加が懸念された。

②③の項目は、昨年度の作品保全環境外部評価の結果を受け、収蔵庫内部のPh値改善を図るための調査として行なわれたものである。③については、第1、2回の調査ではガス検知のためのパッシブ・インジケータを収蔵庫内に設置、アンモニアおよび有機酸の状況を調査した。第3回調査による収蔵庫内空気環境の改善については、次項「環境改善」を参照されたい。

環境改善

昨年度の作品保全環境外部評価に際しての調査により、

①当館収蔵庫内の空気環境が、酸性に傾いている可能性が高いことが分かった。

また、

②本館からロダン館へと観覧者が移動していくと、体感的な空気環境に不快を感じる可能性が高いことも指摘されてきた。本年度はこれらの改善に着手した。

5～7月にかけては、①改善に関わる予備調査を行なった。また、外部業者による環境調査の項目にパッシブインジケータを用いた空気環境調査も加えた。この結果、当館収蔵庫内の空気環境が、やはり酸性に傾いており、外気や作品本体、収蔵庫躯体等の内、原因物質は収蔵庫躯体に用いられている資材である可能性が最も高いことが推定された。

これを受け、外部業者による第3、4回目の調査を1回にまとめ、パッシブインジケータによる調査を改め、収蔵庫内空気のサンプリングを行ない、その分析を行なった。

②に関しては、東京文化財研究所の犬塚将英氏、北九州市立大学の白石靖幸氏のご協力により、アメニティメーターによる観覧者の体感的な空気環境の変化を調査した。この調査に基づく改善は、次年度以降に着手する予定である。

普及活動

大規模燻蒸によらない保存環境保全のためには、施設に携わる者全員の参加が欠かせない。環境をチェックする目が多い程、より多くの情報を集積することが出来るからである。当館ボランティアや、展示室で監視業務に就くミュージズスタッフへの研修は昨年度に引き続き実施されている。また博物館実習の中に「作品の保全について／I P Mの試み」や「収蔵庫内実習」を組み込むことで、当館の環境保全への努力について、美術館外部に理解を求める試みも行なわれている。

作品保全環境外部評価

当館の作品保全環境を美術館外部の有識者に評価していただき、環境保全の改善を目指す試みが行なわれた。本年度は東京文化財研究所保存科学部長石崎志志氏に依頼し、平常時の環境保全対策の状況、災害時の環境保全対策の状況について、評価をお願いした。

評価していただいた結果、当館収蔵庫の空気環境に改善すべき点が見られたため、来年度以降、改善に努める予定である。

その他

観覧者へのサービスと作品保全環境とを共に向上させるにあたり、温湿度変化をより少なくする作品の装丁も模索される必要がある。作品がいわば丈夫に装丁されていれば、観覧者の目に触れる機会を増やすことが、物理的には容易になるからである。

本年度は、紙作品をある程度の気密性を保って額装する方法を、試行的に導入した。

主な保存活動の経過

4月7日(金)～8日(土)

本館展示室、本館及びロダン館荷解室、県民ギャラリー殺虫処理

5月8日(月)～13日(日)

本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

5月16日(火)～5月19日(金)

本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

5月25日(木) 本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

5月28日(日) 本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

6月21日(水) 本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

6月30日(金) 本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

7月5日(水)、7月6日(木)

本館収蔵庫空気環境改善に関わる調査

7月31日(月)～8月14日(月)

外部業者環境調査第1回目

8月3日(木) 博物館実習に際しての収蔵庫清掃

8月7日(月) ロダン館空気環境改善に関わる調査
(東京文化財研究所、北九州市立大学と共同)

8月25日(金)

データロガー(館内)、気象観測機器(本館屋上)設置(東京文化財研究所と共同)

9月26日(火)

アメニティメーターによる調査(東京文化財研究所と共同)

10月6日(金)～11月27日(月)

本館収蔵庫に活性炭によるガス吸着シートを設置

11月15日(水)

館内データロガーデータ回収(東京文化財研究所と共同)

11月27日(月)～12月5日(火)

外部業者環境調査第2回目

2月9日(金)

館内データロガー、屋上気象観測機器データ回収(東京文化財研究所と共同)

2月10日(土)

アメニティメーターによる調査(東京文化財研究所と共同)

2月20日(火)～21日(水)

収蔵庫換気状況調査(東京文化財研究所と共同)

2月28日(水)～3月12日(月)

外部業者環境調査第3回目(収蔵庫内ガスサンプル採取)

3月9日(金) 静岡県博物館協会災害対策講習会
「もし博物館園で事故が起きたらー入館者事故への対応と保険」

平成18年度美術館ボランティア

静岡県立美術館ボランティアは、開館前年の1985年から募集と研修を開始し、86年4月の開館と同時に350人で活動を開始した。以来、日本の公立美術館としては最大規模のボランティアとして、美術館と観覧者との架け橋となるべく活動を続けている。

■ボランティア改革

平成18年度の特記事項として、ボランティア改革を挙げておきたい。ここ数年ボランティア活動の見直し及び自主運営組織化に取り組んできたが、今年度はその推進を本格化し、ボランティアと美術館とが協議を重ね具体的な成果を得た。改革の目的は将来的な自主運営化であり、それに向けて緩やかな組織化を行うことで、ボランティア全体としての主体的な意思決定、それに基づく諸活動の推進や美術館との協議等を行えるようになることを目指した。美術館職員の指示・指導を受けて活動するだけでなく、共に美術館を支えていくパートナーとして協同していくことが理想である。

今年度の手順として、まず、ボランティア自身による改革推進チームである運営準備会を立ち上げ、上記目的を共有しながら諸事項の検討を進めた。その過程および成果を、日常活動班には班長会を通して、グループ活動には代表者会を通して周知し、さらに全体意見交換会を開催して諸活動からのフィードバックを受けながら議論を深めた。その結果、年度末の総会において、ボランティア諸活動の基本的な約束事や新規活動案が提案され、承認された。各活動の代表者により構成される自主運営組織「運営会」の新設とその構成員についても承認され、県立美術館ボランティアは新たなスタートを切った。

また、この過程において、美術館としても「静岡県立美術館ボランティア設置要綱」及び「登録規定」を整備する機会を得た。

■活動人数の推移

昭和61年度	350名
昭和62年度	307名
昭和63年度	260名
平成元年度	317名（新規参加者90名）
平成2年度	263名
平成3年度	240名
平成4年度	223名
平成5年度	347名（新規参加者140名）
平成6年度	331名
平成7年度	299名

平成8年度	282名
平成9年度	273名
平成10年度	354名（新規参加者94名）
平成11年度	316名
平成12年度	297名
平成13年度	265名
平成14年度	331名（10月より新規参加者95名）
平成15年度	328名
平成16年度	303名
平成17年度	285名
平成18年度	278名

■活動内容と役割

日常活動とグループ活動の2種があり、そのいずれかまたは両方に登録して活動する。

各々の詳細は下に記すが、このほか鑑賞研修も重要な活動と位置づけ、収蔵品展は随時、企画展は各展数回の鑑賞研修の機会を設けている。また、企画展開幕時には「ボランティアプレビュー」を実施し、いち早く展覧会内容の把握に努め、対外的な広報活動に役立っている。

【日常活動班】

火曜班から日曜班までの6班編成により、月2回または1回、既定の活動日に来館して下記の活動を行った。また、班相互の連絡調整のために「班長会」を開催し、今後の日常活動のあり方や自主運営について討議した。

- ・インフォメーションカウンターでの案内
- ・図書閲覧室の運営・公開端末利用の受付
- ・来館者アンケート調査
- ・障害のある方への補助
- ・団体観覧者に対する資料配布
- ・他館の展覧会ポスターの館内での掲示、管理
- ・新聞記事の切り抜きや整理など、美術館活動の基本資料の整備
- ・その他、美術館の要請に応じて美術館活動を助けること

【グループ活動】

前年度から拡充を図ったグループ活動は、それぞれ自主的な活動の幅を広げつつ展開している。今年度は下記11のグループが活動を行った。各グループの連絡調整の場として「グループ代表者会」を随時開催し、ボランティア改革についての意見交換等を行った。

- (1) アートセンターA
閲覧室改善と運営

- (2) アートセンターB
新聞資料・はがき整理
- (3) ギャラリートーク
収蔵品展および企画展の来館者への作品解説
- (4) 草薙ツアー
草薙ツアーの計画・実施、彫刻プロムナード茶の世話、お茶会の企画・実施
- (5) 講演会運営
講演会事業の広報、運営補助、企画への参画
- (6) 広報支援
美術館の広報活動支援
- (7) 実技室
実技室における各種イベントの運営補助
- (8) タッチ・ツアー・ガイド
タッチツアープログラムの案内係
- (9) パソコン隊
パソコン入力による美術館のデータ整備支援
- (10) ボランティア運営 (→運営準備会へ発展的解消)
ボランティア組織の運営、自主運営への検討
- (11) 旅行研修
自主的な研修旅行の企画、実施

- 2月7日 運営準備会 (第5回)
- 2月20日 運営準備会 (第6回)
- 2月24日 総会
 - ・開会の挨拶 館長 宮治 昭
 - ・県立美術館からの報告—ボランティア組織変更について
 - ・運営準備会の活動報告
 - ・平成19年度運営委員の承認
 - ・各グループからの活動報告
 - ・県立美術館からの連絡事項
- 3月1日 運営準備会 (第7回)
- 3月14日 運営準備会 (第8回)
- 3月23日 グループ代表者会 (第4回)

平成18年度 地域サポーター

平成13年度に発足した広報サポーターは、平成18年度より「地域サポーター」と改称した。「美術館と展覧会の広報」の分野を担う、美術館に通って来ないボランティア活動として定着を見せており、平成18年度当初、登録人数は120名。

地域サポーターとは、美術館の展覧会や活動にご理解いただいている方々に、当館スタッフの一員として広報をサポートしていただくもので、美術館から随時お送りする展覧会ポスター・チラシおよび当館のイベント情報等を利用し、それぞれの地域社会や職場・学校などに広く美術館の情報を広めていただくことを目的としている。

地域サポーターは、当館ボランティア向けにおこなっている展覧会内覧会に参加できることとしている。広報活動のため、いち早く展覧会内容を知っていただくためである。また、実際の活動状況を把握するため、年に一度「活動アンケート」を義務付けている。

■年間活動記録抄

- 4月14日 「山内一豊とその妻」展 内覧会
- 6月5日 「コレクション20年の熱情Ⅰ」展 内覧会
- 6月17日 日常活動班長会 (第1回)
- 7月25日 「コレクション20年の熱情Ⅱ」 内覧会
- 7月29日 日常活動班長会 (第2回)
- 8月19日 全体意見交換会
- 9月11日 「世界遺産ナスカ展」 内覧会
- 9月30日 グループ代表者会 (第1回)
- 10月7日 日常活動班長会 (第3回)
- 11月6日 「森嶋外と美術」展 内覧会
- 11月9日 運営準備会 (第1回)
- 11月11日、16日 研修旅行
千葉県美術館「浦上玉堂」展
計114名参加 随行：飯田 真、森 充代
- 11月22日 運営準備会 (第2回)
- 12月2日 日常活動班長会 (第4回)
- 12月8日 グループ代表者会 (第2回)
- 12月11、12、13、14、17日 全体意見交換会
- 12月19日 運営準備会 (第3回)
- 1月15日 運営準備会 (第4回)
- 2月1日 グループ代表者会 (第3回)
- 2月4日 「ロダン—創造の秘密」展 内覧会

- 1) 「地域サポーター」に登録すると
 - ・展覧会ポスターやチラシ、イベント情報が随時送られてくる
 - ・展覧会のボランティア・プレビューに参加できる
 - ・地域サポーター証の発行を受ける
- 2) 「地域サポーター」の義務
 - ・展覧会やイベントの情報を地域や職場に広める
 - ・効果的なポスター掲示場所等の情報を美術館に寄せる
 - ・年に一度、活動内容をアンケートの形で報告する

平成18年度 友の会活動

1. 諸会議

(1) 理事会

平成18年5月13日(土)

静岡県立美術館 会議室

- ・平成17年度事業報告、決算報告
- ・平成18年度事業計画、予算案
- ・役員の改選について

(2) 代議員会

平成18年5月13日(土)

静岡県立美術館 講座室

- ・平成17年度事業報告、決算報告
- ・平成18年度事業計画、予算案
- ・役員の改選について

(3) 事業委員会

静岡県立美術館 会議室 12回開催

(4) 会報委員会

静岡県立美術館 会議室 29回開催

2. 実技講座

(1) 絵画講座「絵の具を作って絵を描く」

平成18年10月30日(月)、10月31日(火)

静岡県立美術館 実技室

- ・講師 持塚三樹氏(画家)
- ・受講者 9名

(2) 木版画講座「多版多色摺り木版の楽しみ」

平成19年2月11日(日)、12日(月)

静岡県立美術館 実技室

- ・講師 福元清志氏(当館学芸課主任)
- ・受講者 12名

3. 講演会等の開催

(1) 新収蔵品展 フロアレクチャー

平成18年4月26日(火)

参加者 第1回目 15名

第2回目 4名 合計19名

(2) 日本画をじかに見る

平成19年3月4日(日)

静岡県立美術館 講座室

- ・講師 飯田 真主任学芸員・森 充代学芸員
- ・受講者 10名

4. 美術館主催の展覧会・講座等の後援

美術館学校連携普及事業の委託

粘土ワークショップのコーディネーター1名・助手

2名の雇用と給与支払事務等

(平成18年4月～平成19年1月 60回開催)

5. 情報資料の作成と提供

(1) 友の会だより「プロムナード」の発行 2回

・No61 平成18年12月15日 1,000部発行

アトリエ訪問 堤 直美氏(彫刻家)

・No62 平成19年3月15日 1,000部発行

アトリエ訪問 長谷川正季氏(水彩画家)

(2) 美術館ニュース「アマリリス」の配布 年4回

・No81 平成18年4月1日 発行

・No82 平成18年7月1日 発行

・No83 平成18年10月1日 発行

・No84 平成19年1月1日 発行

6. 20周年記念事業

(1) 「静岡県立美術館がモンマルトルになる日」

平成18年4月29日(土) 参加者 33名

場 所 静岡県立美術館プロムナード

講 師 澤田祐一氏(東海大学付属翔洋高校教授)

夏池 篤氏(常葉学園大学助教授)

(2) 「友の会会員展」

平成18年5月2日(火)～7日(日) 来場者 1,210名

場 所 県民ギャラリー

出展者 38名 出品数54点

実演コーナー 盆石(5/2)、「漫画を描こう」(5/5)、裂織(5/6)

演奏会 ギター演奏会 観客数 60名

(3) 記念国内親睦旅行(南東北地方)

平成18年6月13日(火)～16日(金) 3泊4日

見学先 平泉・花巻・角館・象潟・大石田他

参加者数 28名

(4) 記念誌の発行

【プロムナード第60号】 7月25日 1,000部

20周年に寄せる言葉(会長、館長他)、過去10年間のイベント、20周年のあゆみ 他

(5) 記念海外親睦旅行「芸術の秋 中欧の街々へ」

平成18年10月19日(木)出発 10月29日(日)帰国

参加者54名

ベルリン、ドレスデン、プラハ、ウィーン

(6) 美術館PR用DVDの作成

平成18年7月20日 1,000部

7. その他の事業

・館内ミュージアムショップ前掲示板(友の会からのお知らせ)で情報掲示

・美術館友の会会員の入会勧誘

・会員証の発行

・招待券の配布

■静岡県立美術館友の会会則

制定 昭和61年5月25日

改正 平成13年6月16日

(名称)

第1条 この会は、「静岡県立美術館友の会」(以下「本会」という。)という。

(事務所)

第2条 本会の事務所は、静岡県立美術館内に置く。

(目的)

第3条 本会は、美術を愛好する人たちの集まりであり、静岡県立美術館の活動を後援することにより、本県の芸術文化の普及及び振興を図るとともに、美術を通じて教養を豊かにし、会員相互の親睦を深めることを目的とする。

(事業)

第4条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 講演会・講座・コンサート・映画会等の開催及び後援
- (2) 会報の発行
- (3) 鑑賞会及び研修旅行の開催
- (4) 出版事業
- (5) 静岡県立美術館が行う事業への協力・後援
- (6) その他必要な事業

(会員の種類及び特典)

第5条 本会の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員及び賛助会員とする。

- (1) 70歳以上の会員は、一般会員、シニア会員、特別会員のいずれかを選択する。
- (2) 会員資格の有効期限内における会員の種類の変更は、行わない。

2 会員は、所定の方法により本会が別表1に定める特典を受けることができる。

(会員の資格)

第6条 会員とは本会の主旨に賛同し、所定の入会申込みの手続きを行い、会費を納めた者をいう。

2 会員資格の有効期限は1年とする。ただし、会員から退会の申し出がない限り、さらに1年延長するものとし、その後も同様とする。

(年会費)

第7条 本会の年会費は、別表2のとおりとする。なお、納入された年会費は理由の如何を問わず、返還しない。

2 見学、実習などの参加者は、別に実費を負担するものとする。

(届出事項)

第8条 会員は、住所、氏名、電話番号、口座番号等の届出事項に変更があった場合は、直ちに本会に報告し、変更手続きを行う。

2 前項の報告がないために生じた会員の不利益又は損害については、本会は一切の責任を負わない。

(会員証)

第9条 本会は、会員資格取得者に対し、会員証を発行する。

- 2 会員証には、クレジット機能はない。
- 3 会員証を譲渡又は貸与することはできない。

(会員証の紛失、盗難)

第10条 会員は、会員証を紛失又は盗まれたときは、直ちに本会に届け出る。

2 本会は、会員証の紛失、盗難その他の事由により生じた会員本人の不利益又は損害については、一切の責任を負わない。

(退会)

第11条 会員は、申し出によりいつでも退会することができる。

2 前項により退会する場合は、会員有効期限の2か月前までに、本会に申し出を行う。

(組織)

第12条 本会に代議員会と理事会を置く。

(役員)

第13条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 若干名
- (3) 代議員 30名以内
- (4) 理事 15名以内
- (5) 監事 2名

2 代議員及び理事は、会員の中から代議員会において選任する。

3 監事は、代議員会で選任する。

4 会長は、代議員の互選とし、副会長及び事務局長は代議員の同意を得て、会長が任命する。

(役員職務)

第14条 役員職務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、会務を統括する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときは、会長があらかじめ指定した副会長が、その職務を代理する。
- (3) 代議員は、付議された事項の審議、決定を行う。
- (4) 理事は、会の運営を行う。

- (5) 監事は、本会の業務及び会計を監査する。
- (顧問)
- 第15条 本会に顧問を置く。
- 2 顧問は、静岡県立美術館長をもって充てる。
- (役員任期)
- 第16条 役員任期は、二年とする。ただし、再任を妨げない。
- (会議)
- 第17条 本会の会議は、代議員会と理事会とし、会長、副会長及び理事並びに代議員の出席により開催する。ただし、特別の事情がある場合には、代理者が出席することができる。
- 2 代議員会は、すべての役員で構成され、毎年1回会長が召集し、次の事項を審議、決定する。
- (1) 予算及び決算
- (2) 事業計画及び事業報告
- (3) 役員を選出
- (4) 会則の改正
- 3 理事会は、会長、副会長及び理事で構成され、次の事項を審議する。
- (1) 代議員会に付議する事項
- (2) その他会長が必要と認める事項
- (議決)
- 第18条 代議員会の議事は、出席した役員(代理者も含む)の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長が決する。

- (専決処分)
- 第19条 会長は、会議を召集することが困難と認めるときは、第17条第2項及び第3項に掲げる事項について、これを専決処分することができる。
- 2 前項の規定により専決処分したときは、会長はこれを次の会議において報告しなければならない。
- (専門委員会)
- 第20条 本会に事業計画の策定や具体的な企画等の検討を目的とした事業委員会と会報委員会を置く。
- (事務局)
- 第21条 本会の事務を処理するために、事務局を置く。
- 2 事務局に事務局長を置くことができる。
- 3 会長は、代議員の同意を得て、事務局長を理事とすることができる。
- 4 事務局に事務職員を置く。
- (財務)
- 第22条 本会の経費は、会費その他の収入をもって充てる。
- 2 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年の3月31日に終わる。
- (補則)
- 第23条 この会則に定めるもののほか、会の運営等に関し必要な事項は、会長が定める。
- 附 則
- この会則は、平成14年4月1日から施行する。

別表1 (第5条第2項関係) 会員の特典

特典の種類	会員の種類		
	一般会員	シニア会員	特別会員
①県立美術館主催の企画展招待券5枚	○		○
②会員証提示により、収蔵品展・ロダン館が、何度でも観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
③会員証提示により、県立美術館主催の企画展が、何度でも団体料金で観覧可能	○		○ (同伴4名まで)
④友の会だより「プロムナード」(年3回)、美術館ニュース「アマリス」(年4回)、その他、各種情報を郵送	○	○	○
⑤研修旅行(美術館めぐり)、各種講座等友の会主催の事業に参加可能	○	○	○ (同伴1名まで)
⑥会員証提示により、県立美術館内レストラン「エスタ」の飲食料金が会員本人のみ1割引	○	○	○
⑦会員証提示により、県立美術館内のブックショップの利用補助	○	○	○
⑧県立美術館主催の企画展オープニングセレモニー御招待			○ (同伴1名まで)

(注)○印は、特典を受けることができることを示す。

別表2 (第7条関係) 年会費

会員区分	年会費	備考
一般会員	(1名) 5,000円	
シニア会員	(1名) 2,000円	70歳以上で、選択した人
特別会員	(1口) 10,000円	
賛助会員	申し出のあった額	

平成18年度 美術館の評価活動

■前史

平成13年度より、館内にワーキンググループを設け、佐々木亨氏（北海道大学文学部助教授）の助言のもと、ベンチマーク（評価指標）の策定に取り組み、それに基づく利用者の満足度調査を行った。平成14年度には、ベンチマークの改訂作業をしながら、利用者アンケート調査等を行い、諸業務における現状値を測定、それに伴う業務改善に向けた取り組みを行った。

それらの成果を踏まえ、平成15年度には、「静岡県立美術館評価委員会」が設置され、2年間にわたる美術館・県庁との共同作業を経て、平成17年3月に「提言：評価と経営の確立に向けて」という最終報告が出された。その提言を受けて、平成17年4月より、ミュージアム・ナビ（使命・戦略計画の達成度を指標で測定し、改善を行うツール）の運用を始めた。

■平成18年度の活動

平成18年度には、平成17年度の活動に関する自己評価をとりまとめ、第三者評価委員会の総括を受けるシステムが稼働し始めた（静岡県のウェブサイトで議事録を閲覧することができる）。

これら評価活動の根幹には、外部の声を取り入れる2つの窓口がある。ひとつは来館者の反応を調査するアンケートで、もうひとつは専門家によるレビューである。以下、これらについて略述する。

（1）ミュージアム・ナビによる自己点検・評価

使命・戦略計画の達成度を指標（定量的・定性的）によって測定し、自己点検を行うことで、業務の改善に取り組む。それによって、Plan（計画）、Do（実行）、Check（監視）、Action（改善）のサイクルを確立する。

自己点検のよりどころとなるのは来館者に対するアンケート調査である。ボランティアの協力を得て、統計的に有意なサンプル数を確保するとともに、項目・選択肢等についても細かな改訂を重ねつつ、意味のあるデータを取り出せるよう心がけている。また、時にグループインタビュー形式の意見聴取を行うなどの方法も試行し、さらに洗練された仕組みの構築を目指している。

（2）研究活動評価委員会

ミュージアム・ナビの中で、展覧会および学芸員の調査研究に関わる定性的評価を行う。利用者アンケートによる調査では把握しきれない学術面での達成について、各分野の専門家に評価・コメントを依頼するの

がこの委員会である。

■静岡県立美術館研究活動評価委員

（【 】内は専門分野）

- 坂本 満【西洋絵画・日本洋画】／金沢美術工芸大学客員教授・（前）うらわ美術館館長
- 潮江宏三【西洋絵画・現代美術】／京都市立芸術大学学長
- 山梨絵美子【日本洋画】／東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブズ研究室長
- 榊原 悟【日本画】／群馬県立女子大学教授
- 金原宏行【教育普及・日本画】／常葉学園大学教授、豊橋市美術博物館館長

■開催記録

第1回

平成18年6月12日（月）

- ・平成17年度研究活動の総括
- ・平成18年度の研究評価活動のスケジュールについて
- ・「コレクション20年の熱情」展Ⅰの視察

第2回

平成18年8月9日（木）

- ・「コレクション20年の熱情」展Ⅱの視察

第3回

平成18年11月23日（金）

- ・「森嶋外と美術」展の視察

第4回

平成19年2月27日（火）

- ・「ロダン 創造の秘密」展の視察

■静岡県立美術館研究活動評価委員会設置要項

（設置）

第1条

静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の展覧会事業及び専門分野に関わる刊行物等の評価を行うため、静岡県立美術館研究活動評価委員（以下「委員」という。）を置く。

（職務）

第2条

委員は次に掲げる事項について別紙評価の基準によ

り、様式1の業務評価書を作成する。

- (1) 美術館が行う展覧会事業及び普及事業
- (2) 学芸員が執筆する専門分野に関する論文及び刊行物
- (3) その他美術及び教育普及に関する専門的事項

(組織)

第3条

委員は5名以内とする。

- 2 特別の事項を調査する必要があるときは、館長は臨時委員を委嘱することができる。

(委嘱)

第4条

委員は美術及び教育普及に関する専門的知識を有する者の中から館長が委嘱する。

(任期)

第5条

委員の任期は2年とする。

- 2 委員は再任することができる。

(委任)

第6条

この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

■評価基準

1) 展覧会

1. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、多様な資料(写真や二次資料等)の積極的な活用、館蔵品やそれに関わる資料等の活用、地域作家の調査・研究(記録・整理を含む)等。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…学芸員の日頃の取り組みや研究成果を活かした内容。学術に対する貢献度等。
3. 出品作品の充実度…諸々の制約の中で、出来る限り企画内容に即した作品を出品できたか。
4. 鑑賞者への判り易さ…企画内容・展示、キャ

プションの解説は、鑑賞者にとってわかり易いものか。

5. その他…特に評価に値する事柄。

2) 展覧会カタログ/学芸員のエッセイ

1. 鑑賞者への普及・啓蒙…企画内容を補完し、鑑賞者への理解を促す。
2. 企画者(学芸員)の研究面での充実度…研究成果が活かされたか。学術に対する貢献度。
3. 内容の独自性、先駆性…視点の新しさ(新たな価値基準の提示)、資料的な価値等。
4. その他…特に評価に値する事柄。

3) 研究紀要/館蔵品に言及あるいは館の作品収集テーマに直結して記述した館外の刊行物

1. 内容の先駆性・独自性…他にはない先駆的な内容。
2. 研究の充実度…研究成果が活かされたか。学術への貢献度。
3. 学会へのインパクト…研究内容が及ぼす学会への影響。
4. 資料的な価値…入念なデータの調査・蓄積が出来ているか。
5. その他…特に評価に値する事柄。

4) 教育・普及プログラム

1. 企画内容の充実度…作家、作品に対するアプローチ。作品の魅力を伝え、身近に感じてもらえる工夫等。
2. その他…特に評価に値する事柄。

大河ドラマ「功名が辻」特別展 山内一豊とその妻

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	山内一豊画像	慶長十三年（一六〇八）	絹本著色	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	在来馬模型			神奈川・馬の博物館蔵
	見性院画像	元和四年（一六一八）	絹本著色	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	槍			東京・靖國神社遊就館蔵
	山内一豊画像	江戸時代	紙本淡彩	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	重籐弓及び矢			個人蔵
	見性院画像	江戸時代	紙本淡彩	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	家譜	明治初期 十九世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	一豊公御武功記附御伝記	宝暦八年（一七五八）写		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	一字書「神」 伝山内一豊筆	桃山時代	紙本墨書	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内一豊銅像雛形	大正二年（一九一三）頃		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
県重文	山内康豊画像	江戸前期	紙本著色	高知・要法寺蔵
県重文	慈仙院画像	江戸時代	絹本著色	高知・要法寺蔵
	孔雀蒔絵料紙硯箱（料紙箱）	江戸時代 十八-十九世紀		個人蔵
	孔雀蒔絵料紙硯箱（硯箱）	江戸時代 十八-十九世紀		個人蔵
	蓬萊三ツ柏葉紋蒔絵脇息	江戸時代 十七世紀		個人蔵
	蓬萊三ツ柏葉紋蒔絵文机	江戸時代 十七世紀		個人蔵
重文	南蛮屏風	江戸時代 十六-十七世紀	紙本金地著色	大阪城天守閣蔵
	花下遊楽図屏風	桃山時代 十七世紀初	紙本著色	東京・サントリー美術館蔵
	陣羽織〈黒羅紗地日輪鍋蓋文〉山内一豊所用	桃山時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	南蛮帽 山内一豊所用	桃山-江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	織田信長画像	江戸時代 十七世紀	絹本著色	愛知・總見寺蔵
	織田信長画像（模本）	江戸時代	紙本著色	愛知・總見寺蔵
	刀（名物箆手切正宗）織田信長所用（切付銘） 朝倉箆手切太刀也 天正三年十二月 右幕下 摺上 大津伝十郎拜（以下切）	鎌倉時代 十四世紀		東京国立博物館蔵
	山内御系図	江戸時代 十八世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	槍 兼定 山内一豊所用	室町後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	枇杷耳形脇立 山内一豊所用	桃山時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	牧村政倫画像	元龜三年（一五七二）賛		京都・雜華院蔵
	山岡景隆画像	江戸時代	紙本著色	滋賀・園城寺蔵
	山岡景友画像	慶長九年（一六〇四）	絹本著色	滋賀・園城寺蔵
	豊臣秀吉画像	桃山時代 十六世紀	絹本著色	兵庫・神戸市立博物館蔵
	馬蘭後立付兜（模）	昭和時代		大阪城天守閣蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
重文	桐紋散金鬘斗糸卷太刀	桃山時代 十六世紀		京都・御香宮神社蔵
	御家老差出	江戸時代 十七-十九世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	鍔	桃山時代		高知・安芸市立歴史民俗資料館蔵
	三段崎勘右衛門を討ち取りし図	近代	紙本墨彩	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	長篠合戦図屏風	江戸後期	紙本著色	大阪城天守閣蔵
	譲葉金（複製）			日本銀行金融研究所貨幣博物館蔵
	桐紋散蒔絵鏡箱	桃山時代 十六世紀末-十七世紀初		東京国立博物館蔵
	桐紋散双鶴鏡	桃山時代 十六世紀末-十七世紀初		東京国立博物館蔵
	御拵写	文化三年（一八〇六）写		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	黒大鳥毛	江戸時代		土佐山内家宝物資料館蔵
	黒大鳥毛	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	賤ヶ岳合戦図屏風	江戸前期	紙本著色	岐阜市歴史博物館蔵
	長久手合戦図屏風	江戸後期	紙本著色	大阪城天守閣蔵
	豊臣秀吉書状 山内一豊・堀尾吉晴宛	天正十四年（一五八六） 四月二十三日付		高知・安芸市立歴史民俗資料館蔵
	堀尾吉晴画像	慶長十六年（一六一一）	絹本着色	京都・春光院蔵
	中村一氏画像（模本）		紙本著色	東京大学史料編纂所蔵
	豊臣秀吉書状 中村一氏・山内一豊宛	（天正十五年・一五八七 五月二十五日）		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀次書状 山内一豊・松下之綱宛	天正十九年（一五九一） 十二月五日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	陣羽織〈紙衣〉 山内一豊所用	桃山時代		土佐山内家宝物資料館蔵
	黒糸威七十六間小星兜	桃山時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀吉領地宛行状写 山内一豊宛	原本天正十八年（一五九〇） 九月二十日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀吉領地宛行状写 山内一豊宛	原本文禄四年（一五九五） 七月十五日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀吉蔵入地目録写 山内一豊宛	原本文禄四年（一五九五） 八月四日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内一豊領知宛行状 五藤市左衛門宛	天正十八年（一五九〇） 十月七日		高知・安芸市立歴史民俗資料館蔵
	山内一豊還住許可判物 五藤市左衛門宛	桃山時代 十六世紀		個人蔵
	山内一豊寺領寄進状 野中益継宛	文禄二年（一五九三） 七月二十五日		静岡・蓮華寺蔵
	山内一豊諸役免許状	慶長五年（一六〇〇）三月五日		個人蔵
市指定	遠江国掛川城地震之節損所之覚図	安政二年（一八五五）	紙本淡彩	静岡・掛川市二の丸美術館蔵
市指定	遠江国掛川城御天守台石垣芝土手崩所絵図	嘉永四年（一八五一）	紙本淡彩	静岡・掛川市二の丸美術館蔵
	浅野長政書状 山内一豊宛	天正十九年（一五九一） 七月八日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀次朱印状 下のせき宛	天正二十年（一五九二）八月		個人蔵
	豊臣秀吉書状 山内一豊宛	文禄元年（一五九二） 四月二十八日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	豊臣秀次と婦人画像（複製）			大阪城天守閣蔵
	瑞泉寺縁起	江戸時代		慈舟山 瑞泉寺蔵
府指定	お竹辞世和歌懐紙（瑞泉寺裂表具）	桃山時代		慈舟山 瑞泉寺蔵
	火縄銃	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	火縄銃	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	亀の子型口薬入	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	丸三ッ柏葉紋付口薬入	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	早合	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	玉鑄型	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	安見流秘伝書 堅田兵部少輔宛	慶長四年（一五九九） 三月十五日		千葉・国立歴史民俗博物館蔵
	徳川家康画像	江戸時代 十七世紀	紙本著色	愛知・名古屋東照宮蔵
	大黒頭巾形兜	江戸時代 十七世紀		静岡・久能山東照宮博物館蔵
重文	脇指 銘備前国住長船勝光宗光 文明十九年 二月吉日 備中於草壁作 金梨地合口脇指 拵 徳川家康所用	（刀身）文明十九年（一四八七） （拵）桃山時代 十六-十七世紀		栃木・日光東照宮宝物館蔵
	徳川家康書状 山内一豊宛	天正十八年-慶長五年 （一五九〇-一六〇〇）四月		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	徳川家康書状写 山内一豊宛	（原本）慶長五年・一六〇〇年 七月五日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	御侍中先祖書系図帳	江戸-明治初期 十八-十九世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	御系図	江戸時代 十七世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	堀尾忠氏画像	慶長十四年（一六〇九）	絹本著色	京都・春光院蔵
	関ヶ原合戦図屏風	江戸後期	紙本著色	岐阜市歴史博物館蔵
重文	刀 無銘正宗（名物石田正宗）石田三成所用	鎌倉時代 十四世紀		東京国立博物館蔵
県宝	石田三成書状 真田昌幸宛	（慶長五年（一六〇〇）七月晦日）		長野・真田宝物館蔵
	前田玄以画像	慶長七年（一六〇二）賛	絹本著色	京都・霊洞院蔵
	黒田長政画像（扮本）	江戸時代 十七-十九世紀	紙本著色	福岡市博物館蔵
重文	黒漆塗桃形大水牛脇立兜 黒田長政所用	桃山時代 十六世紀		福岡市博物館蔵
	銀泥塗一の谷形兜・黒糸威胴丸具足	江戸後期 十九世紀		福岡市博物館蔵
	火縄銃〈鳥天狗図金象嵌〉 黒田長政所用	桃山時代 十六世紀末		福岡市美術館蔵（黒田資料）
	青貝散螺鈿十文字槍 加藤清正所用	室町時代 十六世紀		東京国立博物館蔵
	短刀 銘吉光（名物毛利藤四郎） 毛利輝元所用	鎌倉時代 十三世紀		東京国立博物館蔵
	青漆流水文半太刀大小 遠山友正所用	桃山時代 十六-十七世紀		東京国立博物館蔵
重文	金霰鮫青漆打刀拵 黒田孝高所用	桃山時代 十六世紀末-十七世紀初		福岡市博物館蔵
国宝	葡萄文蒔絵刀箱 黒田孝高所用	江戸初期 十七世紀初	木製漆塗り・ 印籠 作り	福岡市博物館蔵
	槍 銘 長吉作（名物一國長吉） 黒田長政所用	室町時代		福岡市博物館蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	熏草茶糸威当世具足	桃山時代		東京・靖國神社遊就館蔵
重文	長宗我部元親画像	慶長四年（一五九九）賛	絹本著色	高知・秦神社蔵
重文	長宗我部地検帳 安芸郡 安田庄地検帳	天正十五年（一五八七）		高知・土佐山内家宝物資料館蔵 (高知県立図書館保管)
重文	長宗我部地検帳 幡多郡 宿毛村地検帳	天正十七年（一五八九）		高知・土佐山内家宝物資料館蔵 (高知県立図書館保管)
	長宗我部盛親書状	慶長五年（一六〇〇） 十月二十三日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	土佐国絵図	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内康豊書状 吉良川浦山百姓中・大畠孫右衛門宛	慶長五年（一六〇〇） 十一月二十七日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内康豊書状 大畠孫右衛門宛	慶長五年（一六〇〇） 十二月十三日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内一豊領知宛行状 山内（安東）可氏宛	慶長六年（一六〇一） 八月十九日		個人蔵
	山内一豊書状 五藤市左衛門宛	慶長六年（一六〇一） 八月十九日・二十一日		高知・安芸市立歴史民俗資料館蔵
	山内一豊書状 久万村庄や百姓中宛	慶長五十年（一六〇〇-〇五） 七月二十七日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内一豊寺領宛行状 真如寺宛	慶長六年（一六〇一） 八月二十五日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	山内一豊高札 清瀧寺宛	慶長六年（一六〇一） 十一月二十三日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	御築城記	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	西尾・津田・片桐・本多連署状 山内一豊宛	慶長六年（一六〇一） 九月二十三日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	徳川家康御内書 山内一豊宛	慶長八-九年（一六〇三-〇四） 十月十八日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松田政行画像	慶長十一年（一六〇六）賛	絹本著色	京都・靈洞院蔵
	松田政行書状 松井理兵衛宛	慶長十年（一六〇五） 九月二十八日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	銀箔押富士山形張懸兜 伝加藤嘉明所用	桃山時代 十六世紀		東京・靖國神社遊就館蔵
	山内康豊書状 若原右京亮宛	慶長十年（一六〇五） 十一月十三日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	野中益継書状 平井少太宛	慶長十一年（一六〇六） 二月二十九日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	見性院書状 山内忠義宛	慶長十一年-元和三年 (一六〇六-一七) 四月十四日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	豊臣秀頼御内書 山内忠義宛	慶長十五-十九年 (一六一〇-一四) 十一月十九日		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	見性院書状 伝湘南和尚宛	慶長十年-元和三年 (一六〇五-一六一七)		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	禅宗祖師・散聖図屏風	慶長十八年（一六一三）	紙本墨画	静岡県立美術館蔵
	見性院道歌七首	江戸時代 十七世紀	紙本	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	小袖屏風〈黒綸子地花唐草段花文散模様絞縫箔小袖〉	桃山時代～江戸前期 十六世紀		千葉・国立歴史民俗博物館蔵
	小袖屏風〈白綸子地菊唐草桐模様絞縫小袖 鬱金綸子地菊文字模様絞縫小袖〉	桃山時代～江戸前期 十六世紀		千葉・国立歴史民俗博物館蔵
	旭姫画像	桃山時代	絹本著色	京都・南明院蔵
	薙刀 無銘国宗 伝旭姫所用	鎌倉後期		静岡・久能山東照宮博物館蔵
	豊臣秀吉朱印状 駿河瑞龍寺宛	天正十八年（一五九〇） 八月二十二日		静岡・瑞龍寺蔵
	桐沢瀉紋立涌模様打敷 旭姫所用小袖	桃山時代		静岡・瑞龍寺蔵
	築山殿画像	近代	絹本著色	静岡・西来院蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
重文	三河物語	寛永三年（一六二六）		個人蔵
	明智光秀画像	慶長十八年（一六一三）賛	絹本著色	大阪・本徳寺蔵
	細川三斎画像	天保十五年（一八四四）		大阪城天守閣蔵
	錦絵『今古誠画浮世画類考』の内「細川ガラシャ」	明治十八年（一八八五年）		大阪城天守閣蔵
	聖観音坐像（千姫観音）	桃山時代		個人蔵
	慶光院周清上人自筆願文（千姫観音胎内物）	元和九年（一六二四）九月吉日		個人蔵
	豊臣秀頼自筆六字名号（千姫観音胎内物）	桃山時代		個人蔵
市指定	千姫姿絵	江戸時代		茨城・弘経寺蔵
市指定	紫龍硯（千姫所用）	桃山時代		茨城・弘経寺蔵
	葵紋付茶碗	江戸時代		茨城・弘経寺蔵
市指定	浄土三部経	江戸時代		茨城・弘経寺蔵
	葵紋付五條袈裟（千姫所用）	江戸時代		茨城・弘経寺蔵
	天秀尼画像	江戸時代		神奈川・東慶寺蔵
市指定	豊臣秀頼菩提のための雲版	寛永十九年（一六四二）		神奈川・東慶寺蔵
	天秀尼自筆短冊	江戸時代		神奈川・東慶寺蔵
重文	千姫侍女しょけん書状	明暦三年（一六五七）二月六日		神奈川・東慶寺蔵
市指定	豊臣秀吉朱印状 関白宛	（天正二十年・一五九二） 七月二十一日		石川・全昌寺蔵
	大政所画像(模写)			大阪城天守閣蔵
重文	東照社縁起（仮名）	寛永十七年（一六四〇）		栃木・日光東照宮宝物館蔵
	東照社縁起（仮名）模本			栃木・日光東照宮宝物館蔵
県指定	伝通院画像	桃山時代	絹本著色	愛知・楞嚴寺蔵
	伝通院画像	江戸時代	絹本著色	栃木・日光東照宮宝物館蔵
市指定	葵紋付蒔絵天目台	桃山時代		愛知・楞嚴寺蔵
市指定	葵紋付茶碗			愛知・楞嚴寺蔵
市指定	香炉	桃山時代		愛知・楞嚴寺蔵
市指定	香合	桃山時代		愛知・楞嚴寺蔵
	春日局画像	江戸時代	紙本著色	東京・徳川記念財団蔵
	斎藤利三下知状 門前地下中宛	天正八年（一五八〇） 七月二十三日		兵庫・白毫寺蔵
	春日局所用念持仏	江戸前期		東京・麟祥院
	お鍋黒印状 そうふく寺宛	天正十年（一五八二）六月六日		岐阜・崇福寺蔵
	お鍋黒印状 にわ五郎さへもん宛	（天正十年（一五八二）十二月）		岐阜・崇福寺蔵
	羽柴秀吉知行宛行状 小椋鍋宛	天正十一年（一五八三）八月		大阪歴史博物館蔵
	豊臣秀吉朱印状 おくら宛	天正十九年（一五九一） 十月二十一日		大阪歴史博物館蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	徳川家康・宇喜多秀家・毛利輝元連署状 小倉宛	慶長四年（一五九九）十二月		大阪歴史博物館蔵
	豊臣秀吉朱印状 北の政所宛	天正二十年（一五九二） 三月二十三日		個人蔵
市指定	北政所黒印状 あまがせきぶぎやう宛	文禄二年（一五九三） 二月十二日		個人蔵
市指定	北政所黒印状 あかまか関奉行中宛	文禄二年（一五九三）六月二日		個人蔵
	豊臣秀吉朱印状 小出播磨守宛	文禄四年（一五九五） 正月十一日		個人蔵
	高台院画像	寛文六年（一六六六）賛	絹本著色	名古屋市秀吉清正記念館蔵
重 文	醍醐花見図屏風	桃山時代	紙本著色	千葉・国立歴史民俗博物館蔵
	伝 淀殿画像	桃山時代	絹本著色	奈良県立美術館蔵
	棄丸画像	桃山時代		京都・妙心寺蔵
	秋草文彩画団扇(伝淀殿所用)	桃山時代		大阪城天守閣蔵
	淀殿和歌色紙(『御手鑑』一帖のうち)	桃山時代		長野・真田宝物館蔵
	帥法印歎仲書状	(文禄二年・一五九三) 七月八日		大阪城天守閣蔵
市指定	芳春院画像	慶長十四年（一六〇九）賛		石川・桃雲寺蔵
	阿茶局画像	寛永十四年（一六三七）賛	紙本著色	京都・上徳寺蔵
	英勝院自筆書状 大そう正宛	(寛永十五・一六三八) 五月十六日		個人蔵
	英勝院自筆書状 大そう正宛	二十六日		個人蔵
	兔耳形兜 四代豊昌所用	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	鉄錆地南蛮兜 二代忠義所用	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	紅糸威八角笠形兜 十二代豊資所用	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	蝶形兜	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	板屋貝形兜 四代豊昌所用	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	頭巾形兜	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	浅葱糸素懸威二枚胴具足 七代豊常所用	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	白一黒一三ッ柏葉紋蒔絵陣笠	明治時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	螺鈿平陣笠	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	卍・九曜紋付軍配	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	法螺貝	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	金梨地家紋鳳凰螺鈿蒔絵糸巻太刀拵	江戸時代 十九世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
重 文	太刀 銘備前国長船兼光(号一国兼光) 文和二二(四)年乙未十二月日	文和四年(一三五五)		高知・土佐山内家宝物資料館蔵 (高知県立歴史民俗資料館保管)
	黒漆打刀拵(号一国兼光の拵)	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵 (高知県立歴史民俗資料館保管)
重 文	太刀 銘 備前国長船兼光(号今村兼光) 建武三年丙子十二月日	建武三年(一三三六)		高知・土佐山内家宝物資料館蔵 (高知県立歴史民俗資料館保管)
	具足下着<柿麻地三ッ柏葉紋付> 二代忠義所用	江戸初期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	陣羽織<黒羅紗地菱繋ぎ銅蓋文様三ッ柏紋付> 五代豊房所用	江戸中期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	陣羽織〈緋羅紗地白一黒一紋付〉	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	しころく〈黄羅紗地桐・白一黒一・三ッ柏葉紋付〉	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	能装束〈雲龍文段替り厚板〉	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	能装束〈雪持南天に色紙散し文唐織〉	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	しかみ	江戸中期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	孫次郎	桃山－江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	万媚	桃山時代 十七世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	景清	江戸中期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	能面の図	天保三年（一八三二）	紙本淡彩	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
国 宝	古今和歌集卷第廿（高野切本）	平安後期 十一世紀	紙本	高知・土佐山内家宝物資料館蔵 （高知県立歴史民俗資料館保管）
	古今和歌集卷第廿高野切本（複製）			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	古筆手鑑	奈良－江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	手鑑	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	六玉川和歌色紙帖	江戸後期	絹本	高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	八景和歌色紙帖	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	百人一首短冊帖	天保十二年（一八四一）		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	和歌短冊帖	江戸後期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	源氏物語	江戸初期		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	源氏物語	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	保元物語	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	二十一代集	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松皮菱蒔絵手鏡			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	牡丹文堆朱軸盆	中国・明－清時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	花鳥堆朱盆	中国・清時代 十八世紀		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅蒔絵香炉箱	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	菊唐草蒔絵十種香箱	江戸時代		土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵雛道具一式			土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵厨子棚			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵黒棚			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵文箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵手箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵隅赤手箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵元結箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵

指定	作品名	制作年代	材質・技法	図録表記
	松竹梅葵紋蒔絵香盆			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵香箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵黒箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	松竹梅葵紋蒔絵払箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵重箱			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵葛籠			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵三宝			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵碁盤・葵唐草蒔絵双六盤・葵唐草蒔絵将棋盤			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵飯器・葵唐草蒔絵杓子			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵水次			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵銚子			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵五重椀			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵平椀			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵壺椀			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵腰高			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	葵唐草蒔絵汁椀			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	牡丹唐草蒔絵壺椀・牡丹唐草蒔絵腰高			高知・土佐山内家宝物資料館蔵
	乗物	江戸時代		高知・土佐山内家宝物資料館蔵

コレクション20年の熱情 I 心にひびく風景画—富士山からセザンヌ、ゴーギャンまで—

NO.	作者	作品名	制作年（西暦）	制作年（元号）	員数	材質形状	寸法（cm）
■ 1 富士山と東海道							
1	式部輝忠	富士八景図	1530頃	享禄3頃, 室町末期	8幅対	紙本墨画	各97.5×32.8
2	狩野探幽	富士山図	1667	寛文7	1幅	紙本墨画淡彩	56.6×118.4
3	狩野山雪	富士三保松原図	17世紀前半	江戸初期	6曲1双	紙本墨画, 金泥引	各153.5×360.0
4		曾我物語 富士卷狩・仇討図	17世紀中頃	江戸初期	6曲1双	紙本金地着色	各156.8×356.6
5	狩野惟信 (養川)	富嶽十二ヶ月図巻	1781-94	天明1-寛政6	1巻	紙本着色	27.4×1083.3
6	司馬江漢	駿州薩陀山富士遠望図	1804	文化1	1	絹本油彩	78.5×146.5
7	横山華山	清見瀉富士図	1819	文政2	1幅	絹本墨画	42.3×79.5
8	原 在中	富士三保松原図	1822	文政5	1幅	絹本着色	40.9×100.8
9	谷 文晁	富士山図屏風	1835	天保6	6曲1隻	紙本墨画群青引	163.1×363.2
10	狩野永岳	富士山登龍図	1852	嘉永5	1幅	絹本墨画	179.0×87.0
11	歌川広重	不二三十六景	1852	嘉永5	中判錦絵, 36枚	紙、木版、色摺	17.8×25.0 (東都江戸橋日本橋) ほか
12	歌川貞秀	大日本富士山絶頂之図	1857	安政4	大判錦絵, 3枚続	紙、木版、色摺 (三枚続)	各37.8×25.7
13	歌川芳幾	富士山北口女人登山之図	1860	万延1	大判錦絵, 3枚続	紙、木版、色摺 (三枚続)	各36.0×25.1
14	大久保一丘	富嶽明暁図	19世紀前半	江戸後期	1幅	絹本着色金泥	95.2×48.9
15	横山大観	群青富士	1917-18頃	大正6-7頃	6曲1双	絹本着色	各176.0×384.0
16	木村武山	羽衣	1920年代後期- 1930年代前期	昭和初期	6曲1双	絹本着色	各169.5×375.0
17	小松 均	赤富士 上下	1978	昭和53	2曲1隻2面	紙本着色	上201×368.5 下95×368.5
18	和田英作	富士	1918	大正7	1	キャンヴァス、 油彩	60.6×80.2
19	ジョルジュ・ ピゴー	富士 (沼津江浦)	1885-1887頃	明治18-20頃	1	板、油彩	24×58
20	チャールズ・ ワーグマン	富士遠望図	1876以降	明治9以降	1	キャンヴァス、 油彩	41.2×76.2
21	五姓田義松	富士	1905	明治38	1	キャンヴァス、 油彩	46.8×101.5
22	平木政次	富士	1897	明治30	1	キャンヴァス、 油彩	44.0×67.0
23	歌川広重	東海道五拾三次 (保永堂版)	1833頃	天保4頃	大判錦絵, 55+2枚	紙、木版、色摺	25.2×37.1 (日本橋) ほか
24	安田雷洲	東海道五十三駅	1844頃	弘化元年頃	56枚	紙、銅板	4.3×10.1 (江戸日本橋) ほか
25	山本探川	宇津の山図	1755-69	宝暦5-明和6	2曲1隻屏風	紙本着色	163.5×175.0
26	今村紫紅	宇津の山路	1912	明治45	1幅	絹本着色	126.5×50.4
■ 2 故郷へのまなざし							
1) 日本という風景							
27	酒井抱一	月夜楓図	1817-28	文化14-文政11	1幅	絹本墨画	99.4×40.3
28	歌川広重	墨田川春景図	19世紀中頃	江戸後期	1幅	絹本着色	17.4×30.0
29	入江波光	草園の朝	1926	大正15	1幅	絹本着色	133.4×41.5
30	村上華岳	春峰晴煙図	1928	昭和3	1幅	紙本淡彩	43.7×60.9

NO.	作者	作品名	制作年（西暦）	制作年（元号）	員数	材質形状	寸法（cm）
31	川合玉堂	田植図	1945-54	昭和20年代	1幅	絹本着色	54.4×72.5
32	小糸源太郎	春雪	1953	昭和28	1	キャンヴァス、油彩	83.0×116.0
33	児島善三郎	箱根	1937頃	昭和12頃	1	キャンヴァス、油彩	90.7×115.2
34	須田国太郎	筆石村	1938	昭和13	1	キャンヴァス、油彩	97.0×145.5
35	岡 鹿之助	観測所	1951	昭和26	1	キャンヴァス、油彩	65.1×80.3
36	鹿子木孟郎	紀州勝浦	1910	明治43	1	キャンヴァス、油彩	59.0×74.8
37	吉田 博	上高地の春	1927	昭和2	1	キャンヴァス、油彩	80.5×116.8
38	吉田 博	越後の春	1910	明治43	1	紙、水彩	34.5×51.5
39	吉田 博	篁坂	1894-1899	明治27-32	1	紙、水彩	34.5×51
40	吉田 博	日光・荒沢	1897-1899	明治30-32	1	紙、水彩	51.2×29.7
41	中川八郎	松原	1902頃	明治35頃	1	紙、水彩	33.8×51.0
2) オランダの隆盛							
42	アールト・ファン・デル・ネール	森の風景	1645頃		1	キャンヴァス、油彩	128.3×160.0
43	ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め	1648		1	板、油彩	66.0×96.5
44	ヤン・ファン・ケッセル	二人の狩猟者のいる森の風景	1660年代		1	板、油彩	51.4×82.9
45	ヤーコプ・ファン・ロイスダール	小屋と木立のある田舎道	1670年代		1	キャンヴァス、油彩	39.6×46.0
46	レンブラント・ファン・レイン	三本の木	1643		1	紙、エッチング、ドライポイント	21.1×28.0 [21.3×28.1]
47	アドリアーン・ファン・オスターデ	納屋	1647		1	紙、エッチング	15.7×19.3
48	アドリアーン・ファン・オスターデ	釣り人たち	1647-53		1	紙、エッチング、ドライポイント	11.2×16.3
3) イギリス							
49	リチャード・ウィルソン	リン・ナントルからスノードンを望む	1765-67頃		1	キャンヴァス、油彩	98.4×125.8
50	ジョン・コンスタブル	ハムステッド・ヒースの木立、日没	1821		1	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	25.2×29.2
51	サミュエル・パーマー	ケント州、アンダーリヴァーのホップ畑	1833-34頃		1	板、油彩、テンペラ	19.0×26.0
52	サミュエル・パーマー	疲れた農夫	1858		1	紙、エッチング	13.2×20.1 [24.7×31.7]
4) フランス							
53	アレクサンドル=イアサント・デュヌイ	パリ、マドレーヌ大通りの窓からの眺め	1798-1805		1	板、油彩	20×27
54	ピエール=エティエンヌ=テオドール・ルソー	ジュラ地方、草葺き屋根の家	1834頃		1	キャンヴァスに貼られた紙、油彩	22.9×32.1
55	ジャン=バティスト=カミーユ・コロドー	メリ街道、ラ・フェルテ=ス=ジュアル付近	1862		1	板、油彩	40.5×54.0
56	ヨーハン=バルトールト・ヨンキント	オンフルール近郊の街道	1866		1	キャンヴァス、油彩	58.4×78.4
57	ギュスターヴ・クールベ	ピュイ・ノワールの溪流	1865		1	キャンヴァス、油彩	75.0×90.0
58	カミーユ・ピサロ	ポントワーズ、ライ麦畑とマチュランの丘	1877		1	キャンヴァス、油彩	60.3×73.7
59	ポール・ゴーギャン	家畜番の少女	1889		1	キャンヴァス、油彩	73.0×92.0
60	ポール・セザンヌ	ジャ・ド・ブーフアンの大樹	1885-87		1	紙、水彩、鉛筆	32.5×50.0

NO.	作者	作品名	制作年（西暦）	制作年（元号）	員数	材質形状	寸法（cm）
61	ウージェーヌ・イザベイ	《古きフランスのピトレスクでロマンティックな旅》より オーヴェルニュI, II	1830-32		17	チャイナ紙、リトグラフ	28.8×21.7 [32.2×24.5]他
62	シャルル・メリヨン	ポン・ト・シヤンジユ（両替橋）	1850-54		1	紙、エッチング	14.0×32.3 [21.6×39.5]
63	ヨハン=バルトルト・ヨンキント	オランダ風景銅版画集／扉絵	1862		6+1枚(扉絵)	紙、エッチング	16.1×20.4[35.6×51.9]他/ 12.9×20.9[35.9×52.2]
64	カミーユ・ピサロ	クリスマスの農家（オスニ）	1883		1	紙、エッチング、ドライポイント、アクアチント	19.7×18.2

■ 3 あこがれの風景

1) 異国という風景—西洋

65	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1630年代後半		1	キャンヴァス、油彩	99.7×133.3
66	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景	1620頃		1	キャンヴァス、油彩	74.5×106.7
67	ガスパール・デュゲ	サビーニの山羊飼	1669-71		1	キャンヴァス、油彩	68.5×49.5
68	ユベール・ロベール	ユピテル神殿、ナポリ近郊ボツオーロ	1761		1	板、油彩	39.1×43.8
69	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会のある廃墟の眺め	1725頃		1	紙、エッチング	39.7×31.6
70	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》(全135点)のうち33点より	1746?-51		33枚	紙、エッチング	40.5×54.7 [52.2×71.7]他
71	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	イクノグラフィア（古代ローマのカンプス・マルティウスのアラン）	1757-62		1	紙、エッチング	134.2×116.7
72	ジョン・ロバート・カズンズ	ボルティーチからヴェスヴィオ山を望む	1782		1	紙、水彩・鉛筆	30.5×45.1
73	ジョゼフ・マロド・ウィリアム・ターナー	パツランツァ、マツジョーレ湖	1846-48頃		1	紙、水彩	36.8×54.0
74	ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	小さなヴェネツィア	1880		1	紙、エッチング	18.7×26.4
75	クロード=ジョゼフ・ヴェルネ	嵐の海	1740頃		1	キャンヴァス、油彩	89.0×167.0
76	ジャン=ジョゼフ=グザビエ・ビドー	山に見える牧歌的風景	1790年代		1	キャンヴァス、油彩	81.5×111.7
77	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの	1816		1	キャンヴァス、油彩	81×100

2) 異国という風景—日本

78	三宅克己	白壁の家（ベルギー、ブリュージュ）	1921	大正10	1	紙、水彩	67.3×105.0
79	鳥海青児	張家口	1939	昭和14	1	キャンヴァス、油彩	41.0×53.0
80	鳥海青児	壁の修理	1959頃	昭和34頃	1	キャンヴァス、油彩	79.5×116.0
81	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	1927	昭和2	1	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0
82	清水登之	セーヌ河畔	1924	大正13	1	キャンヴァス、油彩	65.0×53.8
83	原 勝郎	バガテル公園、パリ	1924頃	大正13頃	1	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0
84	富岡鉄斎	蜀國棧道図	1905頃	明治38頃	1幅	絹本着色	172.7×96.0
85	竹内栖鳳	揚州城外	1922	大正11	1幅	絹本着色	55.0×71.2
86	下村観山・横山大観	日・月蓬莱山図	1900頃	明治33頃	双幅	絹本墨画淡彩	各98.0×154.0
87	秋野不矩	ブラーミンの家	1984	昭和59	1面	紙本着色	113.5×212.0
88	秋野不矩	ウダヤギリII	1992	平成4	1面	紙本着色	135.0×240.0

3) 山水画という風景

89	池 大雅	龍山勝会・蘭亭曲水図（重要文化財）	1763	宝暦13	6曲1双	紙本着色	各158.0×358.0
----	------	-------------------	------	------	------	------	--------------

NO.	作者	作品名	制作年（西暦）	制作年（元号）	員数	材質形状	寸法（cm）
90	呉春	柳陰帰漁図	1783	天明3	2曲1隻	紙本墨画淡彩	161.3×183.0
91	池 玉瀾	溪亭吟詩図	18世紀	江戸中期	1幅	紙本墨画着色	58.0×125.0
92	浦上春琴	競秀争流図	1830	文政13	1幅	絹本着色	55.6×121.0
93	浦上玉堂	抱琴訪隠図	1813頃	文化10頃	1幅	紙本墨画淡彩	112.0×62.8
94	谷 文晁	連山春色図	1797	寛政9	1幅	絹本着色	154.4×91.3
95	谷 文晁	連山春色図	1797	寛政9	1幅	絹本着色	154.4×91.3
96	狩野栄信 （伊川）	楼閣山水図	1802-16	享和2-文化13	2曲1隻	絹本着色	190.0×194.0

■ エントランス 風景の結晶

1	ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモアの古城	1899		1	キャンヴァス、油彩	73.0×91.7
2	モーリス・ド・ヴラマンク	小麦畑と赤い屋根の家	1905		1	キャンヴァス、油彩	60.0×73.0
3	香月泰男	冬島	1965	昭和40	1	キャンヴァス、油彩、方解末、墨	90.9×60.6

コレクション20年の熱情Ⅱ 時代を超える個性—若冲、クレーから戦後アメリカ美術まで—

NO.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
■ 若冲VS草間VSグラマンク～美術の競演 1						
1	伊藤若冲	1716-1800 (享保元-寛政12)	樹花鳥獸図屏風	18世紀後半-19世紀 前半(江戸後期)	紙本着色、 六曲一双屏風	右 137.5×355.6 左 137.5×366.2
2	モーリス・ド・ グラマンク	1876-1958	小麦畑と赤い屋根の家	1905	キャンヴァス、 油彩	60.0×73.0
3	草間彌生	1929-(昭和4-)	最後の晩餐	1981(昭和56)	ミクスト・メディア	テーブル:107×215×108 椅子:各80×45×54
■ 清水といえば…～美術の競演 2						
4	司馬江漢	1747-1818 (延享4-文政元)	駿河湾富士遠望図	1799(寛政11)	絹本油彩	36.2×100.9
5	五姓田義松	1855-1915 (安政2-大正4)	富士	1905(明治38)	キャンヴァス、 油彩	46.8×101.5
6	篠原有司男	1932-(昭和7-)	次郎長バー	1985(昭和62)	カードボード・プラスチック・ア クリル・ポリエステル樹脂・鏡ほか	172×255×45
■ 海・波・船～美術の競演 3						
7	クロード=ジョゼフ・ ヴェルネ	1714-1789	嵐の海	1740頃	キャンヴァス、 油彩	89.0×167.0
8	菊池容斎	1788-1878 (天明8-明治11)	蒙古襲来之図	1862(文久2)	絹本淡彩	161.2×83.2
9	〃	〃	日蓮上人波題目之図	19世紀後半 (江戸後期-明治前期)	絹本淡彩	108.1×45.8
10	アンゼルム・ キーファー	1945-	極光	1978-88	写真、灰・焦げ跡のついた紙、 上塗りした鉄のフレーム	241.4×101.4
■ 静物って何?～美術の競演 4						
11	小出檜重	1887-1931 (明治20-昭和6)	静物	1917(大正6)	キャンヴァス、 油彩	78.4×90.8
12	ファン・グリ ス	1887-1927	果物皿と新聞	1918	キャンヴァス、 油彩	92.0×65.0
13	曾宮一念	1893-1994 (明治26-平成6)	種子静物	1934(昭和9)	キャンヴァス、 油彩	60.6×72.7
14	森村泰昌	1951-(昭和26-)	批評とその愛人 (1)～(7)	1989(平成元)	カラー写真、 額縁	各90.0×106.0
■ 個性おどる作品たちⅠ～西洋画						
15	ジョアン・ミロ	1893-1983	シウラナの教会	1917	キャンヴァス、 油彩	46.3×55.1
16	パウル・クレー	1879-1940	ホールC. エントランス R 2	1920	厚紙に貼られた 洋紙、油彩	20.0×45.0
17	ハイム・スー チン	1894-1943	カーニュ風景	1923	キャンヴァス、 油彩	60.0×72.4
18	ポール・ゴー ッガン	1848-1903	家畜番の少女	1889	キャンヴァス、 油彩	73.0×92.0
■ 特集 狩野派の世界						
19	狩野派		伊豆三津長浜より富嶽を 望む図	16世紀-17世紀初期 (室町後期-江戸初期)	紙本墨画淡彩	58.5×102.5
20	初期狩野派		四季花鳥図屏風 ▲	16世紀中頃 (室町末期)	紙本着色、 六曲一双屏風	各138.5×269.4
21	狩野探幽	1602-1674 (慶長7-延宝2)	竹林七賢・香山九老図屏風 ▼	17世紀(江戸初期)	紙本墨画淡彩、 六曲一双屏風	各144.2×337.0
22	〃	〃	一ノ谷合戦・二度之懸図 屏風	1657-61 (明暦-万治年間)	紙本金地着色、 六曲一隻屏風	156.6×358.2
23	〃	〃	白鷗図	1661(寛文元) 頃	絹本着色	54.2×94.2
24	狩野惟信 (養川)	1753-1808 (宝暦3-文化5)	富嶽十二ヶ月図巻	1781-94 (天明元-寛政6)	紙本着色	27.4×1083.3
25	狩野栄信 (伊川)	1775-1828 (安永4-文政11)	百猿図	1802-16 (享和2-文化13)	絹本着色	124.2×54.0
26	狩野永納	1631-1697 (寛永8-元禄10)	三教図	1652(承応元)	絹本着色金泥	141.1×78.5
27	狩野永良	1741-1771 (寛保元-明和8)	親子犬図	18世紀半ば (江戸中期)	絹本着色	39.5×70.8

NO.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
28	狩野永岳	1790-1867 (寛政2-慶応3)	三十六歌仙歌意図屏風	1830-67 (文政13-慶応3)	紙本着色金雲、 六曲一雙屏風	各152.0×357.0
■特別企画 陰影で魅せる屏風絵						
29	狩野宗眼重信	16世紀後半-17世紀前半	帝鑑図・咸陽宮図屏風	17世紀初 (桃山時代)	紙本金地着色、 六曲一雙屏風	各155.8×362.6
30	狩野永納	1631-1697 (寛永8-元禄10)	蘭亭曲水図屏風	17世紀後半 (江戸初期)	紙本金地着色、 六曲一雙屏風	各153.5×359.0
31	石田幽汀	1721-1786 (享保6-天明6)	群鶴図屏風	18世紀 (江戸中期)	紙本金地着色、 六曲一雙屏風	各156.0×362.6
■和空間で見るミニマルな世界～美術の競演 5						
32	狩野永祥	1811-1886 (文化8-明治19)	山水図屏風	19世紀後半 (明治初期)	紙本墨画、六曲 一雙押絵貼屏風	各図136.8×55.0 (総横各375)
33	ドナルド・ジャッド	1928-1994	無題	1990	黒のアナライズド・アルミニウム、 ブロンズ色のプレキシグラス	各15.2×68.5×61.0
■白の世界～美術の競演 6						
34	円山応挙	1733-1795 (享保18-寛政7)	竹雀図屏風	1785(天明5)	紙本墨画	各165.5×373.0
35	草間彌生	1929-(昭和4-)	無題	1959(昭和34)	キャンヴァス、 油彩	232.5×359.0
36	李 禹煥	1936-	線より	1979(昭和54)	キャンヴァス、 岩絵具、にかわ	182.0×227.0
■個性おどる作品たちⅡ～日本画						
37	土佐光起	1617-1691 (元和3-元禄4)	秋草鶉図	17世紀中頃 (江戸初期)	絹本着色	54.0×72.7
38	円山応挙	1733-1795 (享保18-寛政7)	木賊兎図	1786(天明6)	絹本着色	104.5×42.0
39	長沢蘆雪	1754-1799 (宝暦4-寛政11)	大原女	1793-99 (寛政5-11)	絹本着色	130.3×83.2
40	〃	〃	牡丹孔雀図	1793-99 (寛政5-11)	絹本着色	185.0×97.0
41	椿椿山	1801-1854 (享和元-嘉永7)	花卉図	1844(天保15)	紙本淡彩	174.0×97.1
42	山本梅逸	1783-1856 (天明3-安政3)	花卉竹石図	1833(天保4)	絹本着色	145.1×71.2
43	鈴木其一	1796-1858 (寛政8-安政5)	干瓢干し図	19世紀中頃 (江戸後期)	絹本着色	112.3×39.2
44	松岡映丘	1881-1938 (明治14-昭和13)	今昔ものがたり伊勢図	1929(昭和4)	絹本着色	85.5×143.3
45	福田平八郎	1892-1974 (明治25-昭和49)	雪庭	1958(昭和33)	紙本着色	56.0×81.0
■個性おどる作品たちⅢ～西洋版画						
46	マックス・ベック クマン	1884-1950	「顔」(19枚組)より ▲	1914-18頃	紙、ドライポイント	26.7×24.7他
47	エルンスト・ バルラッハ	1870-1938	神の変容 ▼	1920-21	紙、木版	25.7×35.9他
■箱も見てね～美術の競演 7						
48	橋本関雪	1883-1945 (明治16-昭和20)	摘瓜図	1920年代(大正 末-昭和初期)	絹本着色	156.2×43.0
49	鐙木清方	1878-1972 (明治11-昭和47)	朝顔日記	1939(昭和14)	紙本淡彩、 画帖装(十段)	詞書 24.2×33.2 ほか 絵 24.6×33.7 ほか
50	河原 温	1933-(昭和8-)	JAN. 24, 1982. "Sunday." "TODAY" Series No.6, 1982.	1982(昭和57)	キャンヴァス、 アクリル/新聞	20.3×25.4
51	〃	〃	JAN. 21, 1988. "Thursday." "TODAY" Series No.1, 1988.	1988(昭和61)	キャンヴァス、 アクリル/新聞	20.3×25.4
52	〃	〃	APR. 2, 1988. "Saturday." "TODAY" Series No.12, 1988.	1988(昭和61)	キャンヴァス、 アクリル/新聞	20.3×25.4
■時空を超えて雨は降る～美術の競演 8						
53	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	東海道五拾三次 (保永堂 版) / 大磯 虎ケ雨	1833(天保4)頃	紙、木版、色摺	25.5×38.2

NO.	作者名	生没年	作品名	制作年	材質	寸法 (cm)
54	歌川広重	1797-1858 (寛政9-安政5)	〃/庄野 白雨	1833(天保4)頃	紙、木版、色摺	25.5×38.0
55	〃	〃	〃/土山 春之雨	〃	〃	25.5×38.7
56	安田雷洲	19世紀前半	東海道五十三駅/ふた川 火打坂	1844 (弘化元)頃	紙、銅板	4.3×10.1
57	安田雷洲	19世紀前半	東海道五十三駅/土山	1844 (弘化元)頃	紙、銅板	4.3×10.1
58	須田国太郎	1891-1961 (明治24-昭和36)	筆石村	1938(昭和13)	キャンヴァス、 油彩	97.0×145.5
59	ジョゼフ・コ スース	1945-	タイトルド、雨	1967	ゼラチン・ シルヴァー・プリント	120×120

■特集 戦後美術～絵画の身体性

60	ジョアン・ミッ チュエル	1926-	湖	1954	キャンヴァス、 油彩	203.2×254.5
61	難波田龍起	1905-1997 (明治38-平成9)	ミクロの世界	1966(昭和41)	キャンヴァス、 油彩、エナメル	162.1×130.3
62	白髪一雄	1924-(大正13-)	屋島	1965(昭和40)	キャンヴァス、 油彩	182.0×227.0
63	田中敦子	1932-2005 (昭和7-平成17)	1985A	1985(昭和60)	綿布、アクリル系樹 脂塗料	218.5×333.3
64	斎藤義重	1904-2001 (明治37-平成13)	作品 2	1960(昭和35)	合板、油彩	169.0×109.0
65	モーリス・ル イス	1912-1962	ベス・アイン	1958	キャンヴァス、 アクリル	232.0×333.0
66	ジェームズ・ロー ゼンクイスト	1933-	F-111(東,西,南,北)	1974	紙、リトグラフ、シ ルクスクリーン	91.0×738.0

【エントランス 名品コーナー】

1	カミーユ・ピ サロ	1830-1903	ポントワーズ、ライ麦畑 とマチュランの丘	1877	キャンヴァス、 油彩	60.3×73.7
2	川村清雄	1852-1934 (嘉永5-昭和9)	風景	1920年代頃(大正 末から昭和初)	キャンヴァス、 油彩	53.0×80.3
3	秋野不矩	1908-2001 (明治41-平成13)	廻廊	1984(昭和59)	紙本金地着色	151.3×101.0

▲ 前期 (7月26日～8月13日) 展示 ▼ 後期 (8月15日～9月3日) 展示

「森鷗外と美術」展（静岡会場） 出品リスト

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
第一部 芸術で結ばれた友情 原田直次郎と共に								
I 出合いー西洋絵画と「舞姫」たち								
1	○	○	ガブリエル・フォン・マックス	聖女テレーゼ・メルル	1868	油彩、キャンバス	67.8×55.8	鳥根県立石見美術館
2	○	○	ガブリエル・フォン・マックス	煙を出す壺を抱く女		油彩、キャンバス	85.4×65.2	鳥根県立石見美術館
3	○	○	ユリウス・エクステル	肖像(自画像)	1886	油彩、キャンバス	49.8×46.5	東京藝術大学 大学美術館
4	○	○	原田直次郎	ガブリエル・マックス像	明治17-19頃 (c.1884-1886)	油彩、キャンバス	39.5×30.4	東京国立近代 美術館寄託
5	○	○	原田直次郎	靴屋の阿爺	明治19(1886)	油彩、キャンバス	60.4×46.5	東京藝術大学 大学美術館
6	○	○	原田直次郎	風景	明治19(1886)	油彩、キャンバス	76.2×106.7	岡山県立美術館
7	○	○	原田直次郎	神父	明治18(1885)	油彩、キャンバス	46.0×37.8	信越放送株式会社
8	○	○	原田直次郎	老人像	明治19頃(c.1886)	油彩、キャンバス	57.6×42.6	三重県立美術館
9	○	○	原田直次郎	裸体習作	明治19頃(c.1886)	油彩、紙	25.5×18.0	
10	○	○	原田直次郎	男性像	明治19(1886)	油彩、紙	21.0×16.0	
11	○	○	原田直次郎	童女	明治18頃(c.1885)	油彩、キャンバス	51.0×41.0	石橋財団石橋 美術館
12	○	○	原田直次郎	男性スケッチ	明治17(1884)	コンテ、紙	23.0×30.5	
14	○	○	山本芳翠	月下の裸婦	明治15-19 (c.1882-86)	油彩、キャンバス	60.6 ×80.3	愛知県美術館
15	○		黒田清輝	編物	明治23(1890)	油彩、キャンバス	48.7×59.2	東京文化財研究所
16	○	○	浅井忠	樹下の女	明治34頃(c.1901)	油彩、キャンバス	45.8×37.8	石橋財団石橋 美術館
17	○	○	藤島武二	西洋婦人像	明治39-40 (c.1906-1907)	油彩、カンヴァス	58.3×39.1	鳥根県立石見 美術館
18	○	○	武石弘三郎	夫人肖像	明治40年代 (1907-1912)	大理石	45.0×48.0 ×24.0	神奈川県立近代 美術館
19	○	○	湯浅一郎	午睡	明治42(1909)	油彩、キャンバス	45.8×54.8	群馬県立近代 美術館保管作品
20	○	○	南薫造	坐せる女	明治41(1908)	油彩、カンヴァス	112.1×83.3	広島県立美術館
II 共闘 ー批評と明治美術の革新ー								
・日本画の伝統と革新								
22	○		狩野芳崖	懸崖山水図	明治15頃(c.1882)	紙本墨画	87.8×52.7	下関市立美術館
23		○	狩野芳崖	懸崖飛沫図	明治18頃(c.1885)	絹本墨画	30.2×31.4	山口県立美術館
25		○	狩野芳崖	羅漢図		紙本著色	134.9×61.9 135.2×61.9	山口県立美術館
26	○		狩野芳崖	伏龍羅漢	明治18(1885)	紙本著色	149.0×89.5	福井県立美術館
27	○		橋本雅邦	維摩居士	明治18頃(c.1885)	紙本著色	131.0×60.0	茨城県立近代 美術館
29		○	橋本雅邦	風神雷神	明治28(1895)	紙本著色	各138.0× 52.0	広島県立美術館
31	○		下村観山	ラファエルロ「椅子の聖母」模写	明治37(1904)	絹本著色	56.0×54.5	横浜美術館
32	○		下村観山	奇襲	明治37頃(c.1904)	絹本著色	径114.0	福井県立美術館
33		○	下村観山	白描 摩障図	明治43(1910)	絹本墨画	37.2×164.6	和歌山県立近代 美術館

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
34		○	横山大観	赤壁	明治35頃(c.1902)	絹本着色	123.5×48.2	茨城県立近代美術館
35		○	横山大観	曳舟	明治38(1905)	絹本着色	118.7×50.2	愛媛県美術館
36	○		横山大観	雷霆	大正1(1912)	絹本着色	166.0×82.1	鳥根県立美術館
37	○		菱田春草	放鶴	明治33(1900)	絹本着色	109.5×51.0	愛媛県美術館
39		○	岡倉秋水	慈母観音	大正7(1918)	絹本着色	177.3×68.7	福井県立美術館
40	○		岡倉秋水	矢面	明治-大正期	絹本着色	198.7×141.7	福井県立美術館
42		○	松本楓湖	八岐大蛇	明治42(1909)	絹本着色	150.0×70.0	鳥根県立石見美術館
43	○	○	平橋田中	五浦釣人	昭和38(1963)	木彫	高113	岡山県立美術館
・原田直次郎の挑戦 北派(旧派)の絵画								
47	○	○	伊藤快彦	新島襄肖像	明治24(1891)	油彩、キャンバス	71.5×48.5	同志社中学校
48	○	○	原田直次郎	風景	明治30(1897)	油彩、キャンバス	76.0×110.5	東京藝術大学 大学美術館
49	○	○	原田直次郎	花	明治29(1896)	油彩、キャンバス	80.0×65.0	
50	○	○	原田直次郎挿画	『国民の友』第69号 〔舞姫〕掲載号	明治23年1月3日(1890)	冊子体	21.6×14.8	徳富蘇峰記念館
52	○	○	原田直次郎挿画	『新著百種 文づかひ』	明治24年1月28日(1891)	冊子体	18.8×12.5	鳥根県立石見美術館
53	○	○	原田直次郎	「於母影」『国民の友』第58号付録	明治22年8月8日(1889)	冊子体	21.6×14.5	徳富蘇峰記念館
54	○	○	原田直次郎表紙	『国民の友』第158号	明治25年6月23日(1892)	冊子体	21.5×14.8	
55	○	○	原田直次郎表紙	『国民の友』第160号	明治25年7月13日(1892)	冊子体	21.5×14.8	徳富蘇峰記念館
56	○	○	原田直次郎表紙	『めさまし草』巻之1	明治29(1896)	冊子体	22.0×14.9	久米美術館
57	○	○	原田直次郎表紙	『めさまし草』巻之4	明治29(1896)	冊子体	22.0×14.9	久米美術館
58	○	○	原田直次郎表紙	『めさまし草』巻之9	明治29(1896)	冊子体	22.0×14.9	久米美術館
59	○	○	原田直次郎表紙	『めさまし草』巻之12	明治29(1896)	冊子体	22.0×14.9	久米美術館
60	○	○	原田直次郎表紙	『めさまし草』巻之13	明治37(1904)	冊子体	21.8×14.8	久米美術館
61	○	○	原田直次郎	素戔鳴尊八岐大蛇退治画稿	明治28(1895)	油彩、キャンバス	77.7×53.5	岡山県立美術館
62	○		佐久間文吾	和氣清麻呂奏神教図	明治23(1890)	油彩、キャンバス	135.5×104.8	宮内庁三の丸尚蔵館
63	○	○	本多錦吉郎	羽衣天女	明治23(1890)	油彩、キャンバス	127.2×89.0	兵庫県立美術館
64		○	二世五姓田芳柳	菅公梅ヲ詠スルノ図	明治24(1891)	油彩、キャンバス	125.5×73.5	宮内庁三の丸尚蔵館
65		○	印藤真楯	古代応募兵図	明治23(1890)	油彩、キャンバス	102.0×90.0	宮内庁三の丸尚蔵館
66	○	○	川村清雄	勝海舟江戸開城図	明治20(1887)	油彩、キャンバス	119.8×61.4	江戸東京博物館
67	○	○	川村清雄	室内	明治32 - 33 (1899-1900)	板、油彩	35.0×27.4	神奈川県立近代美術館
69	○	○	伊藤快彦	鬮戯	明治23(1890)	油彩、キャンバス	40.5×34.0	星野画廊
70	○	○	松岡寿	ピエトロ・ミカの服装の男	明治14(1881)	油彩、キャンバス	47.2×36.4	岡山県立美術館
71	○	○	松岡寿	森と小川	明治28(1895)	油彩、キャンバス	23.2×32.6	千葉県立美術館

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
72	○	○	中村不折	裸体	明治36-38頃 (c.1903-1905)	油彩、キャンバス	99.8×79.7	鳥根県立石見美術館
73	○	○	山本芳翠	秋の奥日光	明治23(1890)	油彩、キャンバス	178.2×116.7	上野静養軒
74	○	○	小山正太郎	仙台の桜	明治14(1881)	油彩、キャンバス	39.5×60.8	新潟県立近代美術館
75	○	○	岡精一	川辺の小舟	明治23頃(c.1890)	油彩、キャンバス	40.6×73.5	大阪市立近代美術館建設準備室
77	○		五百城文哉	春日山春景図	明治23(1890)	油彩、キャンバス	39.5×79.0	栃木県立美術館
78		○	五百城文哉	富士図	明治26-39頃 (c.1893-1906)	水彩、紙	62.9×94.0	鳥根県立石見美術館
79	○	○	小泉成一	小春ノ日和	明治21(1888)	油彩、キャンバス	57.0×79.5	新潟県立近代美術館
80		○	三輪大次郎	漁夫補網	明治24(1891)	油彩、キャンバス	62.5×94.5	宮内庁三の丸尚蔵館
81	○	○	渡部審也	猿曳図	明治31頃(c.1898)	油彩、キャンバス	65.5×45.6	岐阜県立美術館
・黒田清輝の登場 南派(新派)の絵画								
83	○	○	黒田清輝	ポプラの黄葉	明治24(1891)	油彩、キャンバス	65.4×80.8	鳥根県立石見美術館
84	○	○	黒田清輝	洋燈と二児童	明治24(1891)	油彩、キャンバス	100.4×81.0	ひろしま美術館
85	○	○	黒田清輝	裸体	明治22(1889)	油彩、キャンバス	80.0×43.8	鳥根県立石見美術館
87		○	黒田清輝	昼寝	明治27(1894)	油彩、キャンバス	49.8×61.0	東京文化財研究所
88	○	○	黒田清輝	大磯鳴立庵	明治29(1896)	油彩、キャンバス	25.0×36.2	
89	○		黒田清輝	昔語り下絵 (構図)	明治29(1896)	油彩、キャンバス	41.1×63.3	東京文化財研究所
90		○	黒田清輝	昔語り下絵 (舞妓)	明治29(1896)	油彩、キャンバス	94.4×46.8	東京文化財研究所
92	○	○	黒田清輝	浜の夕映	大正2(1913)	油彩、板	37.7×26.1	府中市美術館
93	○	○	黒田清輝	智・感・情	明治32(1899)	油彩、キャンバス	各180.6× 99.8	東京文化財研究所
94	○	○	久米桂一郎	果園の春	明治23(1890)	油彩、板	23.5×32.3	府中市美術館
96	○	○	久米桂一郎	秋景	明治28(1895)	油彩、キャンバス	99.2×73.0	久米美術館
98	○	○	和田英作	富士	明治32(1899)	油彩、キャンバス	39.5×51.6	府中市美術館
99	○	○	和田英作	読書	明治35(1902)	油彩、キャンバス	73.6×54.0	石橋財団石橋美術館
100	○		長原孝太郎	牛肉屋の二階	明治25(1892)	水彩、インク、紙	18.6×24.3	三重県立美術館
101		○	長原孝太郎	焼芋屋	不詳	水彩、インク、紙	23.0×30.6	三重県立美術館
102	○		長原孝太郎	第6回白馬会ポスター	明治34(1901)	リトグラフ、紙	48.2×33.8	三重県立美術館
103		○	長原孝太郎	第9回白馬会ポスター	明治37(1904)	リトグラフ、紙	48.2×33.8	三重県立美術館
104	○	○	藤島武二	桜の美人	明治25-26頃 (c.1892-93)	油彩、キャンバス	56.0×38.0	石水博物館
105	○	○	湯浅一郎	漁家	明治31(1898)	油彩、キャンバス	61.0×81.5	群馬県立近代美術館
106	○	○	湯浅一郎	画室	明治34-36 (1901-03)	油彩、キャンバス	159.5×106.5	群馬県立近代美術館
107	○	○	白瀧幾之助	復習(さらひ)	明治36(1903)	油彩、キャンバス	76.0×101.0	大阪市立近代美術館建設準備室
108	○	○	山本鼎	蚊帳	明治38(1905)	油彩、キャンバス	72.7×100.0	上田市山本鼎記念館

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
109	○	○	山本鼎	ナース	明治39(1906)	油彩、板	32.8×23.8	上田市山本鼎 記念館
・美学、美術史学、美術解剖学の紹介								
110	○	○	本保義太郎	講義ノート 「美学」	明治31(1898)	墨、紙	24.5×33.5	富山県立近代 美術館
111	○	○	本保義太郎	講義ノート 「西洋美術史」	明治31(1898)	墨、紙	24.5×33.6	富山県立近代 美術館
112	○	○	本保義太郎	若菜売り	明治34(1901)	ブロンズ	49.5×37.0 ×28.0	高岡市美術館
113	○		本保義太郎	裸体デッサン	明治40(1907)	鉛筆、紙	63.0×47.5	高岡市美術館
114		○	本保義太郎	裸体デッサン	明治40頃(c.1907)	鉛筆、紙	62.0×47.5	高岡市美術館
115	○	○	窪田喜作	鷗外講義ノート (審美学、考古学、 解剖学、美術史)	明治29-32頃 (c.1896-99)	鉛筆、インク、紙 4冊	1:20.0×16.5、 2:20.8×17.0、 3:24.7×20.4、 4:21.0×17.0	
116	○	○	窪田喜作	水汲み	明治33頃(c.1900)	油彩、キャンバス	86.0×52.0	岐阜県美術館
117	○	○	森林太郎	『審美新説』	明治33年2月23日(1900)		22.5×15.0	島根県立石見 美術館
118	○	○	森林太郎	『審美綱領』	明治32年6月29日(1899)		22.5×15.0	島根県立石見 美術館
119	○	○	森林太郎	『審美極致論』	明治35年2月24日(1902)		22.5×15.0	島根県立石見 美術館
120	○	○	森林太郎ほか	『洋画手引草』	明治31年12月4日(1898)		22.5×15.0	島根県立石見 美術館
121	○	○	森鷗外、久米桂一郎	『藝用解剖学』 骨論之部	明治36年2月27日(1903)		23.0×15.5	久米美術館
122	○	○	森鷗外、久米桂一郎	藝用解剖学骨論 之部草稿 5,6	明治31-33 (1898-1900)		23.0×15.5	東京国立博物館
123	○	○	久米桂一郎	解剖学ノート 「解剖」		インク、紙	19.7×15.3	久米美術館
124	○	○	久米桂一郎	解剖学ノート 「講義メモ」		インク、紙	19.7×13.1	久米美術館
125-5	○		久米桂一郎	解剖学スケッチ 5		水彩・鉛筆・インク、紙	18.3×23.2	久米美術館
125-6		○	久米桂一郎	解剖学スケッチ 6		鉛筆・インク、紙	23.8×24.0	久米美術館
126	○	○	久米桂一郎	裸婦立像	明治22(1889)	油彩、キャンバス	72.8×53.2	久米美術館
131	○		久米桂一郎	裸体デッサン	明治20(1887)	木炭、紙	61.0×47.5	久米美術館
132		○	久米桂一郎	裸体デッサン	明治20(1887)	木炭、紙	61.0×47.0	久米美術館
参考	○	○		『美術評論』 第1号	明治30(1887)	冊子体		
参考	○	○	大村西崖著	『日本絵画小史』	明治34(1901)	冊子体		
Ⅲ 別れ そして10年後の回顧展								
133	○	○		『原田先生記念帖』	明治43年1月15日(1910)	冊子体	22.7×15.8 ×1.3	静岡県立美術館
134	○	○	原田直次郎	伊藤快彦像	不詳	油彩、ボール紙	25.5×17.0	京都市美術館
135	○	○	原田直次郎	新島襄肖像	明治23(1890)	油彩、キャンバス	40.5×30.0	同志社社史資料室
136	○	○	原田直次郎	山崎為徳肖像	明治25-29頃 (c.1892-1896)	油彩、キャンバス	40.5×30.0	同志社大学神学部
137	○	○	原田直次郎	徳富淇水像	明治26(1893)	油彩、キャンバス	48.8×37.5	水俣市立蘇峰 記念館
138	○	○	原田直次郎	横井小楠像	明治24(1891)	油彩、キャンバス	33.0×26.5	

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
139	○	○	原田直次郎	職人の図	不詳	油彩、キャンバス	38.0×29.0	京都市美術館
140	○	○	原田直次郎	男児肖像	不詳	油彩、キャンバス	30.3×21.9	鳥根県立石見美術館
141	○	○	原田直次郎	風景	不詳	油彩、キャンバス	30.5×22.2	東京藝術大学 大学美術館
142	○	○	原田直次郎	村の風景	不詳	油彩、板	32.9×24.0	石橋財団石橋 美術館
144	○	○	大下藤次郎	野の道	明治25～30頃 (1892～97)	油彩、キャンバス	23.5×17.5	鳥根県立石見 美術館
145	○	○	原田直次郎	黄色い花のある 風景	明治27-31 (1894-98)	油彩、キャンバス	37.9×45.5	
146	○	○	原田直次郎	風景	不詳	油彩、キャンバス	37.5×57.5	
147	○	○	原田直次郎	ミレー《落ち穂 拾い》模写		コンテ、紙	35.1×51.8	
148	○	○	原田直次郎	海浜風景	不詳	油彩、キャンバス	25.7×68.0	
149	○	○	原田直次郎	風景（箱根）	明治25(1892)	水彩、紙	35.0×45.5	
150	○	○	原田直次郎	上野東照宮	明治22(1889)	油彩、キャンバス	75.5×58.5	
151	○	○	小林萬吾	芝増上寺	明治25-26 (1892-93)	油彩、キャンバス	97.3×180.0	愛媛県美術館
152	○	○	安藤伸太郎	日本の寺の内部	明治26(1893)	油彩、キャンバス	107.3×76.7	神奈川県立近代 美術館
153	○	○	五百城文哉	輪王寺・常行堂	明治30頃(c.1897)	油彩、キャンバス	43.5×66.8	
154	○		原田直次郎	貴顕御肖像（明 治天皇騎馬像）	明治25(1892)	木口木版、紙	43.5×31.9	鳥根県立美術館
155		○	合田清 刻	明治天皇肖像	明治23(1890)	木口木版、紙	21.6×15.8	鳥根県立美術館
156	○	○	伊藤快彦	「靴屋の阿爺」 模写	不詳	油彩、キャンバス	54.0×42.0	京都市美術館
158	○	○	和田 英作	海神	大正7(1918)	油彩、キャンバス	53.0×40.8	鳥根県立石見 美術館
159	○	○	長原孝太郎	自画像	明治33(1900)	油彩、キャンバス	45.5×33.5	三重県立美術館
160			11/26まで、 エントランス ホールに展示	白壁の家 (ベルギー、ブリュー ージュ)	大正10(1921)	紙、水彩	67.3×105.0	静岡県立美術館
164	○	○	大下藤次郎	富士を望む	明治30(1897)	水彩、紙	19.2×32.4	鳥根県立石見 美術館
165	○	○	大下藤次郎著 森鷗 外題言	『水彩画の葉』	明治34(1901)	冊子体	15.5×11.0	鳥根県立石見 美術館
166	○	○	森鷗外	『水彩画の葉』 題言	明治34(1901)	墨、紙	17.7×100.2	鳥根県立石見 美術館
167	○	○		『大下藤次郎遺 作集』	大正元(1912)	冊子体	19.5×12.9	鳥根県立石見 美術館
168	○	○	原田直次郎	書簡	明治24年8月24日(1891)			徳富蘇峰記念館
第二部 芸術がもたらした栄光と活躍 鷗外の多面性								
IV 陸軍軍医総監・森林太郎の周辺								
170	○	○	五姓田芳柳	明治九年神風党 暴動時刀創図	明治9(1876)	顔料、紙	25.8×18.5	
171	○	○	五姓田芳柳	明治十年西南役 外科図	明治10(1877)	顔料、紙	32.5×26.7	
172	○	○	五姓田芳柳	明治天皇大阪陸軍 臨時病院行幸の図	明治11頃(c.1878)	絹本着色	80.0×125.0	靖国神社遊就館
177	○	○	石井柏亭	鶴田禎次郎肖像		油彩、キャンバス	60.5×50.0	

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
178	○	○	片多徳郎	山田弘倫肖像		油彩、キャンバス	65.1×53.0	
179	○	○	水野正英	石坂惟寛肖像		油彩、キャンバス	62.0×48.8	
180	○	○	新海竹太郎	山県有朋像	明治44(1911)	ブロンズ	45.0×15.0 ×10.0	
181	○	○	岡田三郎助	山県有朋像	大正2(1913)	油彩、キャンバス	40.9×31.8	愛知県美術館
182	○	○	新海竹太郎	青山胤道博士首像	大正9(1920)	ブロンズ	57.0×32.0 ×38.0	山形美術館
183	○	○	和田英作	小金井良精像	明治43(1910)	油彩、キャンバス	91.0×73.0	東京大学医学部 解剖学教室
184	○	○	和田英作	片山國嘉像	大正2(1913)	油彩、キャンバス	91.5×65.5	東京大学医学部 法医学教室
185	○	○	亀井茲明	明治二十八年戦 役写真帖	明治30(1897)	コロタイプ印刷 2冊	上28.5×40.0×3.0 下28.3×40.3×3.5	亀井温故館
186	○	○	浅井忠	露營	明治28(1895)	油彩、キャンバス	54.3×106.0	佐倉市立美術館
190	○	○	浅井忠	金州城外之図	明治28(1895)	紙本著色	106.8×41.2	千葉県立美術館
191	○	○	川村清雄	海底に遺る日清 勇士の髑髏	明治32(1899)以前	板、漆絵	42.5×81.0	静岡県立美術館
192	○	○	能久親王書・森鷗外跋	伴戦扶勞	大正6(1917)	紙本、墨	69.8×57.2	
193	○		森鷗外著 装幀者不明	『能久親王事跡』	明治41年6月29日(1908)	紙本、墨、軸	22.7×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
194-1	○	○	日名子実三	軍医学校五十周年 記念塔レリーフ 「軍医学校旧校舎」	昭和12(1937)	ブロンズ	35.0×59.3	
194-2	○	○	日名子実三	軍医学校五十周年 記念塔レリーフ 「衛生部員の活躍」	昭和12(1937)	ブロンズ	35.0×59.3	
194-3	○	○	日名子実三	軍医学校五十周年 記念塔レリーフ 「軍陣衛生学の振興」	昭和12(1937)	ブロンズ	35.0×59.3	
195		○	森鷗外著	『衛生学大意』	明治40年7月25日(1907)	冊子体	22.5×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
196		○	森鷗外著 久保田米 齋ほか装幀	『うた日記』	明治40年9月15日(1907)	冊子体	17.5×12.5	文京区本郷図書館 鷗外記念室
197	○	○	森林太郎	第二軍軍医部長 臨時報告書	明治37(1904)	冊子体	24.7×17.3	
198		○	森林太郎	青島攻戦図	大正3(1914)	墨、紙、卷子装	27.7×38.9	文京区本郷図書館 鷗外記念室
参考	○	○		正露丸ケース	明治37-39頃 (c.1904-06)			
参考	○	○	山田弘倫	『軍医・森鷗外』	昭和18(1943)	冊子体		
参考	○	○		「陸軍軍医学校」		写真	41.3×54.2	
参考	○	○		「軍医学校50周 年記念塔」		写真	49.5×35.0	
参考	○	○		「武石弘三郎《松本 順・石黒忠恵像》」		写真	49.0×34.8	
V 鷗外と展覧会、博物館								
199	○	○	中村不折	白頭翁	明治40(1907)	油彩、キャンバス	200.2×136.6	和歌山紀陽銀行
200	○	○	長原孝太郎	風神	明治43(1910)	油彩、キャンバス	116.6×80.9	大阪市立美術館
201	○	○	長原孝太郎	明星	昭和5(1930)	油彩、キャンバス	129.5×79.3	岐阜県美術館
202	○	○	橋本邦助	秋の花	明治40(1907)	油彩、カンヴァス	121.5×60.5	栃木県立美術館
203	○	○	岡田三郎助	黒き帯	大正4(1915)	油彩、カンヴァス	105.5×59.0	鳥根県立石見 美術館

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
204	○	○	永地秀太	しほり	大正12(1913)	油彩、カンヴァス	91.5×65.5	山口県立美術館
205	○	○	森脇忠	女の裸体	大正11(1923)	油彩、キャンバス	152.0×102.0	京都市美術館
207		10/17- 11/26 ロダン 館1F 展示室 に展示	石井柏亭	ウイーン	大正元(1912)	紙、水彩	29.8×40.5	静岡県立美術館
208	○	○	藤島武二	カンピドリオの あたり	大正8(1919)	油彩、キャンバス	各188.0× 94.4	大阪市立近代美術 館建設準備室
209	○	○	満谷国四郎	杏花	大正9(1920)	油彩、キャンバス	112.0×136.4	大阪市立近代美術 館建設準備室
210	○	○	中川 八郎	初秋の夕	大正 7 (1918)	油彩、カンヴァス	94.5×121.6	鳥根県立石見 美術館
211	○	○	和田 英作	風景	大正3(1914)	油彩、カンヴァス	52.2×71.6	鳥根県立石見 美術館
212	○	○	鹿子木 孟郎	加茂ノ森	大正12(1923)	油彩、カンヴァス	100.0×100.0	鳥根県立石見 美術館
213	○	○	新海竹太郎	羅漢像	明治41(1908)	ブロンズ	83.0×125.0	山形美術館
215	○	○	武石弘三郎	母	大正6(1917)	ブロンズ	35.0×20.5 ×25.5	新潟県立近代 美術館
217	○		平福百穂	朝露	大正4(1915)	絹本著色	各168.0× 361.2	宮内庁三の丸 尚蔵館
218		○	横山松三郎	「正倉院開封」壬申 検査記録写真	明治5(1872)	鶏卵紙	22.5×27.5	東京国立博物館
219	○	○	高村真夫	春日野	明治44(1911)	油彩、カンヴァス	121.5×152.0	新潟県立近代 美術館
221		○	松岡映丘	春の山	大正11(1922)	絹本著色	72.9×102.4	姫路市立美術館
223		○	春拳、栖鳳、玉堂ほか	文展日本画審査 員寄書	明治41年10月1日(1908)	紙本墨画淡彩	118.0×63.0	文京区本郷図書 館嶋外記念室
225	○	○		『絶代至宝帖』	大正8年2月1日(1919)		49.6×34.0 ×2.6	東京国立博物館
226	○	○		「嶋外遺稿博物館蔵 書著者略伝」参	大正7-11(1918-22)		23.7×15.9	東京国立博物館
227	○	○		「嶋外遺稿博物館書 目解題」10,12	大正7-11(1918-22)		23.8×16.3	東京国立博物館
VI 次世代へのまなざし								
228	○	○	藤島武二	マンドリンを弾 く女	不詳	油彩、キャンバス	46.0×38.0	朝日新聞大阪本社
229	○	○	与謝野鉄幹、晶子	『毒草』（藤島武 二装丁）	明治38年5月29日(1904)		14.6×14.8 ×1.8	和歌山県立近代 美術館
230	○	○	藤島武二表紙	明星辰年9号	明治38年9月1日(1904)	冊子体	26.1×18.9	神奈川近代文学館
233	○	○	高村光太郎	自画像	大正2(1913)	油彩、キャンバス	61.0×44.0	中村屋
234	○	○	高村光太郎	与謝野寛《相聞》	明治43年3月25日(1910)	冊子体	19.4×13.1	和歌山県立近代 美術館
235	○	○	オーギュスト・ロダン	花子のマスク	c.1908-12	ブロンズ	55.0×39.0 ×29.0	静岡県立美術館
236		エント ランス ホール に展示	オーギュスト・ロダン	考える人（小型像）	1880	ブロンズ	37.2×28.6 ×23.6	静岡県立美術館
237	○	○	有島生馬	ケーベル博士像	大正元(1912)	油彩、キャンバス	73.0×60.6	
242	○	○	梅原龍三郎	ブルターニュ風景	明治42(1909)	油彩、キャンバス	24.6×32.4	和歌山県立近代 美術館寄託
243	○	○	湯浅一郎	椅子に寄れる女	大正5(1916)	油彩、キャンバス	91.0×70.5	群馬県立近代 美術館

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
244	○	○	藤田嗣治	朝鮮風景	大正2(1913)	油彩、キャンバス	78.1×114.7	下関市立美術館
245	○	○	藤田嗣治	モンルージュ、 パリ	大正7(1918)	キャンバス、油彩	41.0×33.5	静岡県立美術館
246	○		山本 鼎	漁夫	明治37(1904)	木版、紙	16.3×11.1 (25.0×16.7)	和歌山県立近代 美術館
247		○	青木繁画、山本鼎刻	シウ斧	明治38(1905)	木版、紙	15.0×10.0	静岡県立美術館
248	○	○	山本鼎	自画像	大正4(1915)	油彩、キャンバス	80.3×60.6	上田市山本鼎記 念館
253	○	○	山本鼎	尾上梅幸の栗原幸之助 【草画舞台姿 第三集】	明治44(1911)	木版、紙	26.0×18.5 (26.0×18.5)	上田市山本鼎記 念館
255	○		坂本繁二郎	沢村宋十郎の榛沢平九郎 【草画舞台姿 第一集】	明治44(1911)	木版、紙	22.5×15.9 (26.3×18.8)	上田市山本鼎記 念館
256		○	坂本繁二郎	市川高麗蔵の姉輪平次 【草画舞台姿 第三集】	明治44(1911)	木版、紙	21.7×14.9 (26.2×19.0)	上田市山本鼎記 念館
261	○	○	石井柏亭	東京十二景 下谷	大正3(1914)	木版、紙	34.6×21.1 (39.4×26.0)	和歌山県立近代 美術館
262	○	○		方寸第3巻第7号	明治42(1909)	冊子体	30.8×22.6 ×0.2	和歌山県立近代 美術館
263		○	石井柏亭、与謝野晶子	寄書	不詳	紙本墨画、軸	28.0×18.0	文京区本郷図書 館嶋外記念室
265	○	○	木下杢太郎	自画像	明治44(1911)	水彩、紙	26.2×16.7	神奈川近代文学館
266	○	○	木下杢太郎	助六	不詳	油彩、板	33.0×23.8	
268	○	○	木下杢太郎	『食後の唄』 小糸源太郎装丁	大正8年12月10日(1917)	冊子体	15.2×12.3	和歌山県立近代 美術館
269	○	○	中村彝	洲崎義郎博士の 肖像	大正8(1919)	油彩、キャンバス	83.0×64.0	新潟県立近代 美術館
270	○	○	宮芳平	自画像	大正3(1914)	油彩、板	30.5×23.1	安曇野市豊科近 代美術館
271	○	○		ARS1号	大正4年4月1日(1915)	冊子体	22.4×14.9	神奈川近代文学館
272	○	○	宮芳平	椿	大正3(1914)	油彩、キャンバス	209.0×126.0	安曇野市豊科近 代美術館
参考	○	○	宮芳平	椿(下絵)	大正3(1914)	木炭、紙	31.0×22.0	
274	○	○	宮芳平	落ちたる楽人	大正5(1916)	油彩、パステル、キャン バス	66.6×121.6	文京区本郷図書 館嶋外記念室
275	○	○	村山槐多	自画像	大正7(1918)	油彩、キャンバス	53.0×44.2	大阪市立美術館
276	○	○	村山槐多	男性裸体	大正6-7(1917-18)	油彩、キャンバス	45.4×33.8	
277	○		村山槐多	山本たけの肖像	大正4(1915)	木炭、紙	54.0×46.0	横浜美術館
278		○	村山槐多	友人の像	大正6(1917)	木炭、紙	97.1×60.7	大阪市立美術館
279	○	○	広川松五郎	火犬-ツアラトウ ストラより	大正7(1918)	木版、紙	23.8×18.0 (39.7×27.8)	
280	○	○	生田長江	【ツアラトウストラ】 嶋外序「沈黙の塔」掲載	明治44年1月3日(1911)		23.2×16.5	
281	○	○		『我等』第7号	大正3年7月1日(1914)	冊子体	22.4×15.2 ×0.9	新宮市立佐藤春 夫記念館
285	○	○	橋口五葉	髪梳ける女	大正9(1920)	木版、紙	44.0×32.7 (44.7×34.5)	和歌山県立近代 美術館
288	○	○	平福百穂画、徳富蘇 峰書	過眼小景帖	大正8(1919)	紙本墨画淡彩	各17.0×10.5	徳富蘇峰記念館
289	○	○	吉田博	風景	明治44-大正9(1911-20)	油彩、カンヴァス	60.6×50.0	鳥根県立石見 美術館
290	○	○	吉田博著 森嶋外序文	『魔宮殿見聞記』	明治43年3月23日(1913)	冊子体	22.7×14.9	静岡県立美術館
291		○	鹿子木孟郎	仙人図(鉄拐)		紙本著色、軸	63.4×13.4	文京区本郷図書 館嶋外記念室

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
292		○	長原孝太郎	花鳥図		紙本墨画、金泥、額装	35.8×44.9	文京区本郷図書館 鷗外記念室
293		○	竹内栖鳳	椋雀図	大正7頃(c.1918)	紙本着色、軸	39.1×46.8	文京区本郷図書館 鷗外記念室
294	○	○		明星（二期）2-3	大正11年8月1日(1922)	冊子体	24.0×19.0	
295	○	○		明星（二期）2-4	大正11年9月1日(1922)	冊子体	24.0×19.0	
296	○	○		新小説27-9臨時 増刊	大正11年8月3日(1922)	冊子体	22.2×14.8	
297	○	○		三田文学13-8	大正11年8月1日(1922)	冊子体	22.1×14.7	
298	○	○	森於菟、森潤三郎編	『鷗外遺珠玉と 思い出』	昭和8年12月15日(1933)	冊子体	20.3×14.2	新宮市立佐藤春 夫記念館
299	○	○	武石弘三郎	森鷗外レリーフ	昭和37(1962)	ブロンズ	80.5×69.0 ×3.5	森鷗外記念館
301	○		森鷗外著 助装幀	岡田三郎 『統一幕物』	明治43年1月10日(1910)	冊子体	22.3×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
302		○	森鷗外著	川村清雄画 『妄人妄語』	大正4年2月22日(1915)	冊子体	19.1×13.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
303	○	○	森鷗外著	『沙羅の木』	大正4年9月5日(1915)	冊子体	18.5×13.7	神奈川近代文学館
306	○		森鷗外著 郎装幀	木下空太 『ギョオテ伝』	大正2年11月17日(1913)	冊子体	19.3×13.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
307		○	森鷗外著 郎装幀	木下空太 『ノラ』	大正2年11月13日(1913)	冊子体	19.3×13.3	文京区本郷図書館 鷗外記念室
308	○	○	森鷗外著 郎装幀	木下空太 『ギョッツ』	大正5年5月5日(1916)	冊子体	19.4×13.3	鳥根県立石見 美術館
311	○		森鷗外著 装幀	津田青楓 『堺事件』	大正3年10月23日(1914)	冊子体	14.7×8.8	文京区本郷図書館 鷗外記念室
312		○	森鷗外著 装幀	津田青楓 『諸国物語』	大正4年1月15日(1915)	冊子体	22.2×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
314	○	○	森鷗外著 装幀	長原止水 『玉匣両浦島』	明治35年12月29日(1902)	冊子体	15.0×10.5	鳥根県立石見 美術館
315	○		森鷗外著 装幀	長原止水 『長宗我部信親』	明治36年9月15日(1903)	冊子体	15.0×10.5	文京区本郷図書館 鷗外記念室
316	○	○	森鷗外著 装幀	長原止水 『謎』	大正3年5月5日(1914)	冊子体	19.0×12.8	鳥根県立石見 美術館
317	○	○	森鷗外著 装幀	中村不折 『人の一生 飛 行機』	明治44年1月1日(1911)	冊子体	22.3×15.0	鳥根県立石見 美術館
318	○	○	森鷗外著 装幀	橋口五葉 『十人十話』	大正2年5月25日(1913)	冊子体	19.0×13.0	
319	○	○	森鷗外著 装幀	橋口五葉 『青年』	大正2年2月10日(1913)	冊子体	19.0×13.0	鳥根県立石見 美術館
320	○	○	森鷗外著 装幀	橋口五葉 『天保物語』	大正3年5月7日(1914)	冊子体	22.3×15.0	鳥根県立石見 美術館
321	○	○	森鷗外著 装幀	橋口五葉 『塵泥』	大正4年12月23日(1915)	冊子体	19.0×12.8	鳥根県立石見 美術館
322		○	森鷗外著 装幀	平福百穂 『涓滴』	明治43年10月16日(1910)	冊子体	22.4×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
322	○		森鷗外著 装幀	平福百穂 『涓滴』	明治43年10月16日(1910)	冊子体	22.4×15.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
323	○	○	森鷗外著 装幀	藤島武二 『寂しき人々』	明治44年7月20日(1911)	冊子体	22.2×15.2	鳥根県立石見 美術館
324	○	○	森鷗外著 装幀	藤島武二 『蛙』	大正8年5月13日(1919)	冊子体	22.4×15.3	鳥根県立石見 美術館
325		○	森鷗外著 口絵	横山大観 『雁』	大正4年5月15日(1915)	冊子体	19.3×12.7	文京区本郷図書館 鷗外記念室
326	○		新海竹太郎	鷗外宛葉書	明治37年7月24日(1904)		14.1×9.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室
332		○	新海竹太郎	鷗外宛葉書	明治41年10月1日(1908)		13.9×8.8	文京区本郷図書館 鷗外記念室
334	○		岡田三郎助	鷗外宛葉書	明治42年1月11日(1909)		14.1×9.0	文京区本郷図書館 鷗外記念室

出品 番号	前期 11/26 まで	後期 11/27 から	作家名	作品名	制作年	技法・支持体	寸法(cm)	所蔵先
336	○		吉田博	鷗外宛葉書	明治43年6月3日(1910)		14.1×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
339	○		木下杢太郎	鷗外宛葉書	大正2年2月23日(1913)		14.0×8.9	文京区本郷図書館鷗外記念室
341		○	吉田博	鷗外宛葉書	大正6年1月1日(1917)		14.1×8.9	文京区本郷図書館鷗外記念室
345	○		久保田金仙	篤次郎宛葉書	明治38年10月11日(1900)		14.1×8.9	文京区本郷図書館鷗外記念室
346		○	久保田米齋	鷗外宛葉書	明治36年8月27日(1903)		14.1×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
347	○		久保田米齋	篤次郎宛葉書	明治38年5月11日(1905)		14.0×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
348		○	寺崎廣業	篤次郎宛葉書	年月日不詳		14.0×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
349	○		村山槐多	森於菟宛葉書	明治41年7月23日(1908)		14.0×8.9	文京区本郷図書館鷗外記念室
351	○		村山槐多	森於菟宛葉書	明治42年1月1日(1909)		14.0×8.8	文京区本郷図書館鷗外記念室
354		○	村山槐多	森於菟宛葉書	大正6年10月28日(1917)		13.9×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
355	○		森鷗外より	森於菟宛て葉書	明治37年12月18日(1904)		14.0×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室
356		○	森鷗外より	森於菟宛て葉書	明治38年1月11日(1905)		14.0×9.0	文京区本郷図書館鷗外記念室

「世界遺産ナスカ展」

NO.	品名	年代	所蔵者
プロローグ			
1	バラカスの人物象形壺	バラカス後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
2	バラカス人物象形壺	バラカス後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
3	漁師の壺	原ナスカ期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
4	人間型の神話的存在の形象壺（前期）	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
5	口から帯状の「吹き流し」を吐き出している神話的収穫者	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
6	神話的サルの頭を持つ人物の象形壺	移行期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
7	ネコ科動物のターミネーター（終端記号）を持つ人間型の神話的存在	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
8	植物のターミネーターを持つ人間型の神話的存在	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
9	鳥の形をした人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
10	眼鏡風模様・増殖型の人間の神話的存在	ナスカ後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
11	半人半シャチの神話的存在	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
自然			
12	ハチドリと花	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
13	コンドル	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
14	ピーナツの入った容器を持つサル	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
15	鵜と魚	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
16	エビ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
17	カニ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
18	魚	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
19	網袋にとまったハヤブサ	原ナスカ期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
20	キツネ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
21	ヌートリアまたはカワウソ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
22	トカゲ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
23	ヒキガエル	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
24	織物の縁飾り－鳥と花	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
25	織物の縁飾り－鳥	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
26	織物の縁飾り－シャチ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
27	人間型ヒザラガイと海産巻貝	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
28	魚	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
29	豆と幾何学模様	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
30	トウモロコシとトウガラシ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
31	ルクマの実	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
32	げっ歯類に食べられるトウモロコシ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
33	サボテンとヘビのいる山岳地	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
暮らし			
34	農民の象形壺	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
35	座った農民の象形壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
36	漁師の壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
37	農民の集団	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
38	木製の農作物収穫用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
39	武器を手にした漁師	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
40	壺を担ぐ男	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
41	家型の壺	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
42	つながれたリヤマ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
ものづくりの文化と技術			
43	針筒と針	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
44	骨製の織物用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
45	糸筒と毛玉	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
46	糸筒と毛玉	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
47	木製の織物用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
48	木製の織物用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
49	超自然的生物の図柄を焦して描いたヒョウタン	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
50	研磨用の石	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
51	研磨用の石	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
52	土器作り用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
53	土器作り用具	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
54	筆	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
55	筆	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
56	顔料容器	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
57	顔料容器	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
58	黒曜石のナイフ	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
59	削石（スクレイパー）	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
60	研磨用石	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
61	黄金のマウス・マスク	ナスカ文化	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
62	黄金の旗印または頭飾り	時代不詳	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
63	ココ袋	移行期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
ナスカの日常生活			
64	ココを噛む男	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
65	着飾ってココ袋を持つ男性	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
66	耳飾りとドレス・ピンを付け、鳥を抱く女性	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
67	チェックの服を着た女性	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
68	ヒゲを生やした男性	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
69	酔っ払い	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
70	男女結合壺	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
71	頭の壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
72	頭の壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
73	布製の人形	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
74	チュニック風上衣	移行期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
75	革製のサンダル	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
76	布のターバンまたはベルト	移行期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
77	刺繍つきの頭飾り布	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
78	頭飾りの帯	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
儀礼と音楽			
79	アンタラを持つ楽師の象形壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
80	儀礼を行うシャーマン	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
81	たくさんの楽器を奏でる楽師	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
82	楽師の象形壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
83	両生類の絵の付いた土製大型太鼓	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
84	土製アンタラ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
85	アマツバメの描かれた土製アンタラ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
86	土製のラッパ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
87	土製の笛 きつね	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
88	土製の笛 人間型	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
89	土製の笛 アマツバメ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
90	骨製のケーナ	ナスカ文化	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
91	儀式で踊る農民	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
92	農民または収穫者	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
93	織物の縁飾りーシャーマン風の像	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
94	土製の太鼓	ナスカ後期	ペルー中央準備銀行付属博物館
神秘の世界			
95	パラカスの墓地から出土したマント	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
96	パラカスの墓地から出土したマント	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
97	パラカスの墓地から出土したマント	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
98	神話的サル	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
99	斑点ネコ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
100	マスクを付けた神話的斑点ネコ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
101	神話的斑点ネコ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
102	怪鳥	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
103	空飛ぶ怪鳥	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
104	神話的シャチ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
105	神話的シャチの象形	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
106	キツネの毛皮の頭飾りをかぶったシャーマン	ナスカ前期	ペルー中央準備銀行付属博物館
107	キツネの毛皮の頭飾り	パラカス文化	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
108	扇形頭の神話的シャチ	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
109	人間型の神話的存在の象形壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
110	吹き流しを吐き出す人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
111	水のシンボルを伴う人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
112	トウモロコシの付いた人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
113	作物を持つ神話的収穫者	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
114	ハーピー（人面鳥）	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
115	人間型の神話的存在をかたどった土製の太鼓	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
116	表面を焦して神話的存在を描いたヒョウタン	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
117	神話的存在が彫刻された石製の遺物	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
118	首級「トロフィー」の味見	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
119	座って作物を持つ人間型の神話的存在、またはその扮装をする者	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
120	黄金の額飾り	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
121	黄金のマウス・マスク	ナスカ文化	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
122	黄金の葬送マスク	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
123	シャチの表示記号「シグニファー」を持つ人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフ・ジェンキス イカ地方博物館
124	甲殻類の表示記号「シグニファー」を持つ人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
125	オタマジャクシの表示記号「シグニファー」を持つ人間型の神話的存在	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
126	複数の神話的存在の描かれた椀	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
127	人間型の神話的存在を浮き彫りにした黄金の飾り板	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
128	後期における増殖型の人間型神話的存在	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
129	ネコ顔の人間型の神話的存在の付いた頭の壺	ナスカ後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
130	農耕儀礼で幻覚性飲料を飲むシャーマンまたは楽師と参加者たち	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
戦争と首級「トロフィー」			
131	戦士の象形壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
132	戦士	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
133	武器を持つ戦士の側面像	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
134	投槍器（アトラトル）	時代不詳	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
135	怪我をした戦士	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
136	神話的戦士と捕虜	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
137	黒曜石のナイフ	時代不詳	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
138	戦士と首級「トロフィー」	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
139	首級「トロフィー」を持つ人物		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
140	首級「トロフィー」をかたどった双胴壺	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
141	首級「トロフィー」の象形壺	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
142	首級「トロフィー」の納蔵	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
143	シャーマンによる首級「トロフィー」の埋葬儀礼	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
144	人間を貪り食うネコ科動物の太鼓	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
145	人間の死体を食べるコンドル	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
146	ナスカの首級「トロフィー」		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
147	ナスカの首級「トロフィー」		ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
148	ナスカの粘土製首級「トロフィー」	ナスカ文化	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
149	口から作物が生えた首級「トロフィー」	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
誕生と再生			
150	男性と性器	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
151	交合する男女	ナスカ中期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
152	刺青をした女性の像	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
153	刺青をした女性の像（中空）	ナスカ後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
154	幼い子を抱く女性	ナスカ中期	ペルー中央準備銀行付属博物館
155	出産する女性	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
地上絵の謎			
156	コンドル	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
157	ウミウまたはシラサギ	ナスカ前期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
158	クモ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
159	ハチドリ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
160	トカゲ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
161	神話的シャチ	ナスカ前期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
162	サル	ナスカ中期	ペルー中央準備銀行付属博物館
163	男性像	ナスカ後期	ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
バルバ河谷ラ・ムニャで発掘された埋葬品			
164	武器を持つ獵師か戦士と鳥	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
165	幾何学模様	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
166	幾何学模様	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
167	幾何学模様の椀	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
168	胴が投げ矢の人間型の神話的存在描かれた椀	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
169	豆が描かれた椀	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
170	人間型の神話的存在が描かれたカップ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
171	人間型の神話的存在が描かれたカップ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
172	単彩色のアンタラ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
173	階段状雷文の幾何学模様のカップ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
174	頭部が首級になっている人間型の神話的存在が描かれた器	ナスカ後期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
175	トウモロコシの付いた人間型の神話的存在が描かれた器	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
176	スポンディルス貝	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
177	スポンディルス貝	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
178	人間型の神話的存在の頭部が彫刻されたスポンディルス貝	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
179	ビーズのネックレス	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
180	黒曜石のナイフ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
181	黒曜石のナイフ	ナスカ中期	ペルー文化庁・アドルフォ・ジェンキス イカ地方博物館
ナスカ人ーミイラの謎を解く			
182	ナスカの首級「トロフィー」(頭蓋)		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
183	人工変形のあるナスカ女性の頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
184	人工変形のあるナスカ男性の頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
185	人工変形のあるパラカス男性の頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館

NO.	品名	年代	所蔵者
186	頭蓋穿孔（開頭術）跡のあるパラカス女性の頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
187	頭蓋穿孔（開頭術）跡に骨の再生が見られるパラカスの男性の頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
188	大きな頭蓋穿孔（開頭術）跡のあるパラカスの男性頭蓋		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
189	病気の跡のあるミイラ		ペルー文化庁・ペルー国立考古学人類学歴史学博物館
190	ナスカ後期の子供のミイラ		

フランス国立ロダン美術館コレクション

ロダン——創造の秘密

——白と黒の新しい世界

出品リスト

はじめに

- 1 《カミーユ・クローデル《ロダンの肖像》
1892年 ブロンズ 40.4×24.6×28cm
- 2 《カミーユ・クローデルのマスク》
1884年頃? 石膏 23×16.5×17cm
- 3 《青銅時代》
1877年 ブロンズ 181×66.5×63cm

記念像

- 4 《カレーの市民記念像、第1マケット》
1884年11月 ブロンズ 59.7×37.7×32cm
- 5 《ウスターシュ・ド・サン=ピエール(縮小版)》
1902-03年 ブロンズ 47×25×15cm
- 6 《ピエール・ド・ヴィッサン(縮小版)》
1895年または1899年 ブロンズ 45×17×16.7cm
- 7 《ジャン・デール(縮小版)》
1895年 ブロンズ 46×16×21cm
- 8 《アンドリュウ・ダンドル(縮小版)》
1900年 ブロンズ 43×21×21cm
- 9 《ジャン・ド・フィエヌ(縮小版)》
1895年または1899年 ブロンズ 45.7×20×13cm
- 10 《バスティアン=ルパージュ、第1マケット》
1886年 ブロンズ 35.2×27×22cm
- 11 《バスティアン=ルパージュ、高浮彫り》
1893年以前 石膏 77.5×44×24cm
- 12 《バスティアン=ルパージュ、記念像》
1889年 ブロンズ 175×89×85cm
- 13 《ヴィクトル・ユゴー、頭部習作(縮小版)》
1893年以後? ブロンズ 18.8×11.3×13.5cm
- 14 《ヴィクトル・ユゴー(1/3縮小版)、堅琴と月桂樹の枝をあしらった小型台座付き》
1886年6月 ブロンズ 39×18×17.7cm
- 15 《ヴィクトル・ユゴー記念像(通称「パレ・ロワイヤルの」)》
1897年 ブロンズ 155×254×110cm
- 17 《ヴィクトル・ユゴー》
1916-18年 大理石 66.5×84.5×43.5cm
- 18 《バルザック、微笑むマスク》
1891年 石膏 20×16.5×14.5cm
- 19 《バルザック、裸体習作 タイプC(小)》
1892-93年頃 ブロンズ 77×30×39cm
- 20 [ロダン・コレクション]
《ガチョウを手にした子供》
ローマ美術・ハドリアヌス期(117-138) 大理石
28.5×19.7×17.9cm

- 21 《バルザック、裸体習作 タイプG》
1893年頃 ブロンズ 82.5×54.5×34cm
- 22 《バルザック、僧服をまとったトルソ》
1893年頃 石膏 55.5×40.2×26.2cm
- 23 《バルザック、髪を右に垂らした頭部習作(通称「ベルタルに基づく」)》
1894年頃 ブロンズ 25.4×26×25cm
- 24 《バルザック/ジャン・デール、ジャン・デールの頭部をもった裸体習作B(通称「裸体習作B」)》
1894-95年頃 ブロンズ 28.5×8.9×9.4cm
- 25 《バルザック、裸体習作Fの両脚(通称「運動選手の」)》
1895-96年頃 石膏 55.4×33.3×21.4cm
- 26 《バルザック、最後から2番目の頭部習作》
1895-96年頃 石膏 19.5×17.5×18.5cm
- 27 《バルザック、頭巾とレース胸飾りのある衣をまとった習作》
1897年 石膏 113×45.5×42.5cm
- 28 《バルザック、最終習作》
1897年 ブロンズ 108.5×43×38cm

地獄の門

- 29 《地獄の門、第2マケット》
1880年 ブロンズ 16.5×13.9×2.7cm
- 30 《地獄の門、第3マケット》
1880年 ブロンズ 109.8×73.7×28.5cm
- 31 《アダム》
1881年 ブロンズ 197×76×77cm
- 32 《小さなイヴ(小)、丸い台付き》
1883年 ブロンズ 71×23.5×23.9cm
- 33 《地獄の門、左側柱下部》
1884-85年頃 石膏 188.5×47×30cm
- 34 《美しかりしオーミエール》
1885-87年 石膏(着彩) 50.5×30.5×26.5cm
- 35 《地獄の門、ティンパナム左上部、アデルのトルソ付き》
石膏 66.5×48.5×41.3cm
- 36 《アデルのトルソ》
1878年? ブロンズ 16.8×47.5×19.6cm
- 37 《地獄の門、右付け柱中央部(縮小版)》
1902-03年 ブロンズ 27×6.4×2.8cm
- 38 《ダナイス(小)、マケット》
1885年 石膏 22.3×38.7×26.6cm
- 39 《影のトルソ》
1902-04年 ブロンズ 100.5×73×49cm
- 40 《影の巨大な頭部》
1902-04年 石膏 67.8×36×39.2cm

- 41 《墜ちる男》
1882年 ブロンズ 59×40.7×33.3cm
- 42 《私は美しい》
1885年? 石膏 70×35×36.8cm
- 43 《ウゴリーノ》
1882年 石膏 43×36×36cm
- 44 《ウゴリーノの息子のトルソ(大)》
1902-09年 ブロンズ 66×30.1×24.8cm
- 45 《苦悩の頭部》
1901-02年頃? ブロンズ 21.7×22.5×27cm
- 46 《フギット・アモール(去りゆく愛)》
1887年以前 ブロンズ 35.7×44.2×28.7cm
- 47 《地獄に堕ちた女たち》
1890-1900年頃? 石膏 17×16×9cm
- 48 《プシュケ=春、あるいは驚いたニンフ》
1889年 大理石 29.6×48×40.3cm
- 49 《苦悩 no.1》
1888-89年頃 ブロンズ 29.3×16.7×15.5cm
- 50 《3人のセイレンたち》
1887年以前 石膏 30.4×31.8×25.5cm
- 51 《3人のセイレンたち》
1887年以前 ブロンズ 43×45.5×32.5cm
- 52 《瞑想》
1887-88年頃 ブロンズ 60×32.5×29cm
- 53 《腕のない瞑想(大)、あるいは内なる声》
1896年 ブロンズ 146×75.5×55cm

肖像彫刻

- 54 《ド・ゴルベフ夫人》
1906年 石膏 57.3×44.5×29.7cm
- 55 《ド・ゴルベフ夫人》
1906年 ブロンズ 52×41.8×27.9cm
- 56 《ラ・パンセ》
1893-95年 石膏 71.2×42.1×45.1cm
- 57 《ギユスターヴ・ジェフロワ》
1905年 ブロンズ 34×17×22cm
- 58 《グスタフ・マーラーの頭部、タイプA》
1909年 ブロンズ 34×24.2×26.5cm
- 59 《アンリ・ベック(拡大版)》
1904年 ブロンズ 63.5×35.5×31.5cm
- 60 《エレヌ・ド・ノスティッツ》
1902-07年 ブロンズ 23×21.3×12cm
- 61 《花子の胸像、タイプF》
1907年頃 石膏 47.8×24×31cm

- 62 《花子のマスク、タイプC》
1907年頃 石膏 21×14.7×9cm
- 63 《花子のマスク、タイプE》
1907年頃 ブロンズ 18×12.3×9.2cm
- 64 《フナイユ夫人、手で支えられた頭部》
1912-13年 大理石 66.5×88×92.5cm
- 65 《フナイユ夫人、左肩に傾いた頭部を手で支えた胸像》
1898年頃 石膏 23.3×25.6×19cm
- 66 《フナイユ夫人、衣をまとい唐草模様の飾り台にのった胸像》
1898-1900年 ブロンズ 162.5×51×36.5cm
- 67 《眠り》
1894年 石膏 40.2×41.8×30.2cm
- 68 《眠り》
1894年 大理石 48.4×56×47.5cm
- アサンブラージュ**
- 69 《3人のフォーネス》
1896年以前? ブロンズ 24.1×28.1×15cm
- 70 《老いた木、あるいは老いた柏の木》
1896年以前 ブロンズ 39.7×39×27cm
- 71 《翼をつけ卵の上ののったパ・ド・ドウA》
ブロンズ 39×17×20cm
- 72 《詩人とセイレン、マケット》
1909年 石膏 28.7×23.3×17.9cm
- 73 《詩人とセイレン》
1909年 大理石 82×68.7×50cm
- 74 《トリトンとセイレン》
1902年以前 ブロンズ 23.8×26.8×14.3cm
- 75 《花瓶の花々》
1908年 大理石 49.5×61.5×50.5cm
- 76 《小川をまたいで》
1900年以前 石膏 30.5×10.7×19.5cm
- 77 《ヴィーナスの化粧とアンドロメダ》
ブロンズ 50.3×58.4×40.5cm
- 78 《伝道の書》
1899年以前 ブロンズ 24.9×25.8×28cm
- 79 《アサンブラージュ：ケンタウロスのトルソとイリスの小さいトルソ》
1910年頃 石膏 23.2×11.7×13.1cm
- 80 《アサンブラージュ：ケンタウロスのトルソとイリスの小さいトルソ》
1910年頃 ブロンズ 22.9×11.3×13.2cm
- 81 《アサンブラージュ：腕を切られ首なしの地獄に墮ちた女と跪いた裸婦》
ブロンズ 42.5×22.5×17.5cm
- 82 《アサンブラージュ：球の上で跪いて腕も首もない裸婦》
1900-05年頃? 石膏 23.1×14.7×14.7cm
- 83 《ピエール・ド・ヴィッサンとジャック・ド・ヴィッサンの右手》
1885-86年頃 石膏 34×21×12cm
- 84 《ピエール・ド・ヴィッサンとジャック・ド・ヴィッサンの右手》
1885-86年頃 ブロンズ 31×18×19cm
- 85 《右腕》
1900年以前? 石膏 22.6×9.6×8.2cm
- 86 《アサンブラージュ：左前腕と右腕》
1900年頃? 石膏 21.8×11.6×13.5cm
- 87 《二つの右手》
ブロンズ 9.6×6×4.8cm
- 88 《カテドラル(大聖堂)》
1908年 ブロンズ 65×30×30cm
- 89 《悪魔の手、マケット》
1903年 石膏 23.4×36.7×22.8cm
- 90 《悪魔の手》
1903年 大理石 38×64.3×53cm
- 91 《置かれた左手(大)》
1900年以後? 石膏 19.8×39.8×24.8cm
- 92 [ロダン・コレクション]
《牧神パンの笛をつかむ左手》
ローマ美術、帝政ローマ期 大理石
38×31×13.2cm
- 93 《右手、通称「手no.5」》
1890年頃? テラコッタ 10.7×4×2.9cm
- 94 《右手、通称「手no.5」》
1890年頃? 石膏 10.9×4.5×3.2cm
- 95 《右手、通称「手no.5」》
1890年頃? 石膏(着彩) 11×4.6×3.2cm
- 96 《右手、通称「手no.5」》
1890年頃? 石膏 11.5×4.9×3.5cm
- 97 《アサンブラージュ：嘆願する人物像のあるひきつる手》
1907年以前 ブロンズ 44.5×33×27cm
- 98-102 《手を握って伸ばした右腕》
石膏 18.2×4×3.8cm(no. 98, 99, 101, 102)
石膏 15.5×3.7×3.5cm(no. 100)
- 103-107 《折り曲げた右脚》
石膏 10.1×3.2×5.5cm
- 108 《左足》
石膏 6.5×11.5×4cm
- 109-113 《女スフィンクスの小さな頭部》
1886年以前? 石膏 4.5×2.8×4.2cm
(no. 109, 110)
1886年以前? テラコッタ 4.5×2.8×4.2cm
(no. 111)
1886年以前? 石膏 4.8×3×4.4cm
(no. 112, 113)
- 114-119 《シニョンを結った女性頭部》
1890-1900年頃? 石膏 5.6×4.9×6.4cm
- 120 《シニョンを結った女性頭部(台座付き)》
1890-1900年頃? 石膏 12.5×7.7×8.4cm
- 121 《鼻のつぶれた男》
1875年 大理石 44.8×41.5×23.9cm
- 122 《鼻のつぶれた男》
1890年頃? ブロンズ 31.8×18.9×16cm
- 123 [ロダン・コレクション]
《文人の肖像：トウキュディデス(?)》
ローマ美術、フラウィウス朝時代(69-96)
大理石 38.5×21×23cm
- 124 《歩く男のトルソ》
1879年頃-87年以前 ブロンズ 53×27×15cm
- 125 [ロダン・コレクション]
《男性裸体のトルソ》
ローマ美術、紀元1-2世紀? 大理石
24×16.5×10cm
- 126 《円柱上の歩く男》
1900年 ブロンズ 354(柱：270、像：84.5)cm
- 127 《ギガンティ》
1885年 ブロンズ 61.2×18.2×16.2cm
- 128 《接吻の男のトルソ》
ブロンズ 51×41.8×34cm
- 129 [ロダン・コレクション]
《座る子供の裸像》
ローマ美術、紀元2世紀初め? 大理石
36×21.5×19.5cm
- 130 [ロダン・コレクション]
《男性裸体のトルソの断片》
ローマ美術、紀元1-2世紀 大理石
39.5×25.8×15.9cm
- 131 《絶望する若者のトルソ》
1882-99年頃 ブロンズ 26.5×11×13cm
- 132 [ロダン・コレクション]
《古代のマント(クラミス)をまとった男のトルソ》
ローマ美術、紀元2世紀終わり、もしくは3世紀初め
大理石 35×16.1×11.2cm
- 133 《男性のトルソ(通称748)》
ブロンズ 22.4×14.4×9.4cm
- 134 [ロダン・コレクション]
《サチュロス》
ローマ美術、紀元2世紀もしくは3世紀初め
大理石 24.5×14.5×9.6cm
- 135 《男性立像のトルソ、通称「トルソ立像220」》
1885-90年頃? ブロンズ 15.6×7×4.4cm
- 136 [ロダン・コレクション]
《名誉の像=断片：鎧に添えた右脚》
ローマ美術、紀元101年から125年まで 大理石
114.5×69.6×40cm
- 137 [ロダン・コレクション]
《プリアポス=プリアポスとともにあるアフロディテの小像の断片》
ヘレニズム時代 大理石 20×10.3×9.1cm
- 138 《身体をねじって跪く裸婦》
1882-85、1890年頃? 石膏 66×34.5×37.4cm
- 139 《小さな座るトルソA》
1889年以前 ブロンズ 9.2×8.1×8.5cm
- 140 [ロダン・コレクション]
《うずくまった、海から生まれたヴィーナス》
ローマ美術 大理石 16.2×8.6×10.5cm
- 141 《小さなトルソB》
ブロンズ 8.5×5.9×6.1cm
- 142 《モラルのトルソ、通称「座る女のトルソ(大)」》
1899年以前 ブロンズ 38×25×23cm
- 断片と古代美術品**

- 143 [ロダン・コレクション]
《裸のヴィーナス、タイプ「海から生まれた
ヴィーナス」》
ローマ美術、帝政ローマ時代 大理石
29.8×14.5×11.6cm
- 144 《座る女のトルソ(大)》
ブロンズ 33.7×21.2×17.8cm
- 145 《折り》
1909年 石膏 123×49.4×46.5cm
- 146 [ロダン・コレクション]
《美神=三美神群像の断片》
ローマ美術、紀元2世紀初め 大理石
43.5×19.5×14.4cm
- 147 《反った若い女のトルソ(大)》
1909年 石膏 99×45×30cm

素描/版画

- 152 《墓場》
ペン、茶色とグレーの淡彩、グアッシュ、帳簿用紙
に貼付けられたクリーム色の紙 10×16.6cm
- 153 《女と子供》
黒鉛、ペン、茶色の淡彩、野線入りクリーム色の
紙 21.9×17.3cm
- 159 《背中合わせになった2人の裸婦》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 30.9×20.2cm
- 160 《両脚を交差させて両手を肩においた裸
婦立像》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 31.2×20.1cm
- 161 《かかとに腰を下ろした裸婦座像、左横向き》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 36×23cm
- 162 《腕と脚を折り曲げて寝そべった着衣夫
人像》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 32×24.2cm
- 163 《両脚を曲げた裸婦》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 31.3×21cm
- 164 《両腕を首のまわりに折り曲げた裸婦立
像》
黒鉛、擦筆、クリーム色の紙 30.9×19.1cm
- 165 《彼女は待っている》
黒鉛、擦筆、鉛筆の跡、透かしの入ったクリーム
色の紙 23.7×38.2cm
- 167 《ウーダンのサン=ジャック=エ=サン=クリ
ストフ教会の正面(『フランスのカテドラル
(大聖堂)』図版23)》
ペン、黒色インク、クリーム色の紙 17.6×11.3cm
- 169 《世界を導くキュービッド》
ドライポイント、和紙 第2刷
20.2×25.1(31.3×37)cm
- 170 《春》
ドライポイント、ペンと茶色インクで着色した紙
1点もの 14.5×9.8(21.2×16.8)cm
- 176 《ヴィクトル・ユゴー、正面》
ドライポイント、和紙 第2刷
22.5×17.5(24.3×19.1)cm
- 177 《ヴィクトル・ユゴー、正面》
ドライポイント、和紙 第10刷
22.4×15.9(38.8×28)cm

- 180 《アントナン・ブルースト》
ドライポイント、透かしで筋が入った紙 第4刷
23.8×17.8(30.5×21.8)cm
- 181 《アントナン・ブルースト》
ドライポイントの上から、ペン、茶色インクの淡彩
第4刷 23.8×17.8(30.5×21.8)cm
- 182 《軍人の顔の傷》
ドライポイント、ペンと茶色インクで着色した紙
第2刷 17.4×10.7(31.2×22.7)cm
- 183 《軍人の顔の傷》
ドライポイント、ペンと茶色インクで着色した紙
第3刷 17.6×11.2(26×16.5)cm

写真

- 184 クロード・ハリス《短く刈った髪のロダンの
肖像》
ゼラチン・シルバー・プリント 27×17cm
- 187 撮影者不詳《足場の上の考える人、地獄
の門の骨組みの前にて》
鶏卵紙 14.3×9.9cm
- 189 シャルル・ボドマー《アンドロメダ》
ゼラチン・シルバー・プリント 16.4×11.9cm
- 191 シャルル・ボドマー《アントナン・ブルース
トの胸像》
ゼラチン・シルバー・プリント 16.3×11cm
- 192 撮影者不詳《疲労の習作》
塩化銀紙 14.7×18.5cm
- 195 ウジェーヌ・ドリュエ《青銅時代》
ゼラチン・シルバー・プリント 39.6×29.9cm
- 196 ウジェーヌ・ドリュエ《青銅時代、横向き》
ゼラチン・シルバー・プリント 39×17.5cm
- 199 ウジェーヌ・ドリュエ《イヴ、大理石置場
のアトリエにて》
ゼラチン・シルバー・プリント 39.8×30cm
- 200 ウジェーヌ・ドリュエ《大蛇ピュトンを踏
みつぶすアポロン》
ゼラチン・シルバー・プリント 40.2×29.6cm
- 201 ウジェーヌ・ドリュエ《祝福》
ゼラチン・シルバー・プリント 39.7×29.7cm
- 202 ウジェーヌ・ドリュエ《ラ・パンセ》
ゼラチン・シルバー・プリント 39.8×29.8cm
- 204 ウジェーヌ・ドリュエ《国民美術協会展に
おけるバルザックの記念像》
ゼラチン・シルバー・プリント 39.9×29.7cm
- 207 ウジェーヌ・ドリュエ《トーマス・ライアン
の胸像》
ゼラチン・シルバー・プリント 36.4×22.9cm
- 209 ジャック=エルネスト・ビュローズ《シンプ
ソン夫人の胸像》
カーボン・プリント 34×26cm
- 212 ジャック=エルネスト・ビュローズ《永遠の
青春》
ゼラチン・シルバー・プリント 27.2×36.5cm
- 213 ジャック=エルネスト・ビュローズ《影
(大)、庭にて》
ゼラチン・シルバー・プリント 35.6×25.3cm

- 215 ジャック=エルネスト・ビュローズ《苦悩》
カーボン・プリント 43×26cm
- 217 フランソワ・ヴィザヴォナ《苦悩、アトリエ
にて》
カーボン・プリント 18×12.9cm
- 220 ジャン・リメ《考える人》
重クロム酸ゴム・プリント 40.7×25.3cm
- 222 ジャン・リメ《青銅時代》
カーボン・プリント 29.3×22cm
- 224 ジャン・リメ《洗礼者聖ヨハネ》
重クロム酸ゴム・プリント 20.7×14.3cm
- 228 スティーヴン・ホーイス&ヘンリー・コー
ルズ《ピエール・ド・ヴィッサンのための
習作》
カーボン・プリント 24.6×17.4cm
- 231 ジャン・リメ《カレーの市民記念像》
重クロム酸ゴム・プリント 29.4×39cm
- 232 スティーヴン・ホーイス&ヘンリー・コー
ルズ《バルザック像の習作》
カーボン・プリント 16.9×11.6cm
- 233 スティーヴン・ホーイス&ヘンリー・コー
ルズ《円柱上の女スフィンクス》
カーボン・プリント 22.8×17.2cm
- 235 エドワード・スタイクン《目覚め 逆光》
白金写真 25×20cm

* 本展図録に掲載されている作品のうち、所蔵者の都合により静岡展および兵庫展には一部出品されていないものがあります。
* 作者名の記載されていない作品は、すべてオーギュスト・ロダンの作品です。[ロダン・コレクション]は、ロダンが生前に収集した作品です。
* 版画 no.169-183 の大きさのうち、()内は紙の大きさを示します。

収蔵品展

新収蔵品展

4月11日(火)～5月7日(日) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	伊藤若冲派	樹花鳥獸図屏風
2	浦上玉堂	抱琴訪隠図
3	小林清親	川中島合戦図屏風 (裏：龍虎墨竹図)
4	徳川慶喜	風景
5	川村清雄	水辺
6	小栗哲郎	裏のみかん山
7	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	納骨堂
8	オーギュスト・ロダン	ミルボー作『拷問の庭』全20点
9	飯田昭二	Half and Half
10	小池一誠	No.1 石
11	鈴木慶則	非在のタブロー (マグリットによる)
12	鈴木慶則	非在のタブロー (キリコによる)
13	丹羽勝次	箱シリーズ '68
14	前田守一	遠近のものさし (折り尺)
15	前田守一	遠近のものさし

描かれた女性たち／小杉文庫

5月9日(火)～6月4日(日) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	石川欽一郎	田舎の早春
2	太田喜二郎	帰り路 (樵婦帰路)
3	恩地孝四郎	キリストとマリア
4	ク	母と子
5	原勝郎	バガテル公園、パリ
6	佐伯祐三	ラ・クロッシュ
7	宮本三郎	農婦
8	北川民次	タスコの裸婦
9	ク	猫と女
10	ク	雑草の如くⅢ (裸婦)
11	ク	メキシコの女
12	ク	母子像
13	ク	横たわる裸婦とバツタ
14	棟方志功	宗像女妃神の柵
15	ク	飛天の柵
16		天平勝宝四年東大寺写経所請 経文<重要文化財>
17		天平四年山背国愛宕郡計帳断簡 (第一断簡) <重要文化財>
18		古今和歌集卷第一断簡(亀山切)

No.	作者名	作品名
19	北白河院藤原陳子	消息
20		後嵯峨上皇幸西園寺詠翫花和 歌<重要文化財>
21	藤原師時(藤原定家書写)	長秋記断簡
22	藤原定家	明月記断簡
23	松花堂昭乗	酒徳頌
24	本居宣長	和歌詠草 賀茂真淵添削
25	ク	文房四宝和歌懐紙(四首)
26	伝 土佐行秀	歌仙図
27	渡辺広輝	六歌仙図 (藤井高尚和歌賛)
28	渡辺清	清少納言故事図 (田中大秀和 歌賛)
29	中嶋来章	月夜探梅図
30	村瀬雙石	柳に鶯図
31	平野五岳	菊華図 (自賛七言絶句)
32	奥原晴湖	夏景山水図 (自賛七言絶句)

大地の作品たち

9月5日(火)～10月15日(日) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	秋野不矩	天竜川
2	北村さゆり	五月日和
3	曾宮一念	芝浦埋立地
4	香月泰男	冬島
5	鳥海青児	張家口
6	田村一男	北越大雪
7	中川一政	風景 (池袋の麦畑)
8	清川泰次	天と地と-56
9	山口長男	脈
10	中林忠良	転位 '92-地-VI (水源)
11	難波田龍起	石の時間
12	関根伸夫	プロジェクト クレムリン
13	金沢健一	音のかけら 1 ★
14	小池一誠	No.1 石
15	カール・アンドレ	鉛と亜鉛のスクエア
16	高松次郎	布の弛み

イタリアに恋して

10月17日(火)～11月26日(日) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	ガスバル・デュゲ	サビーニの山羊飼
2	サルヴァートル・ローザ	川のある山岳風景
3	ユベール・ロベール	ユピテル神殿, ナポリ近郊ポッツオーロ
4	ヤン・ボト	ボンテ・モッレ[『ローマ周辺の眺め』(全6点)のひとつ]
5	ジョヴァンニ・フランチェスコ・グリマルディ	煉瓦工場のある風景
6	ステファノ・デッラ・ベッラ	《プラトリエーノの眺め》より アベニン山脈
7	〃	《プラトリエーノの眺め》より オークの老木
8	〃	《プラトリエーノの眺め》より 噴水のある小道
9	ジョン・ロバート・カズンズ	ポルティーチからヴェスヴィオ山を望む
10	ジョゼフ・マロード・ウィリアム・ターナー	パランツァ, マッジョーレ湖
11	ステファノ・デッラ・ベッラ	パルナツォス (哲学者の岩山)
12	ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネ	ジョヴァンニ・ベネデット・カステリオーネの天才
13	ジョヴァンニ・バッティスタ・ティエポロ	《カブリッチ》より
14	サルヴァートル・ローザ	イアソンとドラゴン
15	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	《エジプトへの逃避》より
16	ロドルフ・プレスダン	エジプト逃避途上の休息
17	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	《ローマの景観》(全135点)のうち33点より
18	〃	ピラネージ作品のカタログ
19	〃	ローマおよびカンポ・マルツイオの地図
20	〃	納骨堂
21	マルコ・リッチ	神殿とゴシック教会のある廃墟の眺め

描かれた「昭和の風景」—吉田博、曾宮一念など—

11月28日(火)～12月26日(火) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	吉田博	上高地の春
2	中川雄太郎	巴川の夕景
3	〃	静岡駅前
4	柏木俊一	海と畑と森
5	茨木猪之吉	初夏の常念岳
6	須田国太郎	筆石村
7	石川欽一郎	海辺(早川海岸)
8	〃	駿河湾
9	児島善三郎	箱根
10	和田英作	日本平望嶽台★

No.	作者名	作品名
11	曾宮一念	麦秋
12	〃	毛無連峯
13	赤城泰舒	雲 (折原)
14	山口源	明治神宮
15	〃	湧玉池
16	小糸源太郎	春雪
17	島戸繁	静かな漁港
18	木下佳通代	無題
19	斎藤智	Untitled A
20	高島達四郎	伊豆下田港
21	野田哲也	Diary; Jan. 3rd '82, to Izumi
22	〃	Diary; Feb. 27th '83, in Koganei

日本画・浮世絵の魅力●東へ西へ～狩野派・広重など

1月2日(火)～1月28日(日) ●第7展示室

No.	作者名	作品名
1	英 一蝶	琴高仙人図
2	久隅守景	鍋冠祭図押絵貼屏風★
3	狩野常信	波涛・花鳥図屏風
4	狩野周信	蓮池鸞図
5	狩野典信(栄川)	山水図
6	狩野養信(晴川院)	竹雀図屏風
7	歌川広重	東海道五拾三次 (保永堂版) 「三島 朝霧」 「原 朝之富士」 「蒲原 夜之雪」 「由井 薩[土/垂]嶺」 「掛川 秋葉山遠望」 「濱松 冬枯ノ図」
8	歌川国芳	東海道五拾三駅・五宿名所 由井～鞠子
9	〃	東海道五拾三駅・四宿名所 岡部～金谷
10	〃	武蔵野図屏風★
11	大岡雲峰	日金山富嶽眺望図
12	源 琦	四季花鳥図屏風★
13	山口素絢	春秋草花図屏風
14	鈴木松年	日本武尊・素戔鳴尊★
15	小林清親	川中島合戦図屏風 (裏: 龍虎墨竹図)
16	〃	「東京名所図」より

名品コーナー

5月9日(火)～6月4日(日)

左 森一鳳	氷室の節供図
中 ポール・シニャック	サン＝トロペ、グリモアの古城
右 金山平三	千曲川（信濃路の春）

9月5日(火)～10月15日(日)

左 磯辺行久	WORK62-46
中 ポール・ゴーギャン	家畜番の少女
右 和田英作	日本平望嶽台（寄託作品）

10月17日(火)～11月26日(日)

左	富士曼荼羅図
中 ヤン・ファン・ホイエン	レーネン、ライン河越しの眺め
右 三宅克己《白壁の家》	白壁の家（ベルギー、ブリュージュ）

11月28日(火)～12月26日(火)

左 狩野山雪	夏冬山水図★
中 アールト・ファン・デル・ネール	森の風景
右 チャールズ・ワーグマン	富士遠望図

1月2日(火)～2月18日(日)

左 狩野探幽	富士山図
中 ジャン＝バティスト・カミーユ・コロロー	メリ街道、ラ・フェルテ＝ス＝ジュアール付近
右 宮脇愛子	作品12

2月20日(火)～3月25日(日)

左 中山高陽	八州勝地図★
中 岸田劉生	静物（リーチの茶碗と果物）★
右 向井修二	作品

ロダン館第2展示室

彫刻を「撮る」Iーブランクーシの写真・自作への視線ー
6月6日(火)～7月9日(日)

No.	作者名	作品名
1	コンスタンティン・ブランクーシ	子供
2	コンスタンティン・ブランクーシ	子供の頭部
3	コンスタンティン・ブランクーシ	子供の頭部
4	コンスタンティン・ブランクーシ	ナルシス
5	コンスタンティン・ブランクーシ	ボガニー嬢I
6	コンスタンティン・ブランクーシ	ダナイード
7	コンスタンティン・ブランクーシ	鏡をみつめる女

No.	作者名	作品名
8	コンスタンティン・ブランクーシ	マイアストラ
9	コンスタンティン・ブランクーシ	ボガニー嬢II
10	コンスタンティン・ブランクーシ	世界の始まり
11	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《空間の鳥》
12	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《無限柱》
13	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景
14	コンスタンティン・ブランクーシ	アトリエの光景、《雄鶏》

彫刻を「撮る」IIー安斎重男による《地獄の門》ー

7月26日(水)～9月3日(日)

No.	作者名	作品名
1	安斎重男	ロダン《地獄の門》30枚組ディテールより

セーヌの眺め

9月5日(火)～10月15日(日)

No.	作者名	作品名
1	シャルル・メリヨン	ポン・ト・シャンジュ(両替橋)
2	シャルル＝フランソワ・ドービニー	《アトリエ舟で行く》より
3	アルベール・マルケ	《セーヌの岸辺》より
4	石川欽一郎	ムードン風景
5	清水登之	セーヌ河畔

旅するロダン

10月17日(火)～11月26日(日)

No.	作者名	作品名
1	アントニオ・カナル(通称カナレット)	ドーロ風景
2	ジェームズ・アボット・マクニール・ホイッスラー	小さなヴェネツィア
3	荻須高德	イタリア風景(ヴェネツィア)
4	栗原忠二	ローマの夜景
5	石井柏亭	ウイーン
6	栗原忠二	セントポール
7	栗原忠二	ロンドン郊外
8	長谷川潔	南仏風景
9	曾宮一念	スペインの野

★は寄託品。

移動美術館

No.	作者名	作品名	制作年	材質、形状	寸法 (cm)	会場
あこがれの光景						
1	ラファエル・コラン	想い	1904(明治37)	キャンヴァス、油彩	59.0×81.2	
2	曾宮一念	毛無連峯	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	53.0×72.7	
理想郷へのあこがれ 山水画						
3	狩野惟信(養川)	山水図押絵貼屏風	1781-94 (天明1-寛政6)	紙本墨画着色、 六曲一隻屏風	各図139.5×48.5 (総横368.6)	
4	狩野尚信	西湖図屏風	17世紀前半 (江戸初期)	紙本墨画淡彩、 六曲一双屏風	各152.8×347.6	浜北会場 のみ出品
5	塩川文麟	琵琶湖八景図	1853(嘉永6)	絹本墨画淡彩	52.3×85.0	浜北会場 のみ出品
6	中林竹洞	傲董源山水図	1834(天保5)	絹本墨画	132.0×42.6	
日本へのあこがれ						
7	チャールズ・ワーグマン	富士遠望図	1876(明治9)以降	キャンヴァス、油彩	41.2×76.2	
8	チャールズ・ワーグマン	女性 横浜	1876(明治9)	紙、水彩	38.2×25	
日本人画家の見たあこがれの風景						
9	原勝郎	バガテル公園、パリ	1924(大正13頃)頃	キャンヴァス、油彩	73.0×100.0	
10	佐伯祐三	ラ・クロッシュ	1927(昭和2)	キャンヴァス、油彩	52.5×64.0	
11	平賀亀祐	風景 (プロマー・ドワルヌ)	1955-65 (昭和30-40)頃	キャンヴァス、油彩	38.2×55.0	
12	高島達四郎	エトルタ	1970(昭和45)	キャンヴァス、油彩	65.3×91.0	
13	青木達弥	ドオモ(夜景)	1965-70(昭和40年 代-50年代)頃	キャンヴァス、油彩	72.7×60.6	
14	長谷川潔	南仏古村 (ムーアン・サルトゥー)	1925(大正14)	紙、メゾチント	13.6×37.8	
15	長谷川潔	風景	1919-40	紙、水彩	28.5×45.5	
16	駒井哲郎	佛国風景	1954(昭和29)	紙、ビュラン	9.7× 6.9	
ヨーロッパの画家たち						
17	パウル・ブリル	エルミニアと羊飼いのいる風景	1620頃	キャンヴァス、油彩	74.5×106.7	
18	クロード・ロラン	笛を吹く人物のいる牧歌的風景	1630年代後半	キャンヴァス、油彩	99.7×133.3	
19	アシル=エトナ・ミシャロン	廃墟となった墓を見つめる羊飼いの	1816	キャンヴァス、油彩	81×100	
版画に見るあこがれ						
20	アルブレヒト・デューラー	放蕩息子	1496頃	紙、エングレーヴィング	24.8×19.0	
21	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より サン・パオロ・フォーリ・レ・ムーラ聖堂	1746?-1751	紙、エッチング	41.0×60.2	
22	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より ロトンダ広場	1746?-1751	紙、エッチング	40.8×54.3	浜北会場 のみ出品
23	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より スペイン広場	1746?-1751	紙、エッチング	40.1×59.6	
24	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より トレヴィの泉	1746?-1751	紙、エッチング	39.7×59.0	
25	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より マルケルス劇場	1746?-1751	紙、エッチング	40.1×54.4	浜北会場 のみ出品
26	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より 『ローマの景観』より カイウス・ケステイウスのピラミッドとサン・パオロ門	1746?-1751	紙、エッチング	40.6×54.2	浜北会場 のみ出品

No.	作者名	作品名	制作年	材質、形状	寸法 (c m)	会場
27	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より フォロ・ロマーノ、カンピドーリオから望む	1746?-1751	紙、エッチング	40.8×54.3	
28	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『ローマの景観』より コンスタンティヌスのバジリカ	1746?-1751	紙、エッチング	41.5×54.6	浜北会場のみ出品
29	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より エルサレムを出て行く聖家族	1750-53頃	紙、エッチング	18.0×23.7	浜北会場のみ出品
30	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 天使に案内されるマリアと幼な子を抱いたヨセフ	1750-53頃	紙、エッチング	18.1×23.9	
31	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より ピラミッドのそばを通り過ぎる聖家族	1750-53頃	紙、エッチング	17.9×23.6	
32	ジョヴァンニ・ドメニコ・ティエポロ	『エジプトへの逃避』より 頭部が落ちた彫像のそばを通り過ぎる聖家族	1750-53頃	紙、エッチング	18.1×23.5	
反・理想郷						
33	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『牢獄』第2版 (Ⅲ)	1761	紙、エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント	55.6×41.8	
34	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『牢獄』第2版 (Ⅴ)	1761	紙、エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント	57.0×41.6	
35	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『牢獄』第2版 (Ⅶ)	1761	紙、エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント	56.1×41.5	
36	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『牢獄』第2版 (XⅣ)	1761	紙、エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント	41.7×55.6	
37	ジョヴァンニ・バッティスタ・ピラネージ	『牢獄』第2版 (XⅤ)	1761	紙、エッチング、エングレーヴィング、ドライポイント	41.5×55.8	
38	フランシスコ・デ・ゴヤ	『妄』より 恐怖の妄	1815-24	紙、エッチング、アクアチント、ドライポイント	22.0×32.0	
39	フランシスコ・デ・ゴヤ	『妄』より 飛行の妄	1815-24	紙、エッチング、アクアチント、ドライポイント	21.8×32.7	
40	フランシスコ・デ・ゴヤ	『妄』より 誘拐する馬	1815-24	紙、エッチング、アクアチント、ドライポイント	21.3×31.7	
41	ジョン・マーティン	『ミルトン作 失楽園』より 楽園でアダムとイヴの様子をうかがうサタン	1825-27	紙、メゾティント、エッチング	19.3×27.7	
42	ジョン・マーティン	『ミルトン作 失楽園』より 光明の創造	1825-27	紙、メゾティント、エッチング	19.0×27.8	
43	ジョン・マーティン	『ミルトン作 失楽園』より ミカエルの出現を待つアダムとイヴ	1825-27	紙、メゾティント、エッチング	19.0×27.8	

関係法規

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例

(昭和60年12月23日静岡県条例第38号)

改正 平成元年3月29日条例第43号
 平成3年3月19日条例第2号
 平成4年3月25日条例第14号
 平成8年3月28日条例第11号
 平成11年3月19日条例第16号
 平成13年7月24日条例第45号
 平成15年3月12日条例第2号
 平成17年7月15日条例第49号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例をここに公布する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例 (趣旨)

第1条 この条例は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関し必要な事項を定めるものとする。

(設置)

第2条 美術の振興を図り、もって県民の文化の発展に寄与するため、静岡県立美術館（以下「美術館」という。）を静岡市に設置する。

(平3条例2・一部改正)

(観覧料)

第3条 美術館に展示されている美術品を観覧しようとする者は、別表第1に定める額の観覧料を納めなければならない。

(特別観覧)

第4条 知事は、美術館に収蔵されている美術品について学術研究等のために必要があると認めるときは、当該美術品の模写、模造、撮影等（以下「特別観覧」という。）をしようとする者に対して、当該特別観覧を承認することができる。

2 前項の承認には、美術館の管理のために必要な限度において条件を付することができる。

(平3条例2・一部改正)

(特別観覧料)

第5条 特別観覧をしようとする者は、別表第2に定める額の特別観覧料を前納しなければならない。

(使用の承認)

第6条 県民ギャラリー又は講堂（以下「県民ギャラリー等」という。）を使用しようとする者は、知事の承認をうけなければならない。

2 前項の承認には、県民ギャラリー等の管理のために必要な限度において、条件を付することができる。

(平3条例2・一部改正)

(使用の不承認)

第7条 知事は、次の各号の一に該当するときは、県民ギャラリー等の使用を承認しないことができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 管理及び運営上支障があると認めるとき。
- (3) その他その使用を不相当と認めるとき。

(平3条例2・一部改正)

(使用の承認の取消し等)

第8条 知事は、第6条第1項の承認を受けた者（以下「使用者」という。）が次の各号の一に該当するときは、その承認を取り消し、又は使用を制限することができる。

- (1) 前条各号に掲げる理由が生じたとき。
- (2) 第6条第2項の規定により付された条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他不正の手段により使用の承認を受けたとき。

2 前項の場合において、使用者に損害を生ずることがあっても、県はその賠償の責めを負わない。

(平3条例2・一部改正)

(使用料)

第9条 県民ギャラリー等を使用しようとする者は、別表第3に定める額の使用料を前納しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 知事は、特別の理由があると認めるときは、観覧料、特別観覧料又は使用料（以下「観覧料等」という。）を減免することができる。

(観覧料等の不還付)

第11条 既納の観覧料等は還付しない。ただし、知事が特別の理由があると認めるときは、この限りでない。

(職員)

第12条 美術館に事務職員その他の必要な職員を置く。
(協議会の設置)

第13条 博物館法（昭和26年法律第285号）第20条第1項の規定に基づき、美術館に静岡県立美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

(協議会の委員)

第14条 協議会の委員（以下「委員」という。）の定数は、15人以内とする。

2 委員の任期は2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(委任)

第15条 この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。
(平17条例49・一部改正)

附 則

この条例は、昭和61年1月1日から施行する。ただし、第3条から第16条までの規定は、同年4月1日から施行する。

附 則 (平成元年3月29日条例第43号)

- 1 この条例は、平成元年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成3年3月19日条例第2号)

- 1 この条例は、平成3年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行の際現に改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けている者は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例第4条第1項又は第6条第1項の規定により承認を受けた者とみなす。

附 則 (平成4年3月25日条例第14号)

- 1 この条例は、平成4年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成8年3月28日条例第11号)

- 1 この条例は、平成8年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成11年3月19日条例第16号)

- 1 この条例は、平成11年4月1日から施行する。
- 2 この条例の施行前に承認した静岡県立美術館の使用に係る使用料の額は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例別表第3の規定にかかわらず、なお従前の例による。

附 則 (平成13年7月24日条例第45号)

- 1 この条例は、平成13年10月1日から施行する。

附 則 (平成15年3月12日条例第2号)

- 1 この条例は、平成15年4月1日から施行する。

附 則 (平成17年7月15日条例第49号)

- 1 この条例は、平成17年7月15日から施行する。

別表第1 (第3条関係)

(1) 常設展示

利用区分	観 覧 料
個 人	300円
団 体	1人につき 200円

- 備考 1 個人とは、満15歳以上の者であって、中学校及び高等学校の在学者並びにこれらに準ずる者以外のものをいう。
- 2 団体とは、20人以上をいう。
- 3 企画展示と常設展示を併せて観覧する場合の常設展示の観覧料は、減額し、又は無料とすることができる。

(2) 企画展示

1,500円を限度として知事はその都度定める額

別表第2 (第5条関係)

利用区分	特 別 観 覧 料
模 写	1点1日につき 2,000円
模 造	1点1日につき 2,000円
撮 影	1点1回につき 4,000円
熟 覧	1点1日につき 1,000円
原 板 使 用	1点1回につき 3,000円

別表第3 (第9条関係)

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使 用 料	
	10時から17時30分まで	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使 用 料		
午 前	午 後	全 日
10時から12時30分まで	13時から17時30分まで	10時から17時30分まで
7,550円	13,650円	21,200円

一部改正 [平成元年条例43号・4年14号・8年11号・11年16号・13年45号・15年2号]

■静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(平成3年3月26日静岡県規則第24号)

改正 平成5年3月25日規則第13号

平成6年3月10日規則第5号

平成9年3月28日規則第51号

平成12年3月31日規則第17号

平成13年7月24日規則第59号

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則をここに制定する。

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則

(趣旨)

第1条 この規則は、静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例（昭和60年静岡県条例第38号。以下「条例」という。）の施行に関し必要な事項を定めるものとする。

(開館時間及び休館日)

第2条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。ただし、美術館の長（以下「館長」という。）が特に必要と認める場合には、開館時間を変更し、又は休館日に開館し、若しくは休館日以外の日に休館することができる。

(1) 開館時間 午前10時から午後5時30分まで。ただし、入館時間は、午後5時までとする。

(2) 休館日

ア 月曜日（その日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日に当たるときは、その翌日以降の最初の休日でない日。）

イ 12月27日から翌年の1月3日までの日

一部改正〔平成9年規則51号・13年59号〕

(観覧手続)

第3条 常設展示又は企画展示を観覧しようとする者は、条例第3条に規定する観覧料を納付し、観覧券の交付を受けなければならない。ただし、館長が認めた団体については、観覧後に観覧料を納めることができる。

(特別観覧手続)

第4条 条例第4条第1項に規定する特別観覧をしようとする者は、あらかじめ、様式第1号による特別観覧承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、特別観覧を承認したときは、特別観覧承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(県民ギャラリー等の使用手続)

第5条 条例第6条第1項に規定する県民ギャラリー等を使用しようとする者は、あらかじめ、様式第2号による県民ギャラリー等使用承認申請書を館長に提出しなければならない。

2 館長は、県民ギャラリー等の使用を承認したときは、県民ギャラリー等使用承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

(使用の制限)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対して、入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

(1) 館内の風紀若しくは秩序を乱し、又は設備を損傷するおそれのある者

(2) 館内の諸規程に違反し、又は管理運営上支障があると認められる者

(3) その他館長の指示等に違反した者

(譲渡等の禁止)

第7条 第4条第2項又は第5条第2項の規定による承認を受けた者（以下「使用権利者」という。）は、その権利を他人に譲渡し、又は転貸してはならない。（原状回復）

第8条 使用権利者は、その使用を終わったときは、速やかに、県民ギャラリー等を原状に復しななければならない。条例第8条第1項の規定により使用の承認の取消し等の処分を受けたときも、同様とする。（損害賠償）

第9条 美術館の利用者は、自己の責めに帰すべき理由により、美術館の施設若しくは設備を損傷し、又は美術品等を亡失し、若しくは損傷したときは、その損害を賠償しなければならない。

(観覧料等の減免)

第10条 条例第10条の規定による観覧料等の減免は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとし、その減免する額は、当該各号に定める額とする。

(1) 身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(2) 前号に規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときに現に付き添って介護をしている者（障害者1人につき1人に限る。）が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(3) 年齢70歳以上の者が常設展示又は企画展示を観覧する場合 観覧料の全額

(4) 教育課程に基づく教育活動として常設展示を観覧する児童又は生徒を引率する者が常設展示を観覧する場合 観覧料の全額

(5) その他館長が特別の理由があると認める場合 館長が別に定める額

2 観覧料等の減免を受けようとする者は、あらかじめ、様式第3号による観覧料等減免申請書を館長に提出し、その承認を受けなければならない。ただし、前項第1号から第3号までに規定する者が常設展示又は企画展示を観覧するときは、この限りでない。

3 館長は、観覧料等の減免を承認したときは、観覧料等減免承認書を当該申請をした者に交付するものとする。

一部改正〔平成5年規則13号・9年51号・12年17号〕

(観覧料等の還付)

第11条 条例第11条ただし書の規定による観覧料等の還付は、次の各号のいずれかに該当する場合に行うものとする。

(1) 観覧者、特別観覧者又は県民ギャラリー等の使用者の責めに帰することができない理由により観覧、特別観覧又は県民ギャラリー等の使用ができなくなったとき。

- (2) その他館長が特別の理由があると認めるとき。
- 2 観覧料等の還付を受けようとする者は、観覧券又は様式第4号による特別観覧料(使用料)還付申請書を館長に提出しなければならない。ただし、前項第1号に規定する理由に該当する特別観覧料及び県民ギャラリー等使用料の還付については、この限りでない。

(委任)

第12条 この規則に定めるもののほか、美術館の管理に関し必要な事項は、館長が別に定める。

附 則

この規則は、平成3年4月1日から施行する。

附 則(平成5年3月25日規則第13号)

この規則は、平成5年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月10日規則第5号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月28日規則第51号)

この規則は、平成9年4月1日より施行する。

附 則(平成12年3月31日規則第17号)

- この規則は、平成12年4月1日より施行する。
 - この規則の施行の際改正前の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の様式(以下「旧様式」という。)により提出されている申請書は、改正後の静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則の相当する様式により提出された申請書とみなす。
 - この規則の施行の際旧様式により作成されている用紙は、当分の間、調整して使用することができる。
- 附 則(平成13年7月24日規則第59号)
- この規則は、平成13年10月1日から施行する。

様式第1号(第4条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)
特別観覧承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所

氏名

電話番号

次のとおり特別観覧の承認を受けたいので、申請します。

美術品の名称		作者名		点数	
特別観覧の目的					
区分	模写	模造	撮影	熟覧	原板使用
日時	年 年	月 月	日 日	時 時	から から 時まで 時まで
内 訳	模 写	点	日	円	合 計
	模 造	点	日	円	
	撮 影	点	日	円	
	熟 覧	点	日	円	
	原板使用	点	日	円	
備 考					

様式第2号(第5条関係)

(用紙 日本工業規格A4縦型)
県民ギャラリー等使用承認申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所 [法人にあっては、その主たる事務所の所在地]

氏名 [法人にあっては、その名称及び代表者の氏名] ㊦

次のとおり県民ギャラリー等の使用の承認を受けたいので、申請します。

展覧会、講演会の名称		
展覧会、講演等の内容		
使用区分	県民ギャラリー(A・B)講堂	
使用期間	年 月 日() 時 分から 年 月 日() 時 分まで 日間	
入場料等の徴収の有無	有・無	円
主催者名		
連絡責任者及び電話		
後援者名		

(注) 展覧会、講演等の詳細な内容を記載した書類を添えてください。

様式第3号（第10条関係）

（用紙 日本工業規格A4縦型）

観覧料等減免申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊦]

次のとおり観覧料等の減免の承認を受けたいので、申請します。

減免申請の区分	観覧料	特別観覧料	使用料
申請の理由			
日時	年 月 日 () 時 分から 年 月 日 () 時 分まで		
観覧人員			人
県民ギャラリー等使用の場合は、推定入場人員			人
責任者氏名			
責任者電話番号			
観覧料等			円
減免申請額			円

様式第4号（第11条関係）

（用紙日本工業規格A4縦型）

特別観覧料
使用料 還付申請書

年 月 日

静岡県立美術館長 様

住所〔法人にあっては、その主たる事務所の所在地〕

氏名〔法人にあっては、その名称及び代表者の氏名〕[㊦]

次のとおり特別観覧料の使用料の還付を受けたいので、申請します。

特別観覧承認書等の年月日及び文書番号	
還付を受けようとする理由	
還付を受けようとする金額	円

（静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則第10条の表中に掲げる特別の理由及び別に定める額の範囲について）

静岡県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第10条の表中「その他館長が特別の理由があると認めるとき。」

は、次の表の左欄に該当する場合とし、同条の表中「減免する額」は、次の表の右欄に掲げる額とする。

観覧料等を減免する場合	減免する額
大学等の教員、美術館等の学芸員及びその他の研究者が学術研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
小学校、中学校、高等学校及び特殊教育諸学校の教諭が教科研究のために特別観覧するとき。	特別観覧料の全額
新聞社及び出版社等が掲載する記事のために特別観覧する場合であって、美術館の宣伝に役立つと認められるとき。	特別観覧料の全額
静岡県立美術館と実質共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の全額
静岡県立美術館と名義共催で事業を行うために県民ギャラリー等を使用するとき。	使用料の2分の1に相当する額
その他館長が特別の理由があるものと認めるとき。	館長が別に定める額

附 則

この規程は、平成3年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館県民ギャラリー利用規程

（目的）

第1条 静岡県立美術館の組織及び管理に関する条例施行規則（平成3年静岡県規則第24号）第5条及び第12条に基づき、県民ギャラリーの管理を適正に行うため、次のとおりこの規程を定める。

（利用範囲）

第2条 県民ギャラリーは、美術に関する展覧会を開催する場合に利用できる。

2 美術に関する展覧会であっても、収益を目的とする場合は利用できない。

（使用期間）

第3条 使用期間は、原則として1週間（月曜日13時～翌週月曜日12時30分）を単位とし、引き続き使用する場合は最大4週間とする。

2 使用期間は、搬出入を含めて10時から17時30分までとする。

（申込期間）

第4条 申込期間は使用希望する月の6ヶ月前の1日から15日とする。ただし、使用希望日が月をまたがる場合は、翌月使用の申し込みとする。

2 2週間以上の使用で優先使用を希望する場合は、使用希望する月の7ヶ月前の1日から15日とする。

使用希望月	申 込 期 間	優先予約申込期間
4月	前年10月1日～10月15日	前年9月1日～9月15日
5月	前年11月1日～11月15日	前年10月1日～10月15日
6月	前年12月1日～12月15日	前年11月1日～11月15日
7月	1月1日～1月15日	前年12月1日～12月15日
8月	2月1日～2月15日	1月1日～1月15日
9月	3月1日～3月15日	2月1日～2月15日
10月	4月1日～4月15日	3月1日～3月15日
11月	5月1日～5月15日	4月1日～4月15日
12月	6月1日～6月15日	5月1日～5月15日
1月	7月1日～7月15日	6月1日～6月15日
2月	8月1日～8月15日	7月1日～7月15日
3月	9月1日～9月15日	8月1日～8月15日

(申込方法)

第5条 使用しようとする者は、インターネットにより、静岡県施設予約システム「とれるnet」から申し込む。

(設備取り付け等)

第6条 使用者が、施設に特別の設備を取り付け、又は、備え付け以外の備品を使用する場合は、許可を必要とする。

(物品等の販売)

第7条 物品の販売を行うときは、あらかじめ館長の許可を必要とする。

2 展示品の販売は、一切許可しない。

(展示品等の管理)

第8条 使用期間中の展示品等の管理については、主催者が責任を持って行うものとする。

(現状回復義務)

第9条 搬出時には搬入した作品をすべて搬出すると共に、施設等を現状に復し、美術館職員の点検を受けなければならない。残留された物品等に関しては、美術館は一切責任を負わない。

(職員の立ち入り)

第10条 管理上必要があると認めるときは、美術館職員が貸出施設に立ち入ることができる。

附 則

この規程は、平成3年4月1日から施行する。

附 則

この改正は、平成13年10月1日より施行する。

附 則

この改正は、平成15年4月1日より施行する。

■静岡県立美術館専門委員設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館（以下「美術館」という。）の美術品収集等専門的事項を適切に処理するため、美術館に静岡県立美術館専門委員（以下「委員」という。）を置く。

(職務)

第2条 委員は次に掲げる事項について意見を述べる。

- (1) 美術品の選定に関すること。
- (2) その他美術に関する専門的事項に関すること。

(組織)

第3条 委員は6名以内とする。

2 特別の事項を調査する必要があるときは、美術館長は臨時委員を委嘱することができる。

3 美術品の選定については、物件ごとに3人以上の委員又は臨時委員とする。

(委嘱)

第4条 委員及び臨時委員は美術に関する専門的知識を有する者の中から美術館長が委嘱する。

(任期)

第5条 委員の任期は2年とする。

2 委員は再任することができる。

3 臨時委員は当該特別事項の調査が終了したときは退任するものとする。

(委任)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員に関し必要な事項は、美術館長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和61年10月1日から施行する。

2 静岡県立美術館顧問設置要綱（昭和57年9月1日施行）及び静岡県立美術館資料選定委員設置要綱（昭和57年9月1日施行）は廃止する。

■静岡県立美術館資料評価委員会要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館に収蔵する資料を適正に評価するため、静岡県立美術館に資料評価委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組織)

第2条 委員会は、委員5人で組織する。

2 委員会は、別表にある者をもってこれに充てる。

3 委員会に、会長及び副会長を置く。

4 会長には生活・文化部長、副会長には文化振興総室長をもってこれに充てる。

5 会長は、会務を総理する。

6 副会長は会長を補佐し、会長に事故のあるときはその職務を代理する。

(会議)

第3条 委員会は、会長が招集する。

(専門評価員)

第4条 委員会に、専門評価員を置く。

2 専門評価員は、美術館長がこれを委嘱する。

3 専門評価員は、物件ごとに3人以上とする。

4 専門評価員は、会長の求めに応じて個々に独立して物件の価格評価を行い、評価の結果を会長に報告

するものとする。

5 専門評価員は、静岡県立美術館の専門委員を兼ねることができない。

6 専門評価員は、任務が終了したときは解嘱されるものとする。

(庶務)

第5条 委員会に関する庶務は、静岡県立美術館において行う。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が定める。

附則

この要綱は平成3年9月1日から施行する。

附則

この要綱は平成7年4月1日から施行する。

附則

この要綱は平成10年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成11年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成12年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成13年4月1日から施行する。

附則

この改正は平成14年4月1日から施行する。

別表

生活・文化部長 文化振興総室長 生活文化管理室長 文化政策室長 美術館副館長

■静岡県立美術館協議会設置要綱

静岡県立美術館協議会設置要綱をここに制定する。

静岡県立美術館協議会設置要綱

(設置)

第1条 静岡県立美術館の運営を円滑に進めるため、美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として、静岡県立美術館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(協議会の委員)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者の中から、知事が任命する。

2 委員の定数は、15人以内とする。

3 委員の任期は、2年とする。ただし、その委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

4 委員は、再任されることができる。

(協議会の会長等)

第3条 協議会に、会長及び副会長を置く。

2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。

3 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。

4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故のあるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

5 会長及び副会長とともに事故があるとき、又は会長及び副会長がともに欠けたときは、あらかじめ会長が指定した委員がその職務を代理する。

(協議会の会議)

第4条 協議会は、会長が招集する。

2 協議会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(協議会の庶務)

第5条 協議会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会において定める。

附則

1 この要綱は、平成3年4月1日から施行する。

2 第2条第1項の規定にかかわらず、この要綱施行の際現に県立美術館の設置、管理及び使用料に関する条例(昭和60年12月23日条例第38号)第13条に規定する静岡県立美術館協議会の委員に任命されている者は、協議会の委員に任命されたものとみなす。

3 前項の規定により協議会の委員に任命されたものとみなされた者の任期は、平成4年7月31日までとする。

■静岡県立美術館協議会傍聴要領

1 傍聴する場合の手続

(1) 会議の傍聴を希望する方は、会議の開催予定時刻までに、受付で氏名、住所を記入し、事務局の指示に従って会場に入室してください。

(2) 傍聴の受付は先着順で行います。定員になり次第、受付を終了します。

2 傍聴に当たって守るべき事項

傍聴者は次の事項を守ってください。

(1) 会議開催中は、静粛に傍聴すること。発言、拍手その他の方法による可否の表明等をしないこと。

(2) 会場内での飲食、喫煙はしないこと。

(3) 会場内での写真撮影、録画、録音等を行わないこと。ただし、会長の許可を得た場合はこの限りではない。

(4) その他、会議の支障となる行為はしないこと。

3 秩序の維持

(1) 傍聴者は係員の指示に従ってください。

(2) 傍聴者が2の規定に違反したときは、退場していただく場合があります。

組織・名簿

■事務分掌

総務課

- (1)職員の人事及び服務に関すること
- (2)職員の福利厚生及び保健に関すること
- (3)監査に関すること
- (4)文書の収受発送に関すること
- (5)公印の管守及び機密に関すること
- (6)予算・決算その他会計事務に関すること
- (7)美術品及び物品の購入に関すること
- (8)財産及び物品の管理に関すること
- (9)美術館協議会に関すること
- (10)他課の所管に属さないこと

学芸課

- (1)美術品及び美術に関する資料の収集、保管及び展示に関すること
- (2)展覧会の企画及び開催に関すること
- (3)美術品及び美術に関する資料の利用についての指導助言に関すること
- (4)美術に関する専門的、技術的な調査研究に関すること
- (5)美術に関する普及及び創作活動の指導助言に関すること
- (6)美術に関する講演会及び講習会等の開催に関すること
- (7)前各号に掲げるもののほか、美術に関する専門的事項に関すること

	館長	副館長	総務課	学芸課	計
常勤		1人	8人	11人	20人
非常勤	1人			2人	3人
臨時			1人		1人

■美術館協議会

堀 則 雄	静岡市立長田南小学校長
佐 藤 達 雄	静岡県立清水西高等学校長
鎌 田 まり子	NPO静岡県青年団連絡協議会会長
長 野 蝶 子	静岡県地域女性団体連絡協議会副会長
江 崎 善三郎	静岡県文化協会会長
山 本 肇	グランシップ館長
立 田 洋 司	静岡県立大学大学院教授
高 木 敦 子	(有)アムズ環境デザイン研究所代表取締役
岡 野 晃 子	(財)ペルナル・ビュフェ美術館副館長
松 井 純	静岡新聞社・静岡放送社長
島 津 敏 雄	NHK静岡放送局長
岡 本 一 八	(株)丸八真綿取締役
田 嶋 清 子	(株)レ・サンク代表取締役
北 條 博 厚	静岡県立美術館友の会会長

■専門委員

木 村 重 圭	甲南女子大学教授
坂 本 満	金沢美術工芸大学客員教授
潮 江 宏 三	京都市立芸術大学教授
建 畠 哲	国立国際美術館長
辻 惟 雄	MIHO MUSEUM 館長
山 梨 絵美子	東京文化財研究所企画情報部文化財アーカイブス研究室長

■資料評価委員

大 村 義 政	静岡県生活・文化部長
中 沖 英 敏	静岡県文化振興総室長
渡 井 務	静岡県生活文化管理室長
宇佐美 稔	静岡県文化政策室長
渡 井 寿 久	静岡県立美術館副館長

■職員

館 長	宮 治 昭
副 館 長	渡 井 寿 久
総 務 課 長	鷲 山 伊 佐 夫
総 務 係 長	近 藤 久 仁 彦
主 任	新 井 達 也
副 主 任	篠 原 昭 一
主 事	袴 田 尚 子
管 理 係 長	櫻 井 雅 之
主 任	楯 本 壽 徳
主 事	山 本 起 義
学 芸 課 長	小 針 由 紀 隆
主任学芸員	飯 田 真
主任学芸員	山 下 善 也
主任学芸員	南 美 幸
主任学芸員	堀 切 正 人
主 任	福 元 清 志
学 芸 員	新 田 建 史
学 芸 員	川 谷 承 子
学 芸 員	村 上 敬
学 芸 員	泰 井 良
学 芸 員	森 充 代

■非常勤嘱託員及び臨時事務員

非常勤嘱託員	増 田 洋 子
	中 村 有 希
臨時事務員	白 木 悦 子

歳入・歳出決算

■歳入決算

単位：千円

項 目	金 額
美術館観覧料	27,589
共催展収入	63,998
県民ギャラリー等使用料	5,160
財産売払・貸付・運用収入	5,177
助成金等	900
その他	2,223
計	105,047

■歳出決算

単位：千円

項 目	金 額
人件費	170,686
管理費	333,127
運営費	(77,303)
施設管理費	(255,824)
事業費	143,367
企画展事業費	(114,861)
常設展事業費	(10,900)
資料・普及事業費	(17,606)
館藏品取得費	6,387
施設整備費	14,632
基金積立	2,728
計	670,927

建築・設備概要

■建築概要

区分	本館	ロダシオン館
所在地	静岡市谷田53番2号	同左
敷地	県文化センター内(約120,000㎡)	同左
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造、地上2階建 建築面積：6,624.07㎡ 延床面積：9,238.51㎡	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)2階建 建築面積：2,391.25㎡ 延床面積：3,024.36㎡
仕上	外壁：湿式磁器炉器質無釉タイル貼 屋根：緑青銅板大和葺アスファルト断熱防水 床：花崗岩高熱粗面仕上、タイルカーペット 長尺塩化ビニールシート貼 壁：安山岩「由良赤石」半磨仕上	外壁：花崗岩ジェットバーナー仕上、タイル貼、 タイル打込PC板、吹付タイル 屋根：カラスステンレス葺 トップライト(アルミ、複層ガラス) 床：タイルカーペット 壁：大理石、インド砂岩、クロス貼 天井：石綿吸音板、クロス貼、アルミルーバー
工期	昭和59年3月～昭和60年8月	平成4年3月～平成5年11月

■設備概要

区分	本館	ロダシオン館
電気設備	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 変圧器1φ300KVA、3φ400KVAモールド型 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力300KVA 3φ3W6,600V 蓄電池設備 キュービクル式直流電源装置、充電サイリスタ全自動整流器 弱电設備 舞台調光、舞台音響、ITV監視、入館者表示、映像資料(ビデオ)、電話、放送、電気時計、テレビ共聴 防災、防犯設備 警備センター集中監視複合盤(自火報、防排煙)、防犯非常錠制御盤、防災アンプ(180W)、ITV監視装置、地図式表示板	受変電設備 受電電圧6,600V 60Hz 1φ280KVA、3φ350KVA 最大電力800KW 発電設備 ディーゼル機関4サイクル6気筒、1,800rpm 出力200KVA 3φ3W220V 蓄電池設備 屋外キュービクル式直流電源装置 弱电設備 ITV監視、入館表示、ハイビジョン、電話、放送、トイレ呼出表示、調光、テレビ共聴 防災、防犯設備 同左
空調設備	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(150USRT・40USRT)、温水焚吸収冷温水機(30USRT)、空気熱源回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機(150USRT)、プレート式熱交換器(396,300Kcal/h) 蓄熱槽 冷温水槽550㎡・55㎡、ソーラー用20㎡ソーラーパネル 平板型672枚 空調和機 収蔵庫3系統、展示室2系統、県民ギャラリー1系統、その他4系統及びパッケージ型1台、ファンコイルユニット46台、他空冷ヒートポンプパッケージエアコン、ルームエアコン	熱源機器 直焚吸収冷温水発生機(80USRT)2基、蒸気ボイラー(250kg/h)2基、空冷チラーユニット(4.39USRT)プレート式熱交換器(86,000Kcal/h) 冷温水クッションタンク 5㎡ 冷水クッションタンク 1㎡ 空調和機 収蔵庫3系統、展示室4系統、全熱交換器(3台)

区 分	本 館	ロ ダ ン 館
衛生設備	排煙機	ロビー系統他 3系統3台
	給水設備	受水槽30㎡（二槽式）、高架水槽12㎡（二槽式）
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋内消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式11人乗750kg
	荷物用	油圧式3,000kg
衛生設備	排煙機	メイン展示室他2系統4台
	給水設備	空調用自動給水装置受水槽5㎡
	排水設備	公共下水道に放流
	消火設備	展示室、収蔵庫、ハロン消火設備その他屋外消火栓
昇降機設備	身障者用	油圧式23人乗1,500kg

■建設工事費

	本 館	ロ ダ ン 館
建 築	3,802,838 千円	3,415,995 千円
外 構	397,162	268,509
プロムナード	173,300	
合 計	4,373,300	3,684,504

■諸室概要

■本館

実技室（114㎡）

絵画彫刻等実技を伴う学習の場となる。その利用は、通年毎週3～4日の自由工房と不定期に行う技法セミナーや実技講座、ワークショップ等である。

図書閲覧室（約20席）

当館は図書資料の整備にも力を入れているが、これを一般の人々にも利用していただこうと設けられたものである。

学芸の書庫と隣接している。

閲覧室には、2台の端末が設置されており、パソコンを使った美術鑑賞ができるようになっている。

ビデオコーナー（15席）

2階に設けられており、開催している展覧会への導入部としての役割をビデオに行わせるというものである。企画展については展覧会ごとにビデオを作成し放映している。また会場構成が常設展を主体とする場合には、当館製作の郷土作家シリーズ（秋野不矩・北川民次・澤田政廣・芹沢銈介・曾宮一念・中村岳陵）や購入した美術シリーズの放映も行いたいと考えている。なお、ビデオの操作は一階にある学芸員室で行い、現在は自動でくり返し放映をしている。

レストラン（80席 198㎡）

レストラン「エスタ」EST Aは、日本平ホテル直営のレストランで、ダッチコーヒー用のジャンボサイホンが設置してある。営業時間は10:00～18:00（金、土、日は20:00まで）。

ミュージアムショップ

展覧会図録、絵ハガキ、館蔵品目録等の美術館の刊行物、美術書等を販売する場所で、1階のエントランスホール内にある。静岡市内の書店3社による共同経営の形をとっている。

諸室の配置

機能性を最重点に考慮して、学芸関係諸室の配置を考えた。まず、学芸員室と図書室が近いこと、次に搬入、収蔵、展示活動に便利な場所に学芸員室が配置されていることなどである。当然、写真撮影室や燻蒸室も学芸員室を中心として配置され、機能性を重視している。

展示室（7室 1,777㎡）

展示室は2階にあり、連続した7つの部屋から構成され、一部を常設展、一部を企画展とし、企画展の規模によって、自由に部屋を間仕切りして使用している。

展示室は、すべて壁付固定ガラスケースが配されている。また、このケースのすべての前面に移動パネルを設置できるようになっている。これにより全室ガラスケース展示が可能であり、逆に全室パネル展示も可能となる。自由に展示構成が考えられ、部屋の雰囲気が一変する。

このガラスケースには、ケース上部に三本、下部に一本の無紫外線蛍光灯があり、壁ごとに調光可能となっている。

また、パネル展示の場合には、このパネルに均一な照明がなされるよう、ライティング・ダクトが天井に配置してある。あわせて、こちらも壁ごとに調光できるようになっている。

県民ギャラリー（2室 490㎡）

県民の創作活動の発表の場として、個展やグループ展に利用できる。上記展示室同様、可変照明設備、移動展示パネルが設けられている。

講堂（262席 305㎡）

来館者のオリエンテーション、講演会、映画会、小音楽会等、多目的に利用できる。

スライド映写機2台、16mm映写機2台を常備し、調光、音響調整の設備がある。

講座室（約30席 71㎡）

美術に関する講座を行う。常設展では、展示室ごとに各学芸員がテーマを持って各担当の展示をしているので、それに関連した内容の講座を行っている。企画展開催中は、担当学芸員が企画展に関する講座を通常行っている。

スライド映写設備、音響設備がある。

託児・授乳室（12.5㎡）

乳幼児を同伴しているため、十分に美術鑑賞ができない人の利便を図り、より多くの人に芸術文化に親しむ機会を提供するよう、託児・授乳室を開設した。

託児室 毎週土、日曜、祝日

10時30分～16時30分まで

2時間を限度

授乳室 開館日全て

10時～17時30分まで

（夜間開館日は20時まで）

■ロダン館

ロダンフロア（1,461㎡）

高さ20mの天井部にはトップライトを設け、十分な自然光を取り入れることにより室内でありながら、さながら広場のような印象を与えるよう工夫されている。また、高低差のあるスキップ・フロアは、あらゆる角度から彫刻の鑑賞が可能であり、その周囲には高齢者や車椅子利用者が自由に移動できるよう、スロープを巡らしてある。冬季には空調による暖房に加え、電気ヒーター及び温水による床暖房も行っている。

展示室1（98㎡）、展示室2（149㎡）

ロダンに関する様々な情報を提供する部屋として、1階エントランスホールの内側に設けられている。構造的には、ロダンフロアと異なり天井高は標準的で、暖房は空調のみである。展示室1には、地獄門の製造過程の写真パネルやブロンズの製造過程を示す模型及びロダン写真資料（CD-ROM）検索システムが設置されている。また、展示室2にはロダン以前の彫刻等が展示されている。

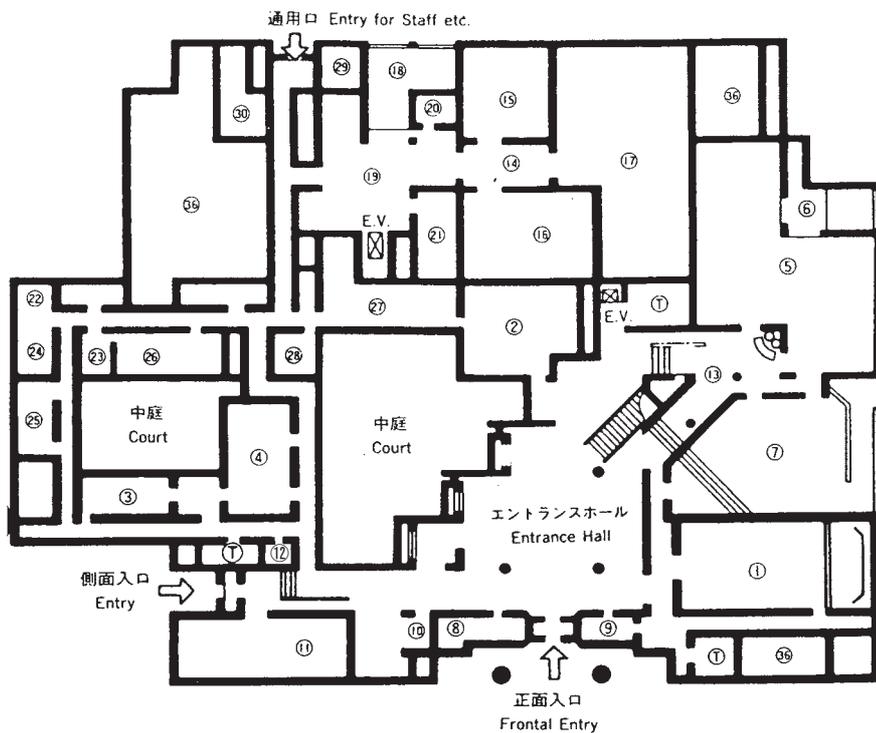
ブリッジ・ギャラリー（276㎡）

本館とロダン館を接続するための通路を兼ねたブリッジ状の展示室で、ロダン以降、現代までの彫刻13点が展示されている。

■平面図

■本館

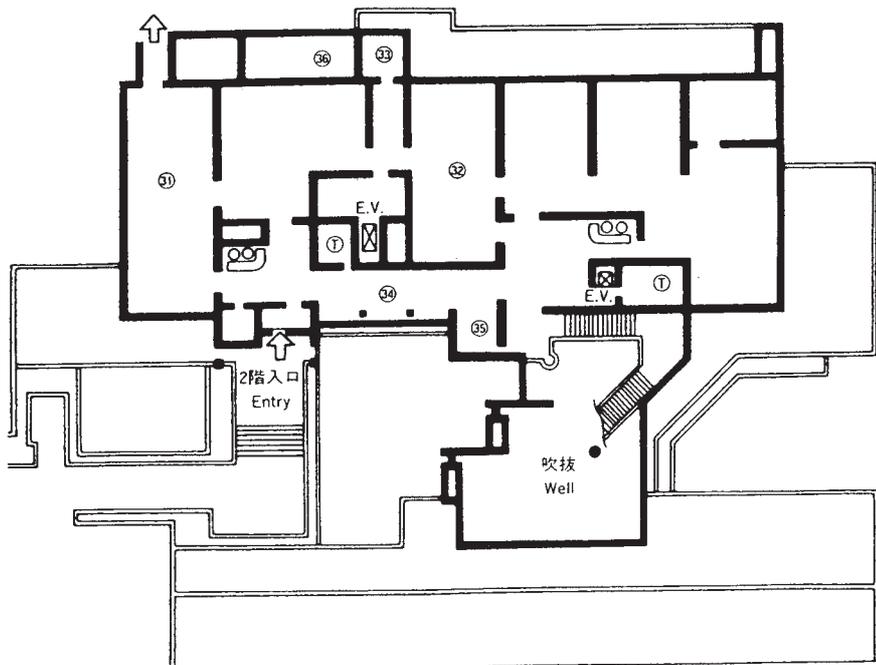
1階 First Floor



- ① 講堂 Auditorium
- ② 図書閲覧室 Library
- ③ 講座室 Lecture Room
- ④ 実技室 Atelier
- ⑤ 県民ギャラリー Gallery for Lending
- ⑥ ギャラリー搬入口 Delivery Room
- ⑦ 展示テラス Terrace for Sculpture
- ⑧ ボランティア室 Volunteer's Room
- ⑨ ロッカールーム Cloak Room
- ⑩ ミュージアムショップ Museum Shop

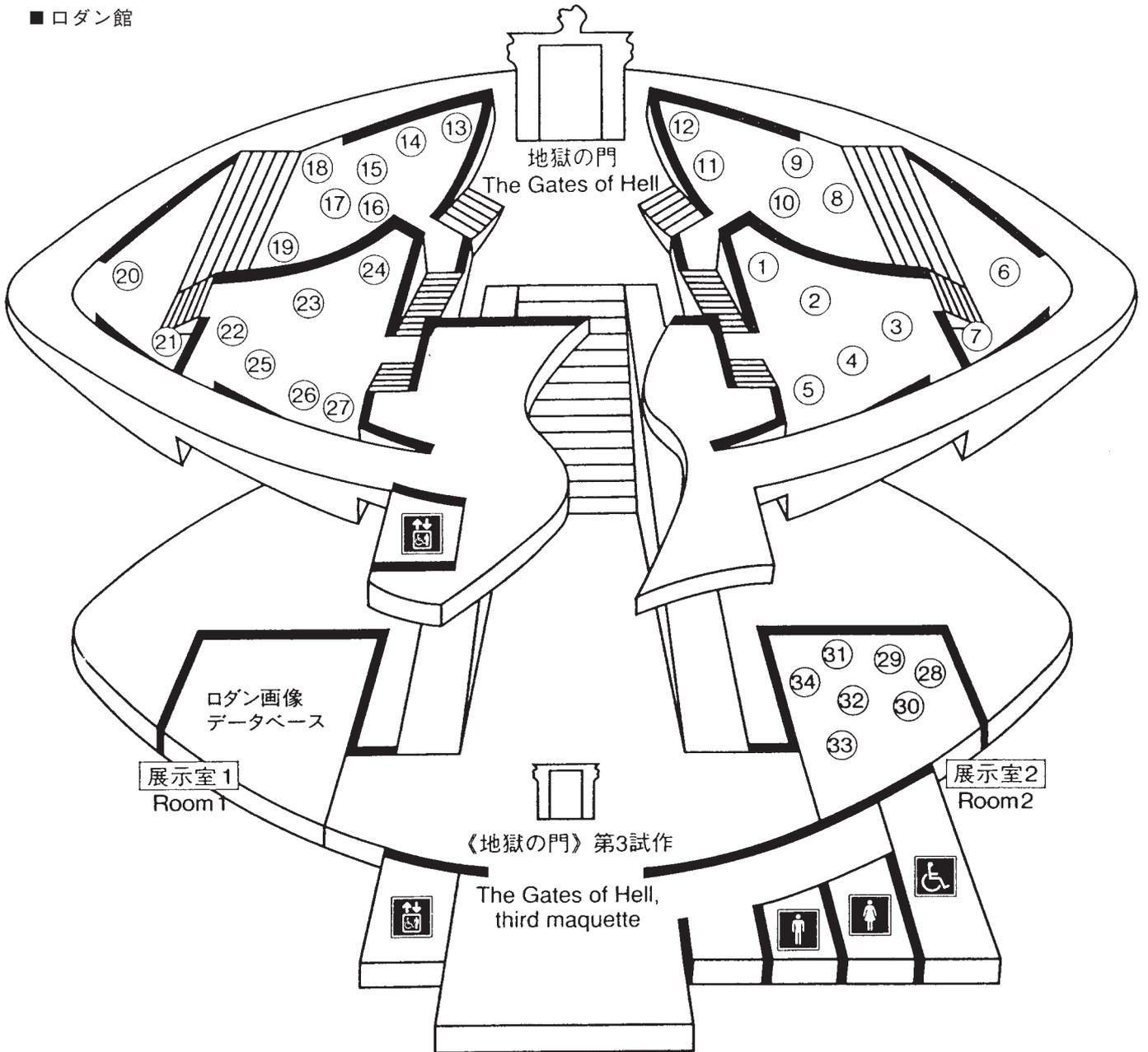
⑩ (次頁へ)

2階 Second Floor



- ⑪ レストラン Restaurant
- ⑫ 託児・授乳室 Nursery
- ⑬ ギャラリー前ロビー Lobby
- ⑭ 収蔵庫前室 Storage Front
- ⑮ 収蔵庫1 Storage(1)
- ⑯ 収蔵庫2 Storage(2)
- ⑰ 収蔵庫3 Storage(3)
- ⑱ 搬入口 Delivery Room
- ⑲ 荷受室 Packing Room
- ⑳ 燻蒸室 Fumigation Room
- ㉑ 写真撮影室 Photo Studio
- ㉒ 館長室 Director's Room
- ㉓ 副館長室 Vice-Director's Room
- ㉔ 応接室 Reception Room
- ㉕ 会議室 Council Room
- ㉖ 事務室 General Affairs Section
- ㉗ 学芸員室 Curatorial Section
- ㉘ 修復室 Restoration Room
- ㉙ 警備員室 Guards Room
- ㉚ 中央監視室 Central Monitor Room
- ㉛ 常設展示室 Gallery for Permanent Collection
- ㉜ 企画展示室 Gallery for Loan Exhibition
- ㉝ ラウンジ Lounge
- ㉞ ロビー Lobby
- ㉟ ビデオコーナー Video Corner
- ㊱ 機械室 Machinery Room
- ㊲ ブリッジ・ギャラリー Bridge Gallery
- ㊳ トイレ W. C.
- E. V. エレベーター Elevator

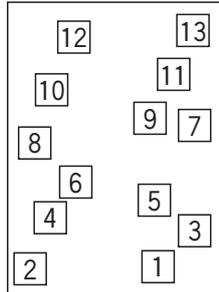
■ロダン館



ロダン, A

- ① 《カレの市民》 ジャン・デール
- ② 《カレの市民》 ジャン・ド・フィエンヌ
- ③ 《カレの市民》 ビエール・ド・ヴィッサン
- ④ 《カレの市民》 ジャック・ド・ヴィッサン
- ⑤ 《カレの市民》 アンドリュウ・ダンドル
- ⑥ 《カレの市民》 ユスターシュ・ド・サン=ピエール
- ⑦ 《カレの市民》 第一試作
- ⑧ ホイッスラーのためのミューズ
- ⑨ 裸のバルザック
- ⑩ バルザックの頭部
- ⑪ 永遠の休息の精
- ⑫ 《永遠の休息の精》のトルソ
- ⑬ 《影》のトルソ
- ⑭ パオロとフランチェスカ
- ⑮ フギット・アモール
- ⑯ 《影》の頭部
- ⑰ 壺をもつカリアティード
- ⑱ シベール
- ⑲ 女のケンタウロスのトルソと絶望する若者
女のケンタウロスと女のトルソ
女のケンタウロスとイリスのためのトルソ
- ⑳ 考える人

ブリッジギャラリー



- ㉑ バッカス祭
- ㉒ 《ラ・フランス》習作
- ㉓ バスティアン=ルパージュ
- ㉔ ヴィクトリア・アンド・アルバートと
呼ばれる女のトルソ
- ㉕ クロード・ロラン
- ㉖ ボードレールの頭部
- ㉗ 花子のマスク

展示室 2

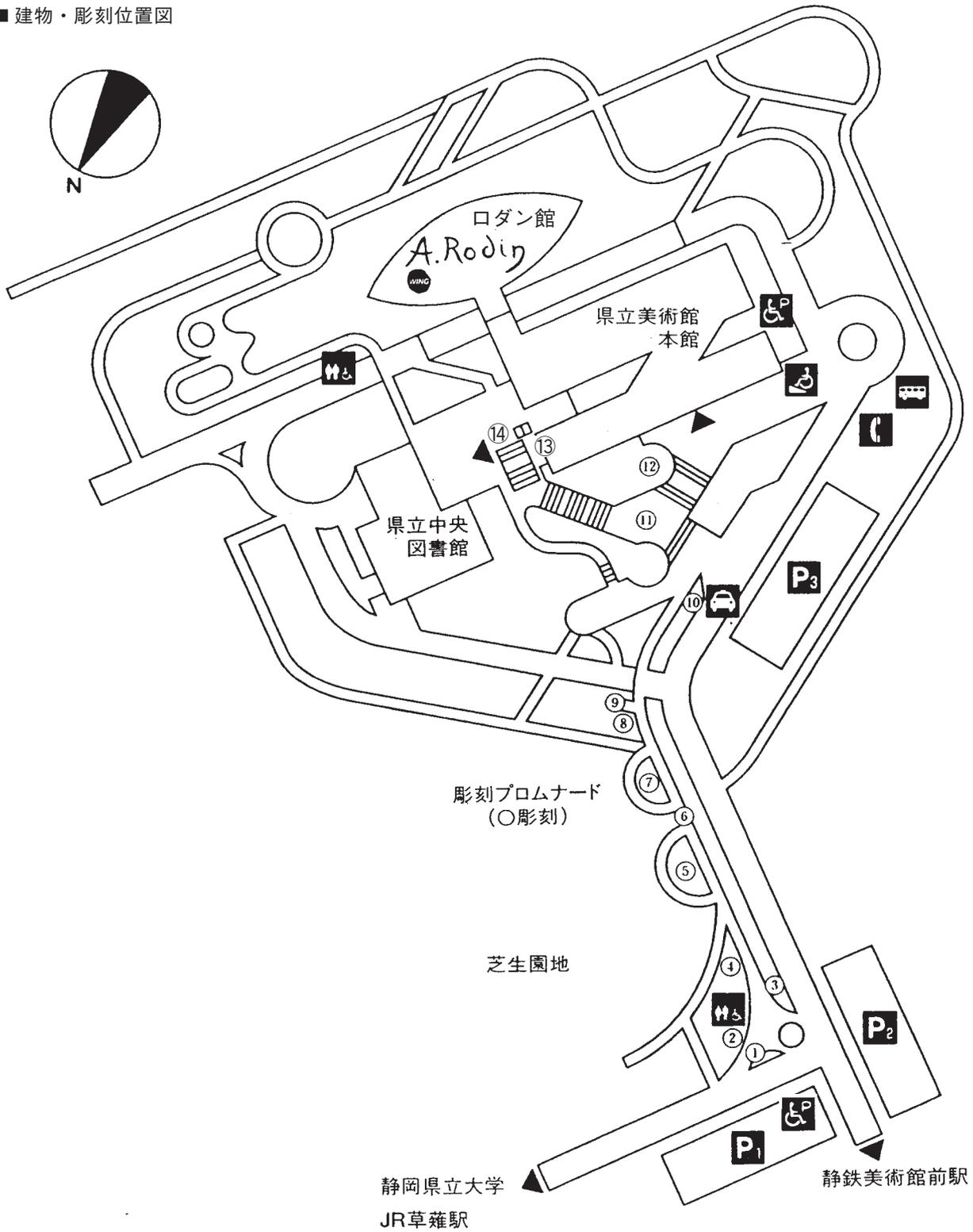
- ㉘ カルポー, J.B./ナポリの漁師の少年

- ㉙ カリエ=ベルーズ, A.E./
ニンフを連れ去るサテュロス
- ㉚ ロダン, A./バラの髪飾りの少女
- ㉛ カルポー, J.B./悲しみの聖母
- ㉜ ダルー, A.J./乳を与えるパリの女
- ㉝ フレミエ, E./蛇使い
- ㉞ バリー, A.L./ライオンと蛇

ブリッジ・ギャラリー

- ① ゴーギャン, P./オヴィリ
- ② バルラッハ, E./読書する僧たちⅢ
- ③ ムーア, H./横たわる人体
- ④ レームブルック, W./女のトルソ
- ⑤ ジャコメッティ, A./横たわる女
- ⑥ アーキベンコ, A./《化粧する女》習作
- ⑦ ブランクーシ, C./ボガニー嬢Ⅱ
- ⑧ リブシツ, J./母と子
- ⑨ ロッソ, M./病める男
- ⑩ プールデル, E.A./アポロンの首
- ⑪ プールデル, E.A./ロダンの肖像
- ⑫ マイヨール, A./《イル・ド・フランス》
のトルソ
- ⑬ クローデル, C./波

■ 建物・彫刻位置図



- ① 杉村孝《しゃぐじんシリーズによる》
- ② J. ロザティ《アークII》
- ③ 舟越保武《杏》
- ④ 山口牧生《四角柱と丸い石》
- ⑤ 清水九兵衛《地簪》
- ⑥ 掛井五郎《蝶》
- ⑦ 大西清澄《涛の塔》
- ⑧ 鈴木久雄《風化儀式V-相関体》
- ⑨ 佐藤忠良《みどり》
- ⑩ 柳原義達《道標・鳩》
- ⑪ T. スミス《アマリリス》
- ⑫ G. リッキー《四つの旋回する斜線-菱形II》
- ⑬ 増田幸雄《風に吹かれて》
- ⑭ 内田晴之《異・空間》

利用案内

■開館時間

午前10時～午後5時30分

(入館は午後5時まで)

[夜間開館] 5月から9月までの毎週土曜日、午後8時まで開館(入館は午後7時30分まで)

■休館日

毎週月曜日(但し、祝日・振替休日の場合は開館し、翌日休館)／年末・年始／その他展示替等のための休館日

■収蔵品展観覧料

観覧料／一般300円(団体200円)

／小・中・高生は無料

■企画展観覧料

*収蔵品展も合わせてご覧いただけます。

展覧会名	一般・大学	小・中・高生
山内一豊とその妻	1,100円 <900円>	500円 <400円>
コレクション20年の熱情Ⅰ	600円 <400円>	300円 <200円>
コレクション20年の熱情Ⅱ	600円 <400円>	300円 <200円>
世界遺産ナスカ展	1,100円 <900円>	500円 <400円>
森鷗外と美術	800円 <700円>	400円 <300円>
第18回富嶽ビエンナーレ展	500円 <400円>	200円 <100円>
ロダン創造の秘密	1,100円 (900円)	500円 <400円>

*〈 〉内は団体(20名以上)及び前売料金

()内は団体(20名以上)料金

*70歳以上の方、または身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は、企画展、収蔵品展とも無料でご覧いただけます。

■施設使用料

(1) 県民ギャラリー

利用区分	使用料	
	10時～17時30分	
入場料を徴収する場合	県民ギャラリーA	16,950円
	県民ギャラリーB	12,750円
入場料を徴収しない場合	県民ギャラリーA	11,300円
	県民ギャラリーB	8,500円

(2) 講堂

使用料		
午前	午後	全日
10時～12時30分	13時～17時30分	10時～17時30分
7,550円	13,650円	21,200円

交通案内 JR「草薙駅」からバス「県立美術館ゆき」で約6分

静鉄「県立美術館前駅」から徒歩約15分

JR「静岡駅」南口からタクシー約15分

美術館所在地 〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2

電話番号 総務課(TEL) 054-263-5755

〃 (FAX) 054-263-5767

学芸課(TEL) 054-263-5857

〃 (FAX) 054-263-5742

美術館友の会事務局 054-264-0897

ミュージアムショップ 054-264-8926

レストラン「エスタ」 054-262-4226





平成18年度
静岡県立美術館年報

編集・発行：静岡県立美術館 ©

〒422-8002 静岡市駿河区谷田53-2 TEL 054(263) 5755

印刷：松本印刷株式会社

〒421-0303 静岡県榛原郡吉田町片岡 2210



Annual Report of
Shizuoka Prefectural Museum of Art, 2006

Edited and Published by Shizuoka Prefectural Museum of Art ©

Printed by MATSUMOTO Printing Co.,Ltd., Shizuoka

Printed in Japan 2007